クボタトラクタ

取扱説明書

M 6830 8230 9030

F-13316

ご使用前に必ずお読みください
いつまでも大切に保管してください

操作装置のシンボルマーク

運転操作及び保守管理のために，操作装置のシンボルマークが使用されています。シンボルマークの意味は下記のとおりですので良く理解して戴き誤操作のないようご注意ください。

	注意マーク
	火気厳禁
	ディーゼル軽油
	燃料計（残量）
	アワーメータ（積算時間計）
	エンジンオイル圧力異常
	水温計
	バッテリ充電異常
	ブレーキペダル連結
	ホーン
	方向指示器表示
	グロー（エンジン予熱）
	エンジン停止
	パーキングブレーキ

	ヘッドライト（上向）
	ヘッドライト（下向）
	作業灯（前）
	作業灯（後）
	超低速（クリープ）
	低速又はアクセル低
	高速又はアクセル高
	デフロック
	油圧コントロールシリンダ（縮み）
	油圧コントロールシリンダ（伸び）
	PTO（切）
	PTO（入）
	前輪駆動（入）

はじめに

このたびはクボタ製品をお買いあげいただきましてありがとうございました。
この取扱説明書は製品の正しい取扱い方法，簡単な点検および手入れについて説明しています。
ご使用前によくお読みいただいて十分理解され，お買上げの製品が秀れた性能を発揮し，かつ安全で快適な作業をするためこの冊子をご活用ください。また，お読みになった後必ず大切に保存し，分からないことがあったときには取出してお読みください。
なお，製品の仕様変更などにより，お買上げの製品とこの説明書の内容が一致しない場合がありますので，あらかじめご了承ください。

⚠ 安全第一

本書に記載した注意事項や機械に貼られた⚠の表示があるラベルは，人身事故の危険が考えられる重要な項目です。よく読んで必ず守ってください。
なお，⚠表示ラベルが汚損したり，はがれた場合はお買上げいただいた購入先に注文し，必ず所定の位置に貼ってください。

注意表示について

本取扱説明書では，特に重要と考えられる取扱い上の注意事項について，次のように表示しています。

⚠ 危険	注意事項を守らないと，死亡又は重傷を負うことになるものを示します。
⚠ 警告	注意事項を守らないと，死亡又は重傷を負う危険性があるものを示します。
⚠ 注意	注意事項を守らないと，ケガを負うおそれのあるものを示します。
重要	注意事項を守らないと，機械の損傷や故障のおそれのあるものを示します。
補足	その他，使用上役立つ補足説明を示します。

3A259-9971-5(カラー)

仕様について

この取扱説明書では，仕様の異なる製品を下記のように表示していますので，お買上げの製品の仕様をお確めのうえ，お間違いのないようお願いいたします。
なお，説明は M9030 仕様を基本とし，M9030 仕様と取扱いが異なる場合はその都度追加説明してあります。

・大きさ別によって..... M6830/M8230/M9030/M9030W

目　次

⚠安全に作業するために ..... ⚠-1
1．安全フレームについて ..... ⚠-1
2．運転前に ..... ⚠-2
3．始動時に ..... ⚠-2
4．運転時に ..... ⚠-3
5．作業機使用時に ..... ⚠-6
6．道路走行時に ..... ⚠-7
7．駐車，格納時に ..... ⚠-8
8．点検・給油・整備時に ..... ⚠-8
9．⚠表示ラベルと貼付け位置 ..... ⚠-11
10．⚠表示ラベルの手入れ ..... ⚠-16

サービスと保証について 1
ご相談窓口 1
補修用部品の供給年限について 1

小型特殊自動車としての取扱い 2
小型特殊自動車取得の届出と標識（ナンバープレート）の取付け 2
免許 2
損害賠償保険について 2
輪距 2

運転に必要な各部の名称 3

運転前の点検 6

エンジンの始動と停止 7
始動のしかた 7
キースイッチ 8
停止のしかた 10
寒冷時の暖機運転 11
バッテリあがりの処置 12

トラクタの運転 13
ならし運転（最初の約 50 時間） 13
運転席回りの調節 14
シートの調節 14
安全フレームとシートベルトについて 14
バックミラー 16
灯火類の操作 16
コンビネーションスイッチ 16
バックランプ 17
ブレーキランプ 17
作業灯 17
発進・走行 18
ブレーキペダル 18
クラッチペダル 19
主変速レバー 19
副変速レバー 19
シャトルレバー 20
クリープ速度 20
前輪駆動レバー 21
DT/倍速スイッチ［AT, B(倍速)仕様］ 21
アクセルレバーとアクセルペダル 23
駐車ブレーキ 23
停車・駐車 24
運転中の作動確認 25
次の場合には，直ちにエンジンを止めてください。 25
イージーチェッカ 25
燃料計 25
水温計 26
トラクタメータ 26
デフロックの使い方 27
４輪デフロックペダル 27
前輪デフロックペダル 27
旋回のしかた 28
坂道での運転 28
ほ場への出入り時の注意 29
道路走行中の注意 29
トラックへの積み・降ろし 30
パワーステアリングの取扱い 31
外部電源取出端子 31
トレーラ用カプラ，予備電源カプラ 31
ローダ作業を安全に行なうために！ 32

油圧・三点リンク・PTO 33
作業機昇降装置 33
ポジションコントロールレバー 33
ドラフトコントロールレバー 33
ミックスコントロール 34
作業機落下速度の調整 34
外部油圧取出し 35
油圧補助コントロールレバー 35
補助コントロールバルブ単複切替えつまみ 36
三点リンク 37
各部の名称 37

目　次

三点リンク（JIS Ⅰ・Ⅱ）の切替え (M6830) 38
ロアーリンク取付け穴の選択 38
リフトロッド（左）の長さ調整 38
トップリンク 39
クイックジョイント 39
リフトロッド（右）の長さ調整 39
チェックチェーン 40
作業機を取付けないときの注意 40
けん引ヒッチ（ドローバ） 41
PTO 41
PTO クラッチコントロールレバー 41
PTO 軸キャップ，PTO 軸カバー 42

タイヤ・ウエイト 43
タイヤ 43
タイヤの空気圧 43
輪距の調整 44
前輪 44
後輪 44
前輪輪距 46
後輪輪距 48
前輪切れ角の調整 50
ストッパ調整要領 50
ウエイト 51
前部ウエイト 51
後輪ウエイト（オプション） 51

後輪アジャスタブルトレッドの取扱い [AT 仕様] 52
後輪油圧アジャスタブルトレッドの取扱い 52
調整手順 52
ミッションオイル 52
後輪輪距表 53

トラクタの簡単な手入れと処置 54
廃棄物の処理について 54
洗車時の注意 54
定期点検箇所一覧表 55
給油（水）一覧表 56
トラクタの給油（水） 56
推奨オイル・グリース一覧表 57
エンジンオイル・ミッションオイル ... 57
グリース 57
ボンネットの開閉 58
ボンネットの開閉 58

日常点検 59
エンジンオイルの量及び汚れ 59
ミッションオイルの量及び汚れ 60
冷却水の量 60
ダストインジケータの点検 61
セパレータの水の排出 61
タイヤの空気圧，及び摩耗，損傷 62
防虫網の清掃 62
ブレーキペダルの遊び・点検 63
駐車ブレーキの作動点検 63
クラッチペダルの遊び・点検 64
メータ・ランプ類の作動 64
50 時間ごとの点検・整備 66
エンジンと始動システムの点検 66
ワイヤハーネス，バッテリ（＋）コードの点検・交換 66
クラッチハウジングの水抜き 66
タイヤ取付けボルトの点検 67
パワーステアリングホースの点検 67
燃料パイプの点検 68
100 時間ごとの点検・整備 68
バッテリ電解液の点検 68
エアクリーナエレメントの清掃 70
ファンベルトの点検・調整 70
クラッチペダルの点検・調整 71
ブレーキペダルの点検・調整 71
グリースの注入 72
200 時間ごとの点検・整備 73
エンジンオイルの交換 73
油圧オイルフィルタカートリッジの交換 73
ラジエータホースの点検 74
トーイン調整・タイロッドの点検 74
燃料タンクの水抜き 75
400 時間ごとの点検・整備 75
エンジンオイルフィルタカートリッジの交換 75
燃料フィルタカートリッジの交換 76
600 時間ごとの点検・整備 76
ミッションオイルの交換 76
前部デフケースのオイル交換 77
前輪ケース左・右のオイル交換 77
前部デフケース前後遊びの調整 78
800 時間ごとの点検・整備 78
エンジンバルブクリアランスの点検 78
1 年ごとの点検・整備 79
エアクリーナエレメントの交換 79
2 年ごとの点検・整備 79
冷却水の交換 79

ラジエータの洗浄 81
ラジエータホースの交換 81
パワーステアリングホースの交換 81
燃料パイプの交換 81
アシストシリンダホース
の交換（オプション） 81
必要に応じた点検・整備 82
燃料の空気抜きのしかた 82
ヒューズの交換 83
スローブローヒューズの交換 83
ランプ類の交換 83

格　納 84
長期格納時の手入れ 84

不調と処置 86
エンジンの不調と処置 86

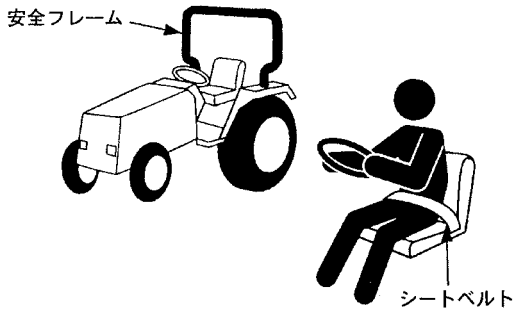
付表 87
主要諸元 87
トラクタの主要諸元 87
走行速度表 88
標準付属品 88
**アタッチメント一覧表
（純正アタッチメント
を使いましょう） 89**
インプルメント一覧表 90
**主な消耗部品一覧表
（純正部品を使いましょう） 91**
補助コン一覧表 92

⚠安全に作業するために　必ず読んでください。

本機をご使用になる前に，必ずこの『取扱説明書』をよく読み理解した上で安全な作業をしてください。安全に作業していただくため，ぜひ守っていただきたい注意事項は下記の通りですが，これ以外にも，本文の中で⚠危険・⚠警告・⚠注意・重要・補足としてそのつど取上げています。

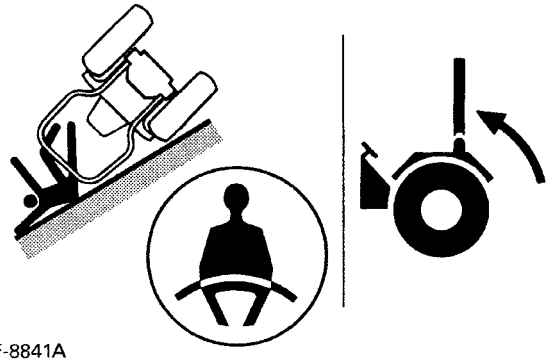
1．安全フレームについて

安全フレームは，万一トラクタが転倒したとき事故の被害を軽減するものであって，転倒事故を防止するものではありません。
注意事項を守って，安全運転を心がけてください。

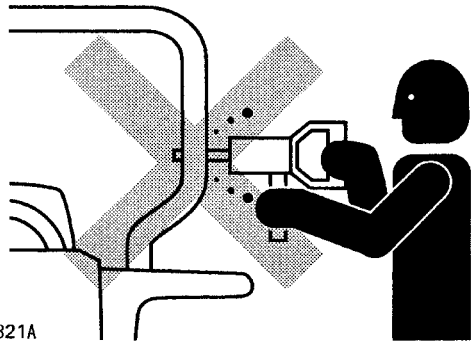


F-8949A

1. 運転時は安全フレームとシートベルトを常に使用するようにしてください。
2. 安全フレームを取外して運転しないでください。
3. 納屋の出入り口等，安全フレームが当たる場合を除き，運転時はいつも安全フレームを立て，確実にロックして使ってください。
   安全フレームを折りたたんだ状態では，万一トラクタが転倒したとき，安全フレームの役目をしません。
4. 安全フレームを立てたときは，運転時シートベルトを常に使用してください。折りたたんだ状態では，シートベルトを使用しないでください。
5. 安全フレームを折りたたんだり，立てたりするときは，平坦な場所で，必ず作業機を地面に降ろし，エンジンを停止し，駐車ブレーキをかけてから行ってください。


F-8841A

6. 安全フレームを改造しないでください。又，強度に影響する破損，曲がりなどが発生した場合，交換してください。


F-8821A

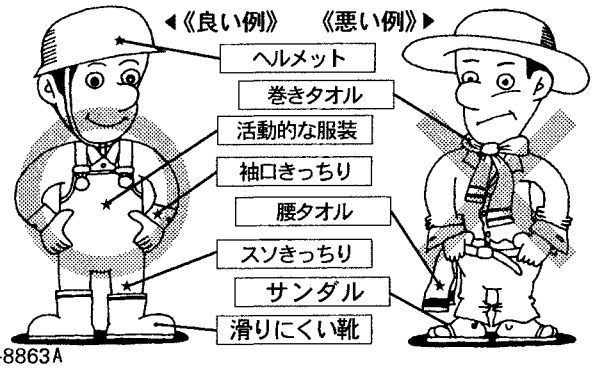
2．運転前に

1. トラクタを動かす前に，トラクタ及び装着している作業機の取扱説明書と機械に貼ってある⚠表示ラベルをよく読み，理解した上で運転してください。
2. トラクタ，作業機を他人に貸すとき，又，運転させるときは，事前に運転のしかたを教え，本書を読ませてください。
3. 本書及びラベルの内容が理解できない人や子供には絶対運転させないでください。
4. 飲酒時や体調が悪いとき，病気や妊娠しているときは，トラクタを運転しないでください。

F-8822A

5. ダブダブの衣服やかさばった衣服を着用しないでください。回転部分や操縦装置にひっかかり事故の原因になります。
   安全のため，ヘルメット，安全靴，保護めがねや手袋などを必要に応じ使ってください。
6. トラクタを改造しないでください。改造すると，トラクタの機能に影響を及ぼすばかりか人身事故にもつながります。
7. 安全カバー類を外した状態でトラクタ，作業機を使用しないでください。］紛失したり損傷した部品は交換してください。ブレーキ，クラッチ，ステアリングや安全装置などの日常点検を行ない摩耗や損傷している部品があれば，交換してください。又，定期的にボルトやナットがゆるんでいないか点検してください。（詳細は［**トラクタの簡単な手入れと処置**］の章参照）
8. トラクタは常に清掃しておいてください。バッテリ，配線，マフラやエンジン周辺部にゴミや燃料の付着などがあると火災の原因になります。

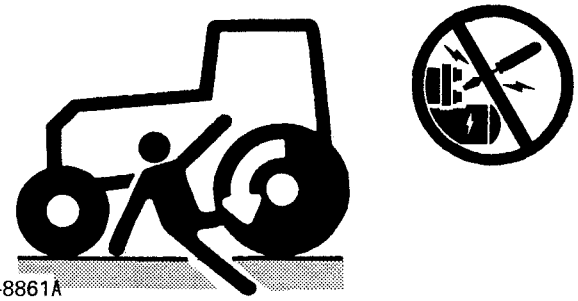
作業時の服装



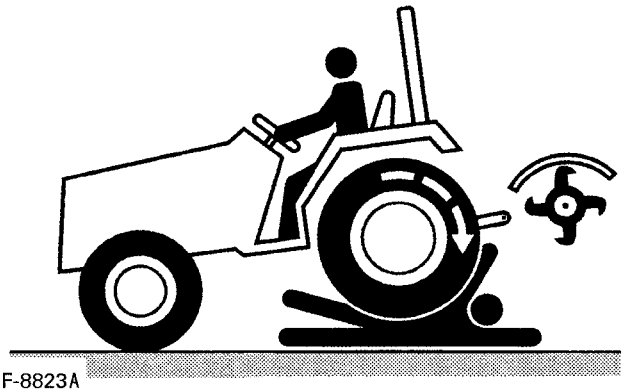
F-8863A

3．始動時に

1. エンジンを始動する前に，必ずシートに座り，主変速やシャトルレバーが［**中立**］かどうか，又，駐車ブレーキが掛かっているかを確認してください。
   PTO クラッチも［**切**］にしてください。
2. 地上に立ってエンジンを始動したり，スタータ端子や安全スイッチを直結してエンジンを始動しないでください。トラクタが突然動き出すおそれがあります。


F-8861A

3. トラクタを始動，運転するときは前後左右をよく確認し，付近に人（特に子供）を近づけないでください。
もし変速ギヤーが入っていると車体が動いたりロータリが回転したりして事故になるおそれがあります。
又，安全キャブに当たる障害物がないかも確認してください。

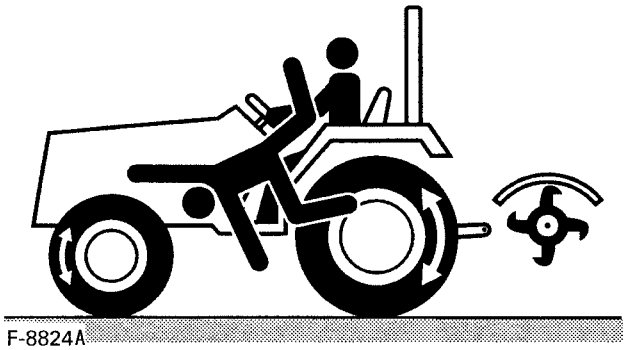


F-8823A

4．運転時に

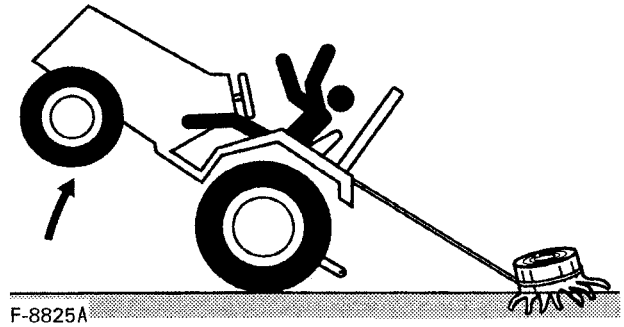
1. 子供はもちろん運転者以外の人を乗せてトラクタを運転しないでください。
又，必ずシートに座って運転してください。

- 重大な死傷事故を防ぐために絶対に運転中は他の人をステップに乗せないでください。（ステップに乗ると滑りや過大な力による破損により落下し後輪タイヤに巻き込まれる可能性があります）



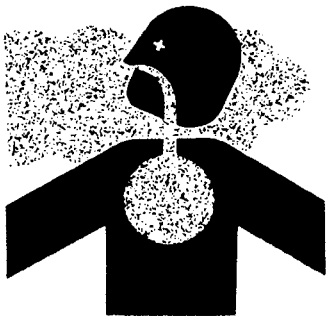
F-8824A

2. けん引作業には，けん引ヒッチを用い，絶対に車軸やトップリンクブラケットなどで引張らないでください。
トラクタの破損や転覆の原因となります。



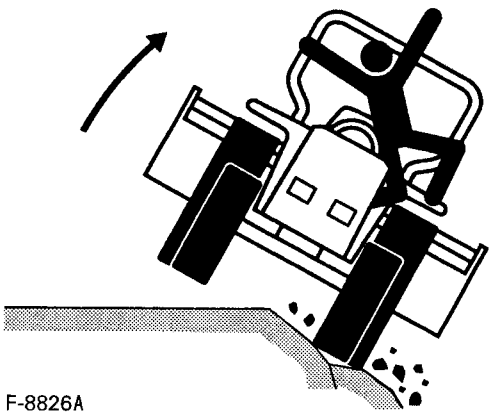
F-8825A

3. 換気が不十分な所では，暖機運転や作業はしないでください。
排気ガスにより一酸化炭素中毒のおそれがあります。



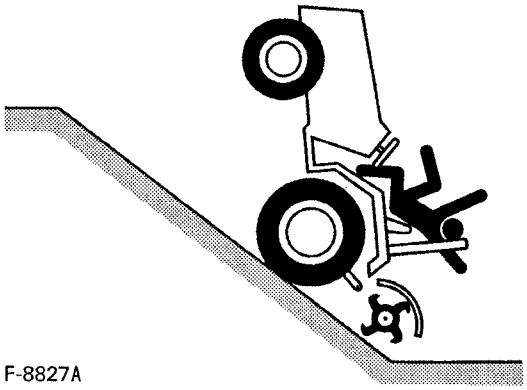
F-8842A

4. 溝や穴の近く，路肩などトラクタの重みでくずれやすい所では運転しないでください。
また，草の繁ったところや水たまりなどには，隠れて見えない窪地がある場合があり，トラクタが落ち込むと転倒することがあります。
そういう所は必ずトラクタから降りて確認してください。



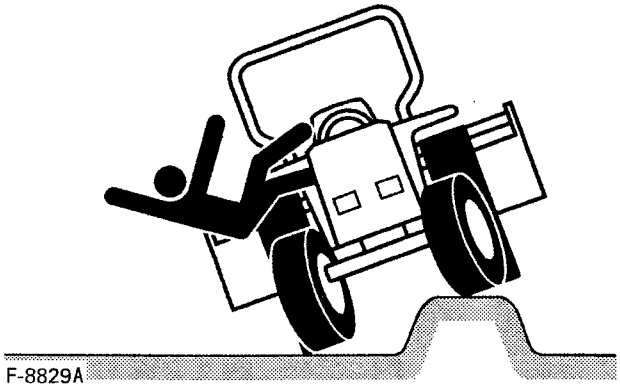
F-8826A

5. 溝やぬかるんだ所から前進で脱出したり，急な坂を前進で登るとトラクタが後方に転覆する危険があります。
このような所では，バックで運転してください。
6. 共同で作業をするときは，声をかけあって，お互いにしようとしていることを知らせてください。



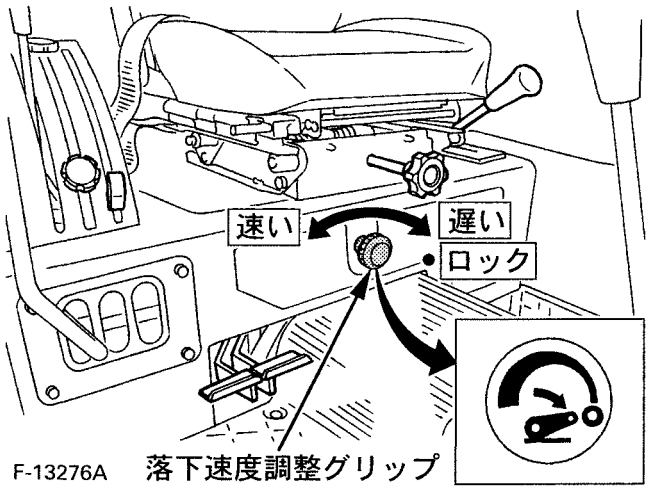
F-8827A

7. ほ場の出入りなどで，急傾斜の上り降りや溝越えは，低速にして直角に進行してください。
その際，必ず左右のブレーキペダルを連結し，デフロックの解除を確認してください。



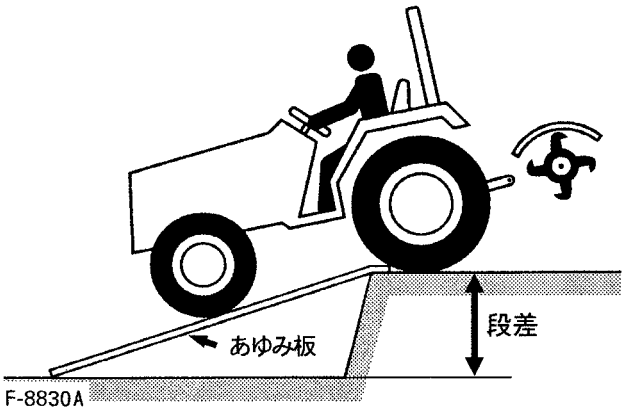
F-8829A

8. ほ場外では，落下速度調整グリップで油圧ロックをして作業機の落下を防止してください。
遅い方向に締めきるとロックします。



F-13276A　落下速度調整グリップ

9. ほ場の出入りなどで，高低差の大きい急傾斜の登り降りや，溝越えが必要な場合，あゆみ板を使用し，確実に固定してから低速で行なってください。
あゆみ板は段差の４倍以上の長さのものを使用してください。
10. 急な坂道・車両への積込み積降ろし・ほ場への出入り・畦の乗越えなどでは途中で変速すると危険ですので，あらかじめ安全な遅い変速位置に入れて運転してください。



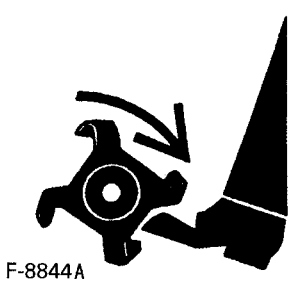
F-8830A

11. ほ場以外や高速走行時，倍速ターンを使用すると，旋回時急に回り事故を引起こす恐れがあります。
必ずDT/倍速スイッチを **[2WD]** 又は **[4WD]** に切換えてください。

1AGALAFAP0590

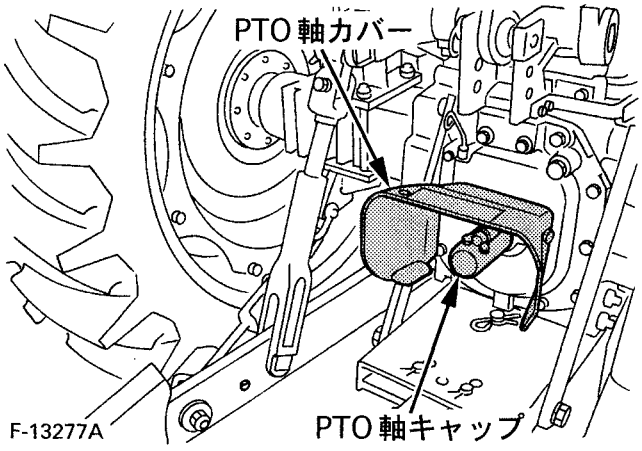
5．作業機使用時に

1. 作業機の着脱は，平坦で安全な場所で行なってください。
2. トラクタから降りるときや，ロータリなどPTO作業機の装着・取外し・調整・掃除又は修理をするときは，作業機が完全に止まるまで待ってください。


F-8844A

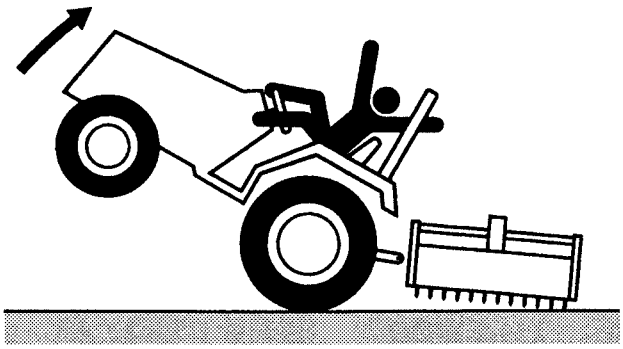
F-8845A

3. PTOを使用しないときは，PTO軸キャップを装着しておいてください。
4. PTO軸カバーは常に取付けておいてください。
5. PTO作業機は，その作業機で定められたPTO回転以上で使用しないでください。
機械の破損や人身事故のおそれがあります。

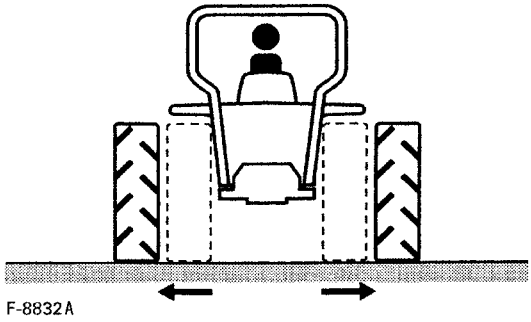


F-13277A

6. トラクタ後部用作業機を装着したとき，かじ取り車輪（前輪）にかかる荷重が総重量の 20%以上になるようにバランスウエイトを装備し，使用してください。
前部が軽くなりすぎると，操縦が難しくなり転倒事故のおそれもあります。
7. 作業機はトラクタに推奨されているものを使用してください。
大きすぎたり，小さすぎたりしてバランスの悪い作業機は機械の破損や人身事故にもつながります。詳細は購入先にご相談ください。

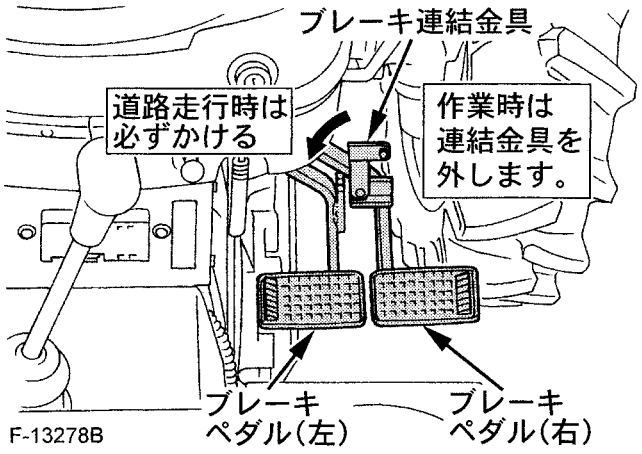

F-8831A

8. 傾斜地作業，フロントローダ作業などでは，安定を良くするために，支障のない範囲で輪距（タイヤ中心間の距離）を大きくしてください。

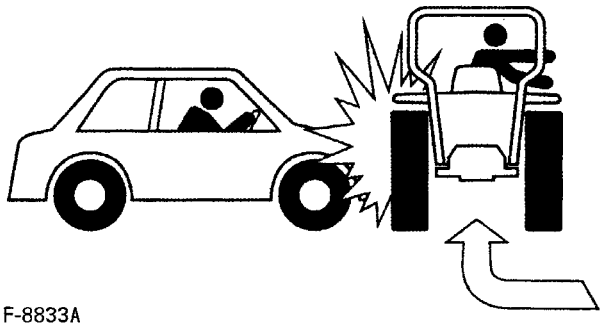

F-8832A

6．道路走行時に

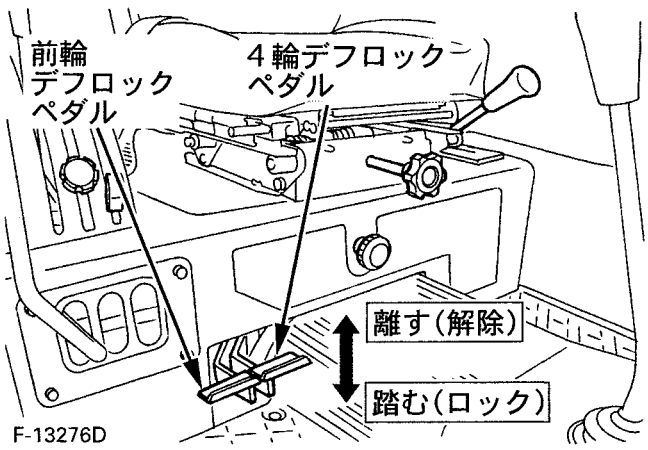
1. 道路走行時は，左右のブレーキペダルを連結してください。
   高速走行で誤って片ブレーキをかけるとトラクタが振られ転倒や事故のおそれがあります。



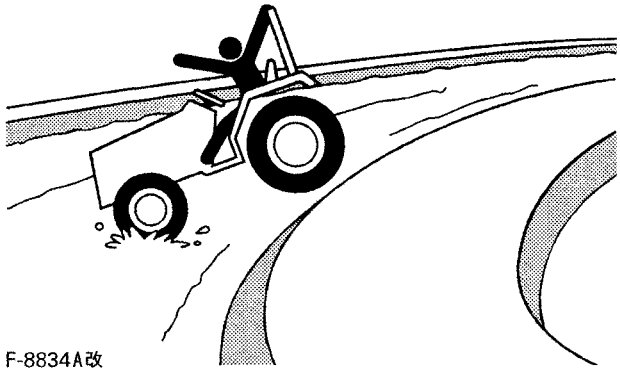
F-13278B


F-8833A

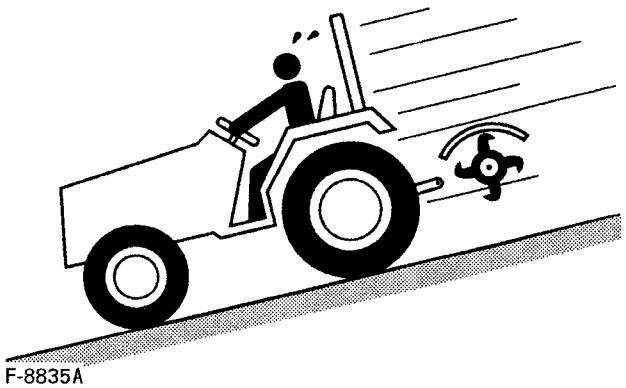
2. 道路走行時は絶対にデフロックを使用しないでください。
   ハンドル操作が出来なくなります。
3. 旋回する前にはトラクタの速度を落としてください。
   高速で旋回するとトラクタが転倒するおそれがあります。



F-13276D


F-8834A改

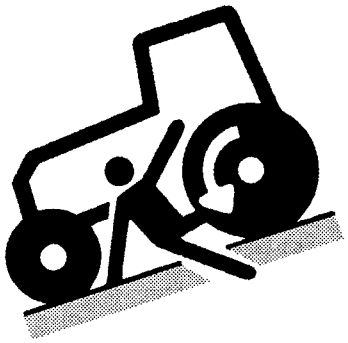
4. 坂を降りるとき，クラッチを切ったり，変速を中立にして惰性で走行しないでください。
   操縦ができなくなるおそれがあります。
5. 交通や安全規則を守ってください。
   運転免許証は必ず携行してください。



F-8835A

7．駐車，格納時に

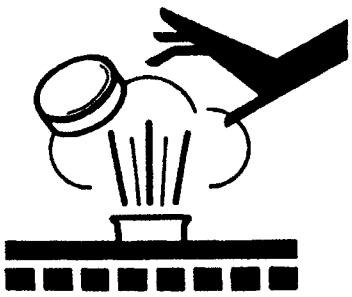
1. 駐車するときは，平坦でトラクタが安定する場所を選び，ＰＴＯを［**切**］，作業機を［**下げ**］，変速レバーを［**中立**］，駐車ブレーキを［**掛け**］，エンジンを［**停止**］してキーを抜いてください。
   やむをえず坂道で駐車する場合は，タイヤに車止めをしてください。
2. 乾いた草やワラなど可燃物の堆積した場所には，駐車しないでください。
3. 格納などでトラクタにシートをかける場合は，マフラやエンジンが充分冷えてから行ってください。



F-8843A

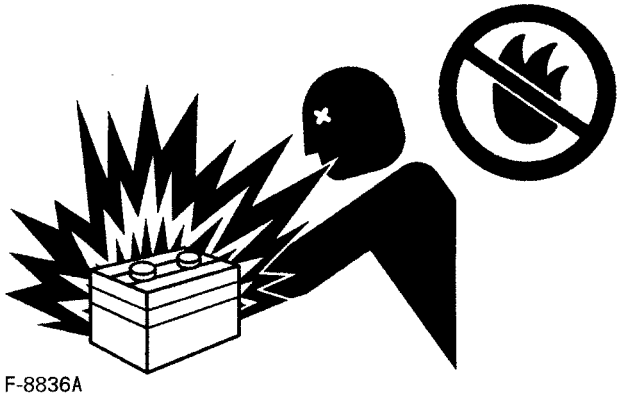
8．点検・給油・整備時に

1. 平たんな場所に駐車し，作業機を［**下げ**］，駐車ブレーキを［**掛け**］，変速レバーを［**中立**］にし，そしてエンジンを停止してください。
2. エンジン・マフラ・ラジエータなどが充分冷えてから点検整備してください。
   ヤケドの恐れがあります。

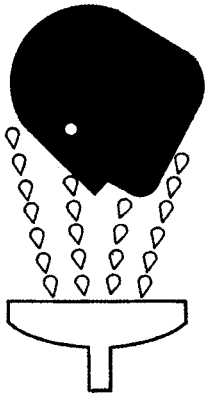


F-8846A

3. 燃料を補給するときやバッテリを充電しているときは，タバコを吸ったり，火を近づけないでください。
   バッテリは充電中可燃性ガスが発生し，引火爆発のおそれがあります。
4. 放電したバッテリにブースタケーブルなどを接続して始動するときは，取扱方法をよく読みそれに従ってください。（上手な運転のしかたの章［**バッテリあがりの処置**］を参照）
5. バッテリは液面が　LOWER（最低液面線）以下になったままで使用や充電をしないでください。
   LOWER以下で使用を続けると電池内部の部位の劣化が促進され，バッテリの寿命を縮めるばかりでなく，爆発の原因となることがあります。
   すぐにUPPER LEVEL（上限）とLOWER LEVEL（下限）の間に補水してください。（補水可能なバッテリ）
6. バッテリをはずすときは，短絡事故を防ぐため，最初にバッテリのマイナスコードを外し，接続するときは最後に接続してください。
7. バッテリ液は希硫酸なので扱いには注意し，体や衣服に付けないようにしてください。
   もし目や体に付着した場合はすぐ水で洗って，すみやかに医師の診療を受けてください。

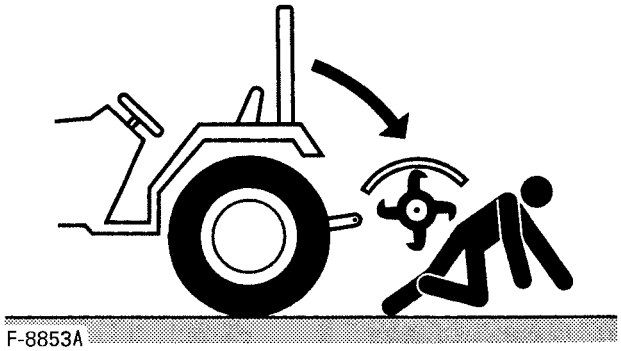


F-8836A



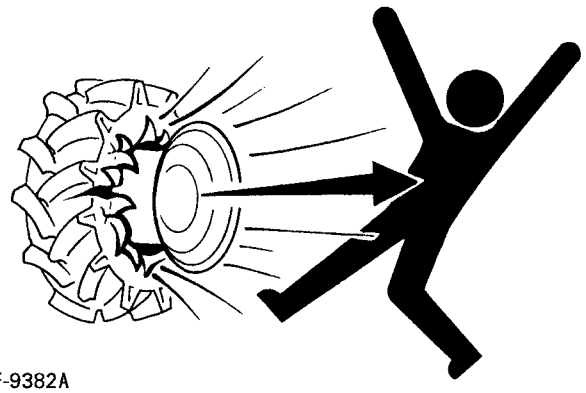
F-8837A

8. ３点リンク作業機を上げた状態で点検整備を行う場合，必ず落下調整グリップで作業機が落下しないようにロックしてください。
   ロックするとともに適切なジャッキ又はブロックで落下防止の歯止めをしてください。



F-8853A

9. タイヤの空気圧は，取扱説明書に記載している規定圧力を必ず守ってください。
   空気の入れ過ぎは，タイヤ破裂のおそれがあり死傷事故を引き起こす原因になります。
10. タイヤに傷があり，その傷がコード（糸）に達している場合は，使用しないでください。
    タイヤ破裂のおそれがあります。
11. タイヤ，チューブ，リムなどの交換，修理は，必ず購入先にご相談ください。
    （特別教育を受けた人が行うように，法で決められています。）

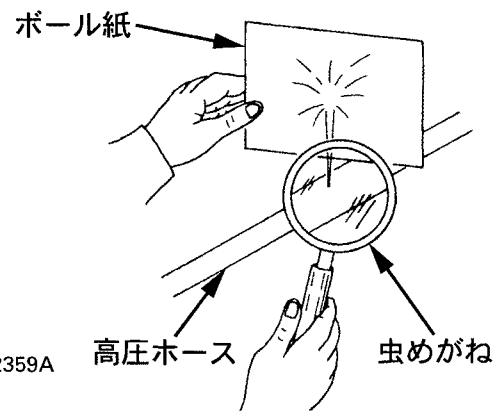


F-9382A

12. 圧力がかかり噴出した油は，皮膚に浸透する程の力があり，傷害の原因になります。
    油圧部品を外すときは，必ず残圧を抜いてください。

F-8847A

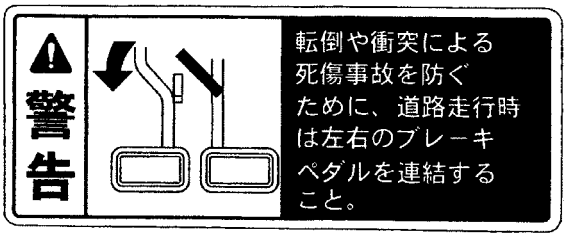
13. 見えない小さな穴からの油漏れを探すときは，保護めがねをかけ，ボール紙などを利用してください。
    万一，油が皮膚に浸透したときは，強度のアレルギーを起こすおそれがあるので，すぐ医師の診療を受けてください。

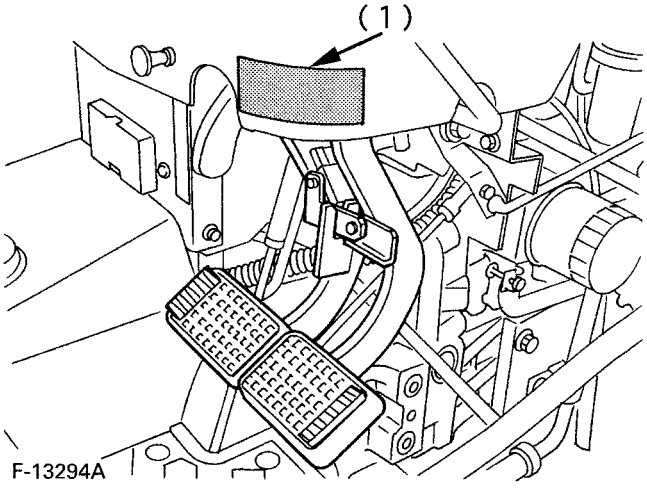


F-2359A

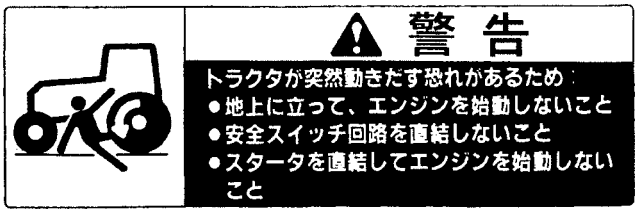
9. ⚠表示ラベルと貼付け位置

(1) 品番 3A259-9847-0

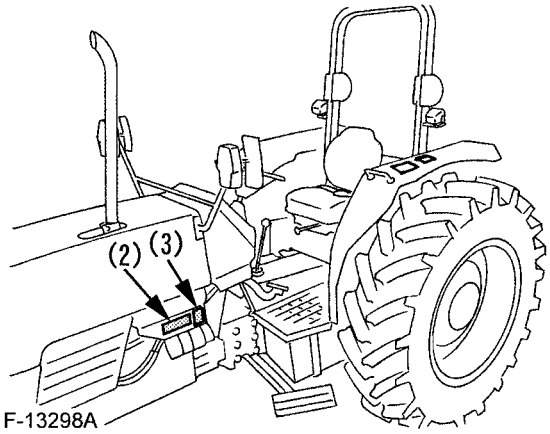




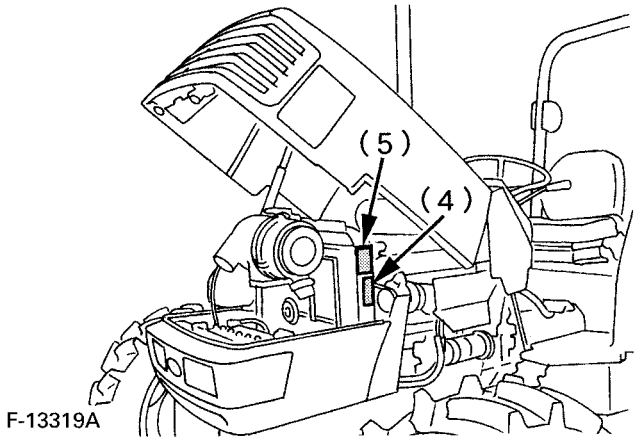
(2) 品番 T0180-4965-2



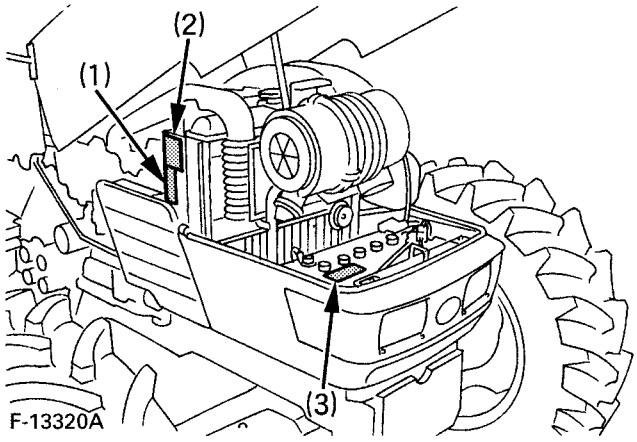
(3) 品番 T0180-4958-0



(4) 品番 T0180-4957-0 (5) 品番 T0180-4954-0

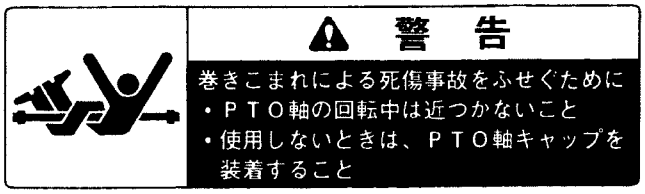


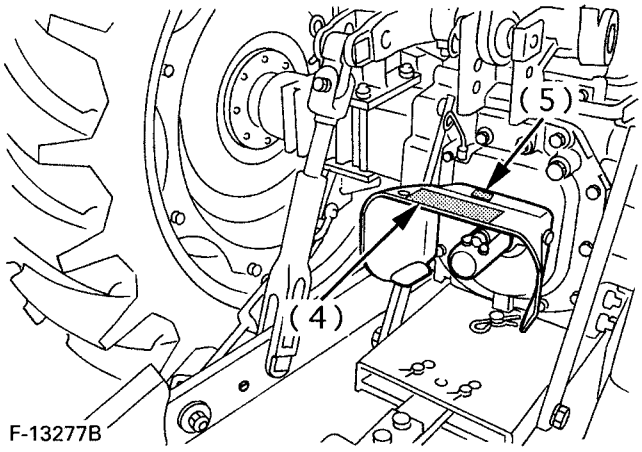
(1) 品番　T0180-4957-0　(2) 品番　T0180-4954-0



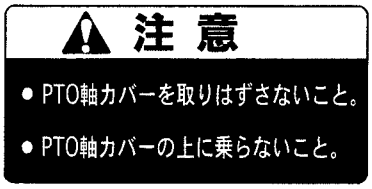
(3) 品番 T1060-3009-0

(4)　品番 T0180-4959-0

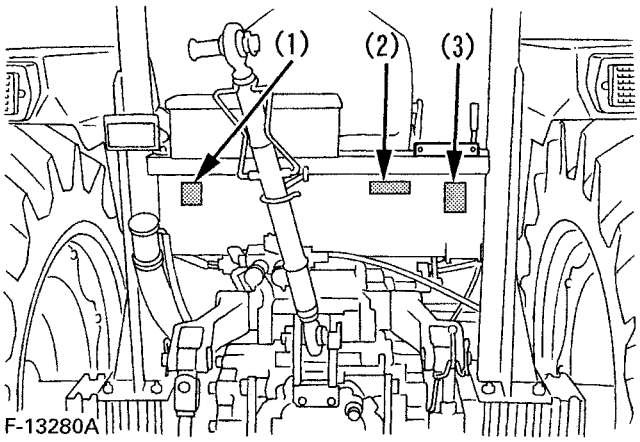




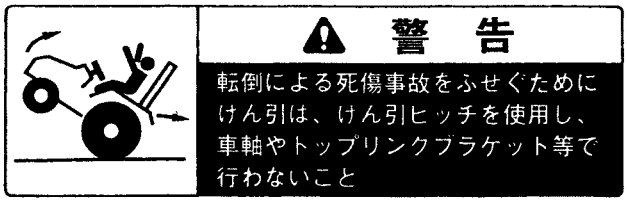
(5)　品番 6A100-4772-0



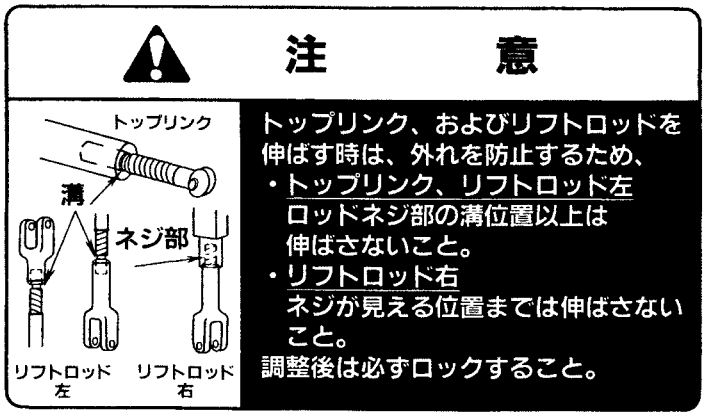
(1) 品番 3F740-9828-2



(2) 品番 T0180-4904-0



(3) 品番 3M740-9856-0



(1) 品番 3A259-4935-0

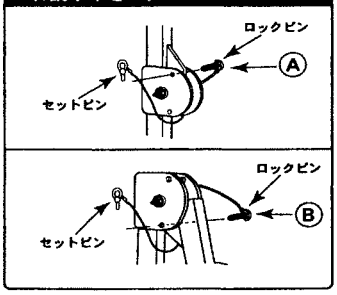
⚠ 注 意

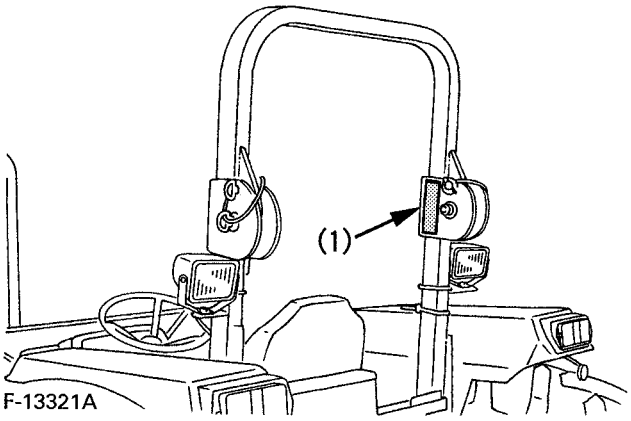
安全フレームを折りたたんだり，立てたりする時は下記の手順を守ること。

1．エンジンを止める
2．作業機をおろす
3．駐車ブレーキをかける

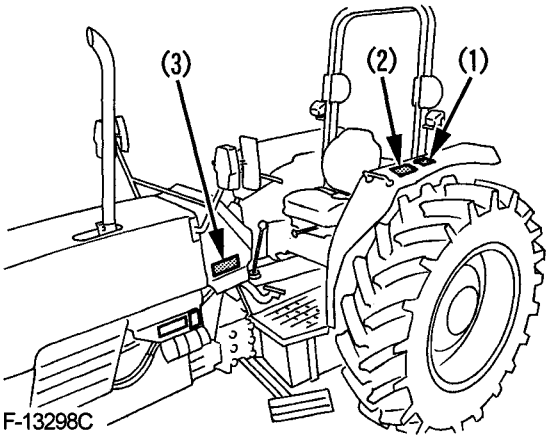
操作方法

・安全フレームを折りたたむ時は，左右とも，A 位置のロックヒンを外し，フレームを後方へ倒したのち B 位置へ差し込んで下さい。
・立てる時は，左右とも，B 位置のロックヒンを外し，フレームを元の位置へ戻したのち，A 位置へ差し込んで下さい。
・ロックヒンはセットヒンで確実に固定して下さい。
・詳しくは取扱説明書をよくお読み下さい。

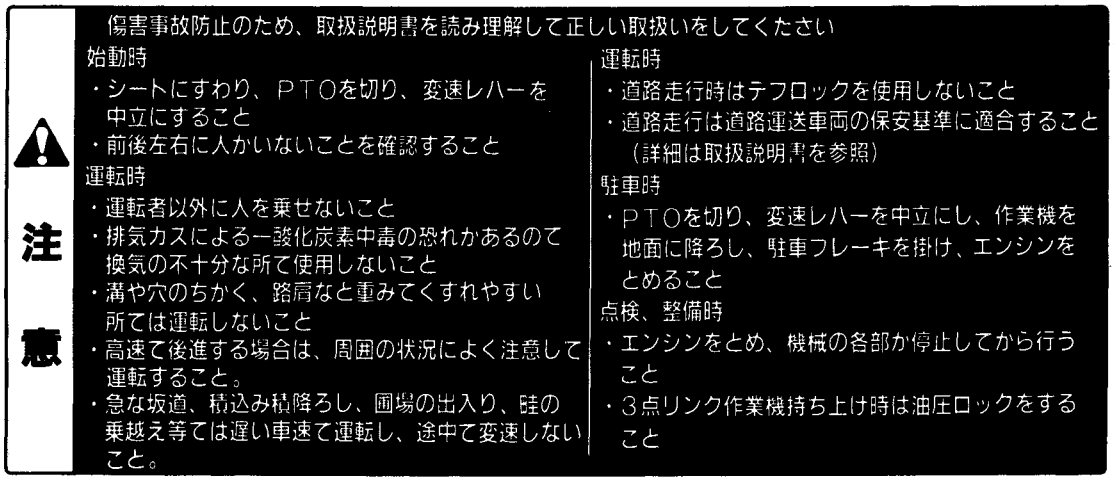




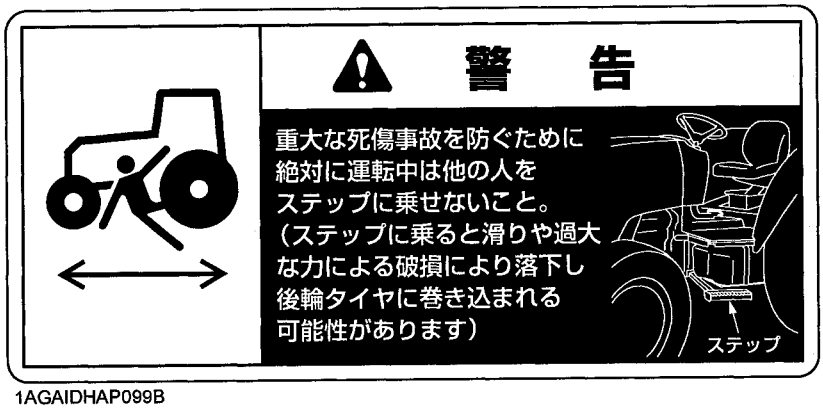
(1) 品番 T0070-4901-2



(2) 品番 3G750-4931-0

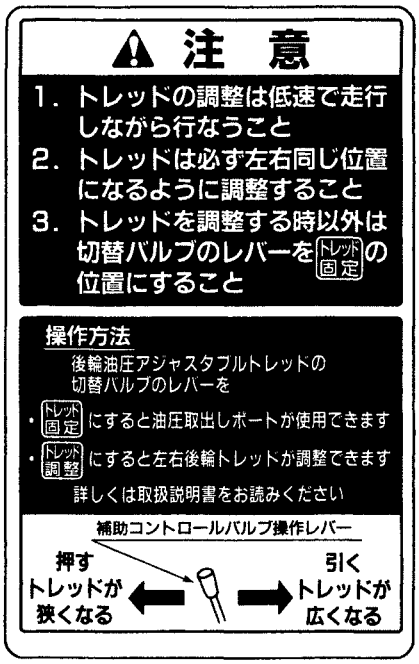


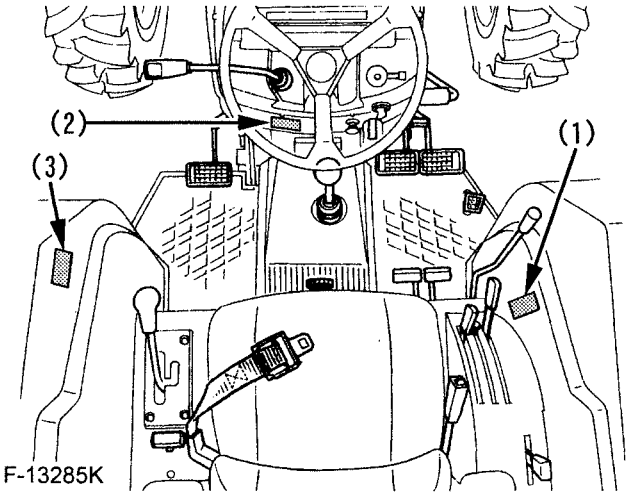
(3) 品番 3A269-9801-1



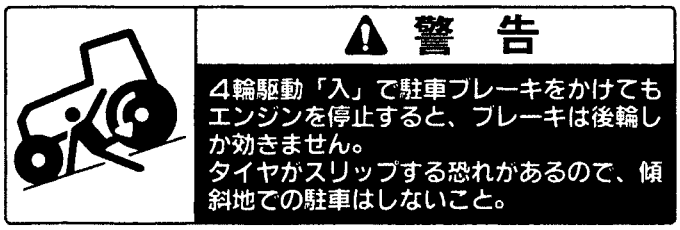
1AGAIDHAP099B

(1) 品番 3A169-9864-1[AT 仕様のみ]

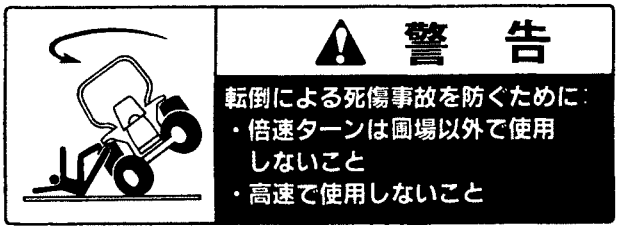




(2) 品番 3F740-9890-1[AT,B 仕様のみ]



(3) 品番 T0180-4905-1[AT,B 仕様のみ]



10. ⚠表示ラベルの手入れ

1. ラベルはいつもきれいにして傷付けないようにしてください。
   もしラベルが汚れている場合は，石鹸水で洗い，やわらかい布で拭いてください。
2. 高圧洗浄機で洗車すると，高圧水によりラベルが剥がれるおそれがあります。
   高圧水を直接ラベルにかけないでください。
3. 破損や紛失したラベルは，製品購入先に注文し，新しいラベルに貼替えてください。
4. 新しいラベルを貼る場合は，貼付け面の汚れを完全に拭取り，乾いた後，元の位置に貼ってください。
5. ラベルが貼付されている部品を新部品と交換するときは，ラベルも同時に交換してください。

サービスと保証について

この製品には，保証書が添付してありますのでご使用前によくご覧ください。

■ご相談窓口

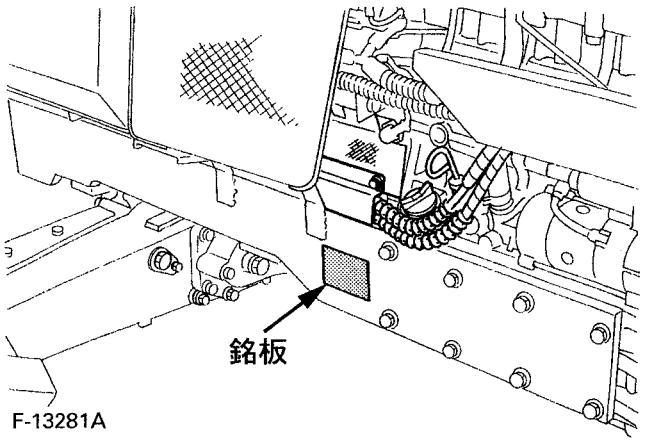
ご使用中の故障やご不審な点及びサービスについてのご用命は，お買上げいただいた購入先にそれぞれ**ご相談窓口**を設けておりますのでお気軽にご相談ください。
その際銘板に記載している

1. 農機型式名と車台番号
2. 機関型式とエンジン番号

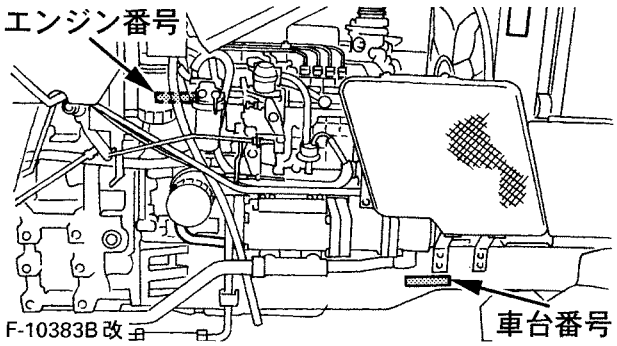
を併せてご連絡ください。
なお，部品ご注文の際は，購入先に純正部品表を準備しておりますので，そちらでご相談ください。

警　告

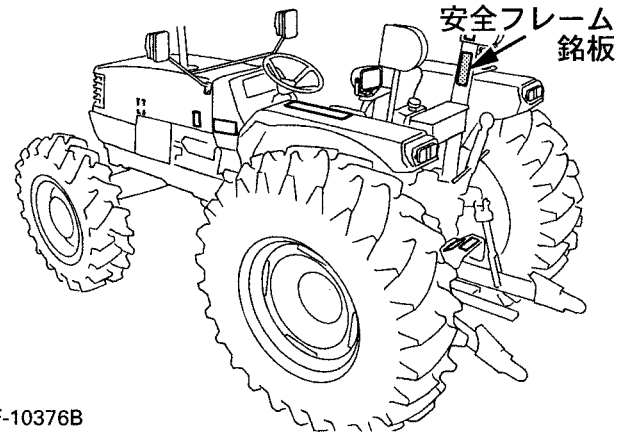
＊ 機械の改造は危険ですので，改造しないでください。改造した場合や取扱説明書に述べられた正しい使い方と異なる場合は，メーカ保証の対象外になるのでご注意ください。



F-13281A



F-10383B改



F-10376B

農　機 型式名	安全鑑定 適合番号	小型特殊自動車 車 輌 型 式 名	型式認定 番　　号
クボタ M6830	26151	クボタ SB-M680	農 2360 改造型
クボタ M8230	26150	クボタ SB-M820	農 2361 改造型
クボタ M9030	26149	クボタ SB-M900	農 2362 改造型

安全フレーム型式名	型式検査合格番号
クボタ SFM-F68	201017
クボタ SFM-F90	201018

＊検査成績表は巻末をご覧ください。

■補修用部品の供給年限について

この製品の補修用部品の供給年限（期限）は製造打ち切り後 12 年といたします。
ただし，供給年限内であっても特殊部品につきましては，納期等についてご相談させていただく場合もあります。
補修用部品の供給は原則的に上記の供給年限で終了致しますが，供給年限経過後であっても部品供給のご要請があった場合には，納期及び価格についてご相談させていただきます。

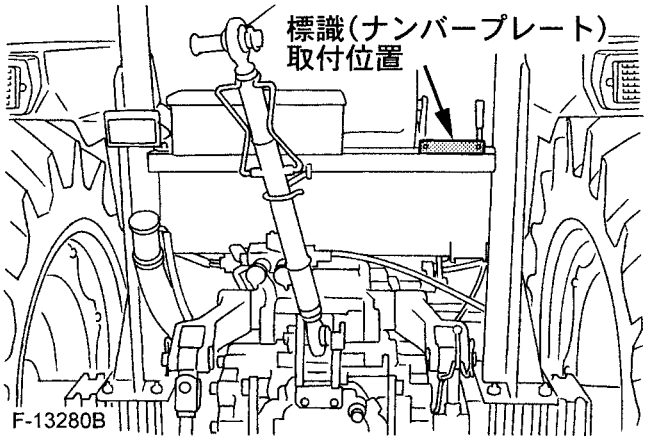
小型特殊自動車としての取扱い

このトラクタは，道路運送車両法の小型特殊自動車に該当します。

■小型特殊自動車取得の届出と標識（ナンバープレート）の取付け

新たに小型特殊自動車の所有者となった者は，市町村条例により，その取得したことを市町村役所に届けて，標識（ナンバープレート）の交付を受けなければなりません。
手続きは市町村により，多少異なりますので詳細は，購入先にご相談ください。

1. **小型特殊自動車を購入したときは，販売証明書など（購入先で発行）に，軽自動車税を添えて市町村役所に届出ます。**
2. **届出が済むと標識（ナンバープレート）が交付されます。**
3. **標識（ナンバープレート）は，車体の取付け位置に取付けてください。**



■免許

重 要

＊ このトラクタは道路運送車両法上の小型特殊自動車に該当しますが，**［道路交通法］**では，大型特殊自動車に該当します。従って，公道を走行する場合は，**大型特殊自動車の運転免許証**が必要です。必ず所持してください。

■損害賠償保険について

万一の交通事故補償に備え，任意保険に加入されることをお勧めします。

重 要

＊ エンジンで封印されている所はさわらないでください。
（封印が外されたと認められる場合は，一切の保証は致しません。）

補 足

＊ インプルメントを装着した状態では**［道路運送車両法の保安基準］**を満足しませんので，道路走行することはできません。
＊ 作業灯は**［道路運送車両の保安基準］**第42条（灯火の色等の制限）において，**［走行中に使用しない灯火］**とされ，点灯したまま道路走行すると他の交通車両の妨害となることから道路走行中の点灯は禁止されております。

■輪距

公道走行は，必ず指定の輪距で走行してください。指定輪距は下表のとおりです。この輪距どおりでない場合は**［道路運送車両法の保安基準］**違反になり，道路を走行することができません。

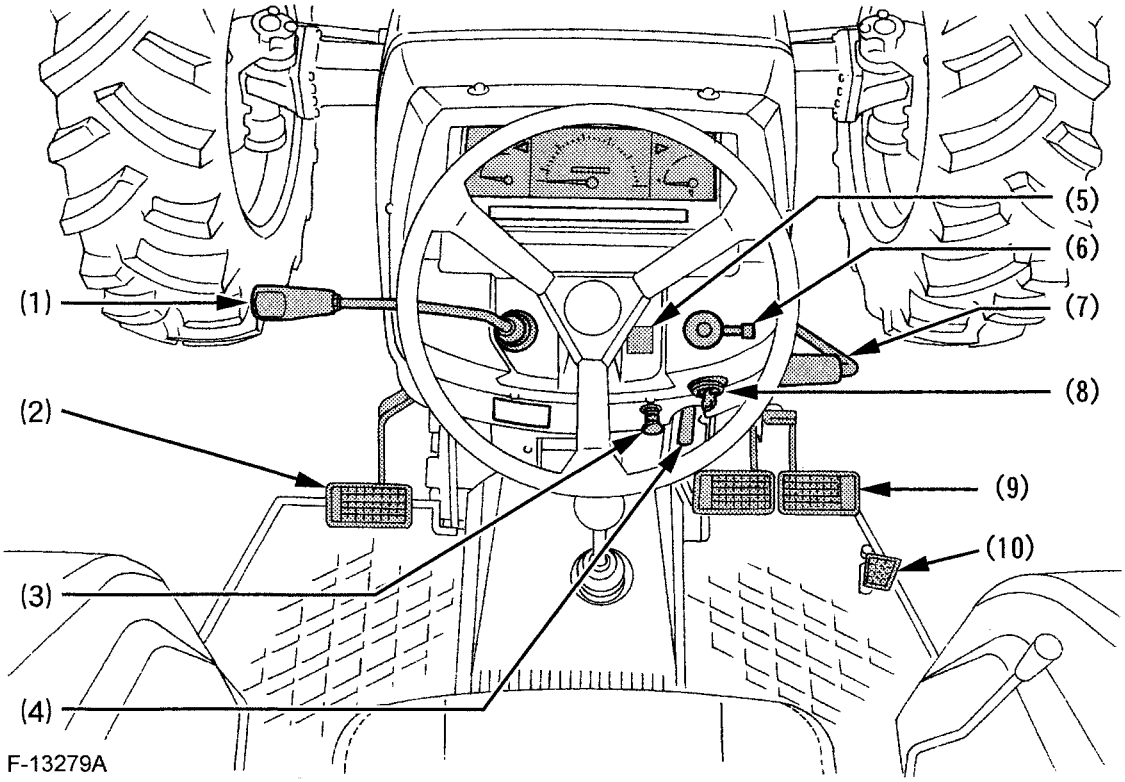
◆前後輪タイヤ組合わせ表

型式		前輪		後輪	
		タイヤサイズ	輪距(mm)	タイヤサイズ	輪距(mm)
M6830	標準	9.5-24	1420	12.4-36	1420
	K1	9.5-24		16.9-30	
	K2	9.5-24RC	1335	12.4-36RC	1320
	R1	★9.5R24	1520	★13.6R36	1520
M8230(B)	標準	9.5-24	1420	13.9-36	1400
	K1	11.2-24	1435	16.9-30	
	K2	11.2-24RC		12.4-38RC	
	R1	★11.2R24		★13.6R36	
M8230AT	標準	9.5-24RC	1335	12.4-36	1520
	K1	9.5-24RC		12.4-38	
M9030(B)	標準	11.2-24	1435	13.9-36	1400
	K1	11.2-24		16.9-30	
	K2	11.2-24RC		12.4-38RC	
	R1	★11.2R24		★13.6R36	
M9030(W,WB)	標準	12.4-24	1535	16.9-34	1505
	R1	★12.4R24		★16.9R34	
M9030AT	標準	9.5-24RC	1335	12.4-38	1520

※表中のタイヤは標準出荷と部品採用のものを併記しています。
★印はラジアルタイヤを示します。

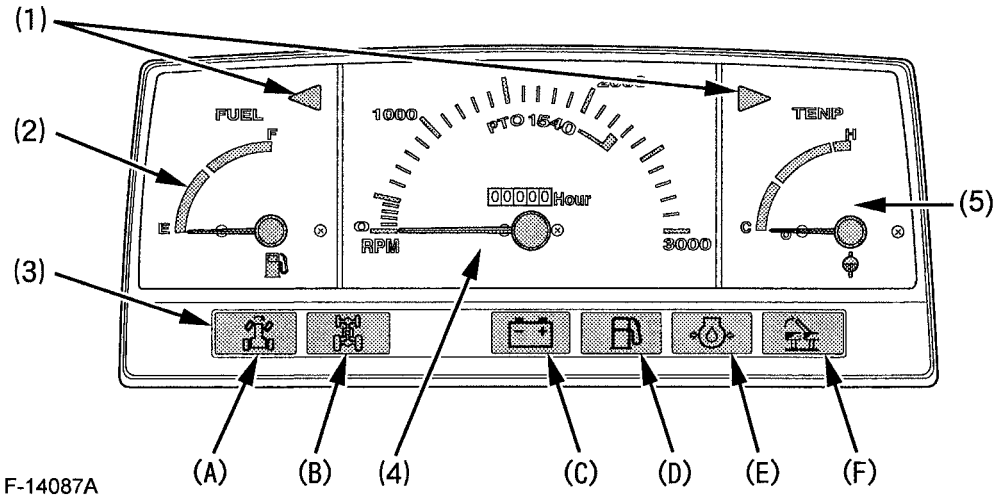
運転に必要な各部の名称

もし不明な点があれば、その名称に記してある参照ページをご覧ください。



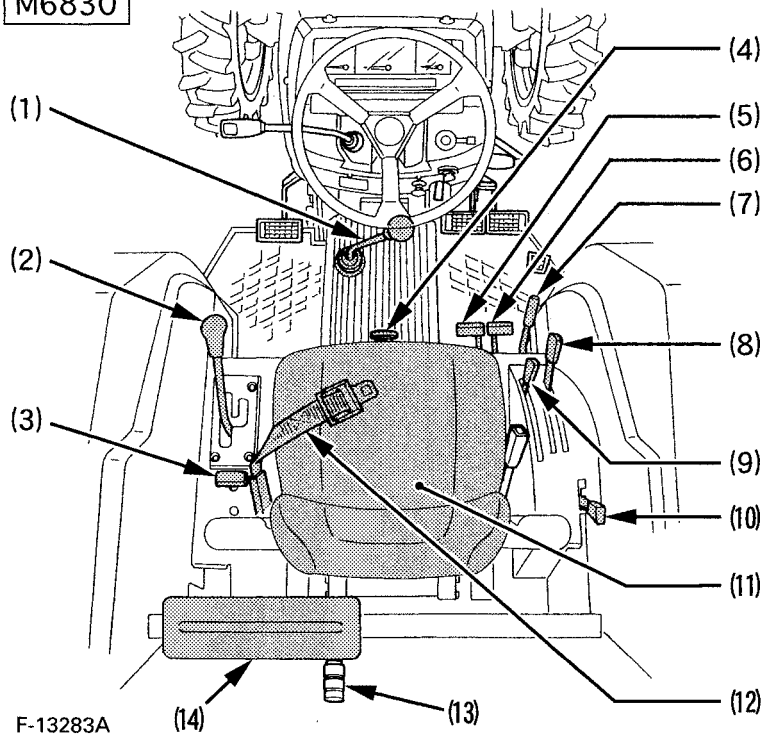
参照ページ

(1) シャトルレバー 20
(2) クラッチペダル 19, 64, 71
(3) エンジンストップノブ 10
(4) 駐車ブレーキレバー 7, 24, 63
(5) DT/ 倍速スイッチ [AT,B 仕様のみ]..... 21
(6) コンビネーションスイッチ 16
ヘッドライトスイッチ 16
ウインカスイッチ 16
ホーンボタン 16
(7) アクセルレバー 9, 23
(8) キースイッチ 8
(9) ブレーキペダル 18, 29, 63, 71
(10) アクセルペダル 23

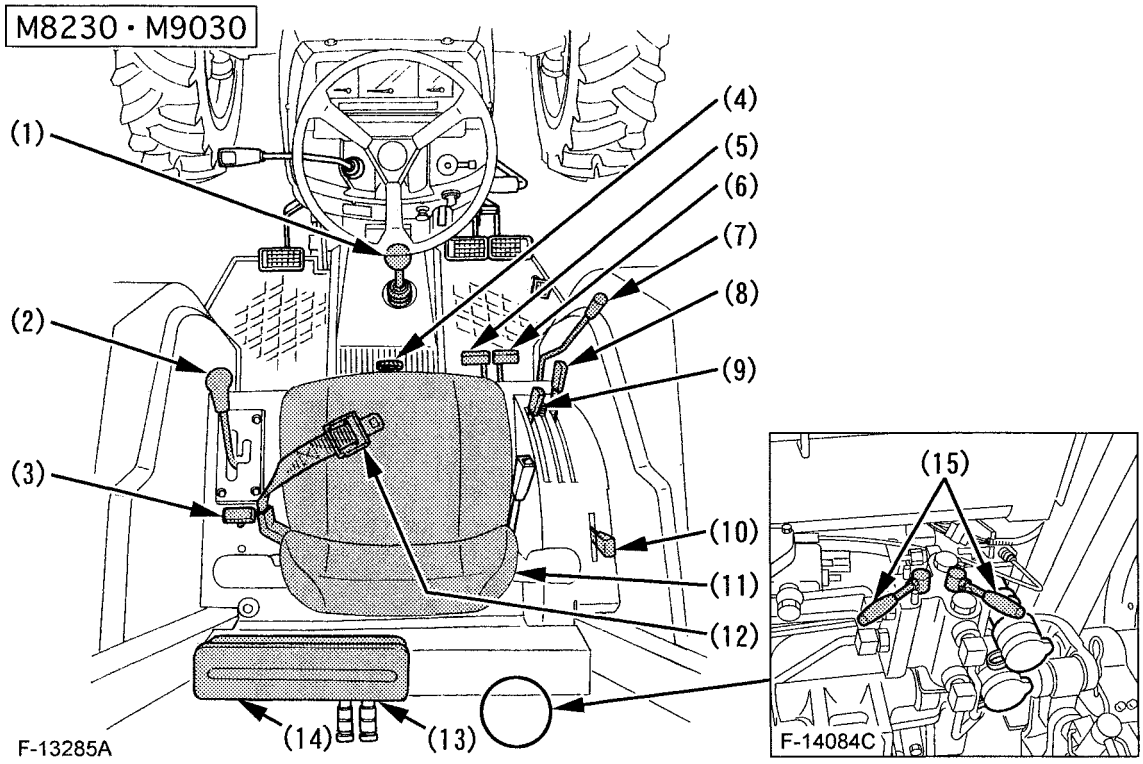


参照ページ
(1) ウィンカパイロットランプ 16
(2) 燃料計 25
(3) イージーチェッカ 9, 25
(A) 倍速ターンランプ [AT, B 仕様のみ] . 22
(B) DT(4 輪駆動) ランプ [AT, B 仕様のみ] 22
(C) バッテリチャージランプ..... 25
(バッテリ充電警告灯)
(D) 燃料残量警告灯..... 25
(E) エンジンオイルランプ..... 25
(エンジン油圧警告灯)
(F) ブレーキペダル非連結警告灯..... 18, 25
(4) トラクタメータ 26
(5) 水温計 26

M6830



M8230・M9030



	参照ページ
(1) 主変速レバー	19
(2) 副変速レバー	19
(3) 前輪駆動レバー [AT,B 仕様を除く]	21
(4) 落下速度調整グリップ	34
(5) 4 輪デフロックペダル	27
(6) 前輪デフロックペダル	27
(7) 油圧補助コントロールレバー	35
(8) ポジションコントロールレバー	18,33
(9) ドラフトコントロールレバー	33
(10) PTO クラッチコントロールレバー	8,41
(11) シート	14
(12) シートベルト	14
(13) 油圧取出しポート	35
(14) 工具箱	
(15) 後輪油圧 AT 切替レバー [AT 仕様のみ]	52

運転前の点検

故障を未然に防ぐには，機械の状態をいつもよく知っておくことが大切です。日常点検は一日一回，運転前に欠かさず行なってください。
〔点検方法の詳細は，［**トラクタの簡単な手入れと処置**］の項を参照。〕

注　意

＊ 運転前にブレーキ・クラッチ・ステアリングや安全装置などの日常点検を行ない，摩耗や損傷している部品があれば交換してください。
また，定期的にボルトやナットがゆるんでいないか点検してください。
＊ 点検をするときは，必ず作業機を降ろしエンジンを停止してから行なってください。
＊ 燃料補給時は，くわえタバコ・裸火照明はしないでください。
＊ 燃料・オイルがこぼれた場合は，きれいにふき取ってください。
＊ 運転中及び停止直後は，ラジエータの圧力キャップを絶対に開けないでください。
熱湯が吹出してヤケドをするおそれがあります。
＊ エンジン周囲のカバー類を開けて点検・整備するときは，次の手順に従ってください。
1. エンジン停止後 30 分経過してから開ける。
2. 点検・整備で内部に触れるときは，ヤケドのおそれがないことを確認する。

重　要

各部への給油と交換
＊ 点検するときはトラクタを水平な場所に置いて行なってください。傾いていると正確な量を示さないことがあります。
＊ 使用するエンジンオイル，ミッションオイルは，必ず指定［**クボタ純オイル**］を使用してください。

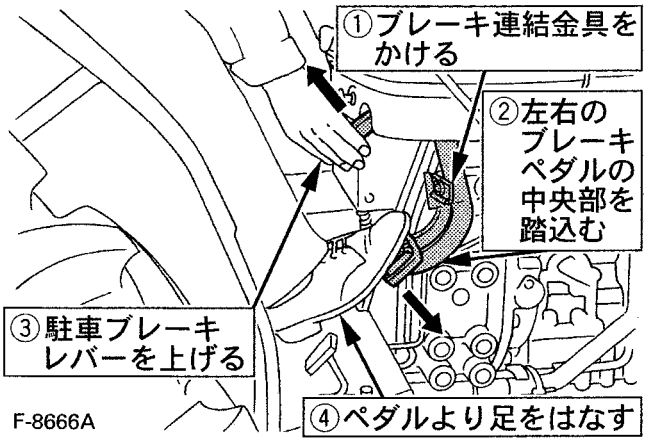
エンジンの始動と停止

警　告

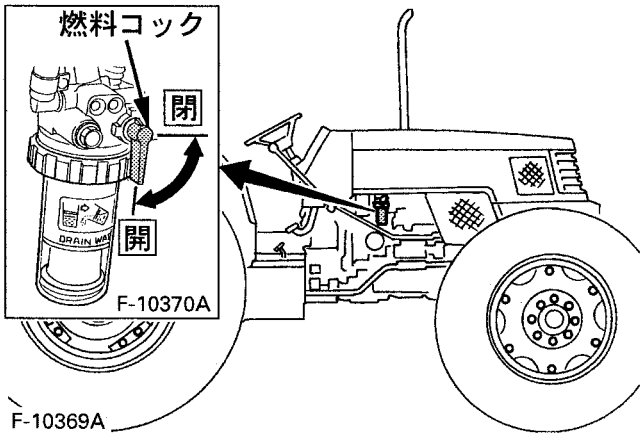
* この取扱説明書前編の黄色のページの［安全に作業するために］の内容を必ずお読みください。
* トラクタに貼ってある⚠表示ラベルの内容を必ずお読みください。
* エンジンを始動する前に，必ずシートに座り，シャトルレバー，主変速レバー，副変速レバーや ＰＴＯ 変速レバーが［中立］(N) かどうか，また駐車ブレーキが掛かっているかを確認してください。
* ＰＴＯ クラッチコントロールレバーも［切］にしてください。
* トラクタが突然動き出すおそれがあるため，地上に立ってエンジンを始動したり，スタータ端子や安全スイッチを直結してエンジンを始動しないでください。
* 室内やビニールハウス内などで運転する場合は，換気を十分に行なってください。
  換気が不十分であると排気ガスにより，一酸化炭素中毒になるおそれがあります。

始動のしかた

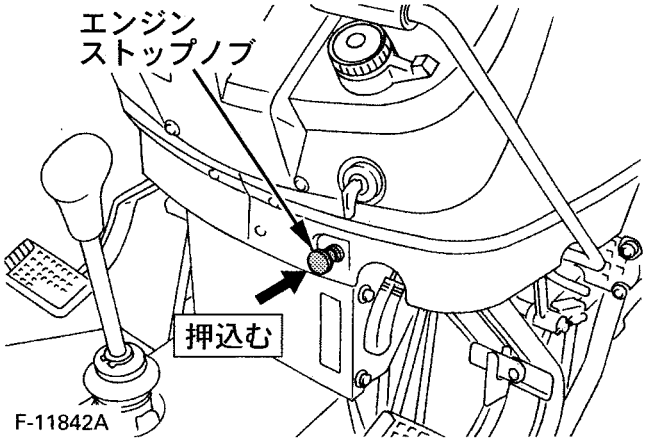
1. 駐車ブレーキをかけます。



2. 燃料コックを［開］(ON) にします。

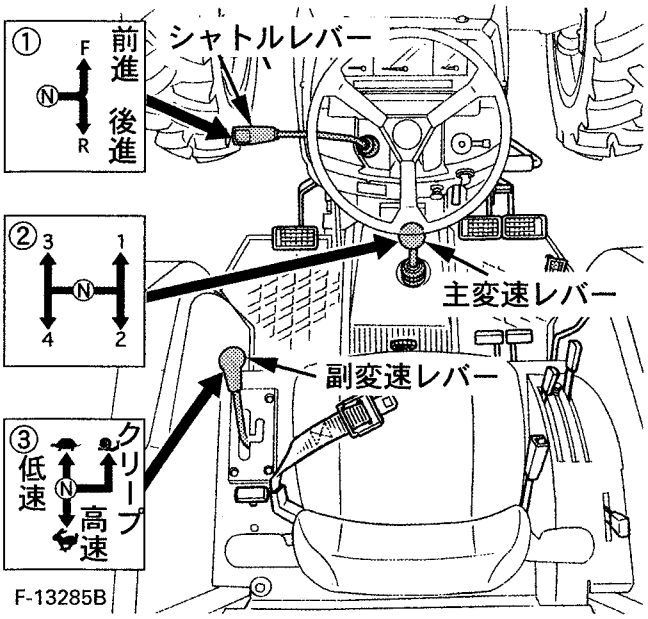


3. エンジンストップノブが戻っているか確認します。



始動のしかた

4. 各変速レバーを［中立］（N）にします。



F-13285B

補　足

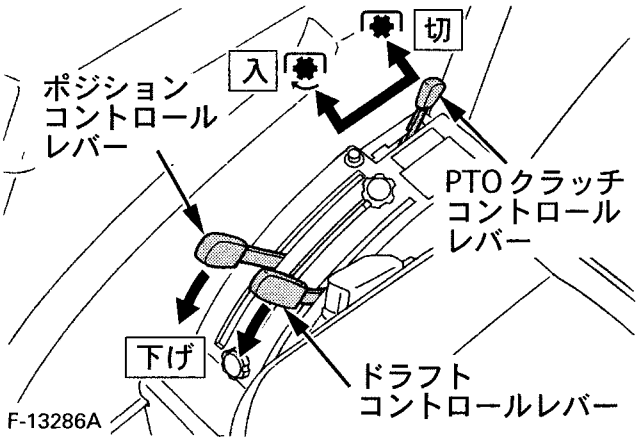
＊ シャトルレバーを［**中立**］，PTO クラッチコントロールレバーを（切）にしないと，安全スイッチが作動してエンジンは始動しません。

5. PTO クラッチコントロールレバーを（切）にします。

6. 油圧レバーを［前方に倒し］作業機を下げます。

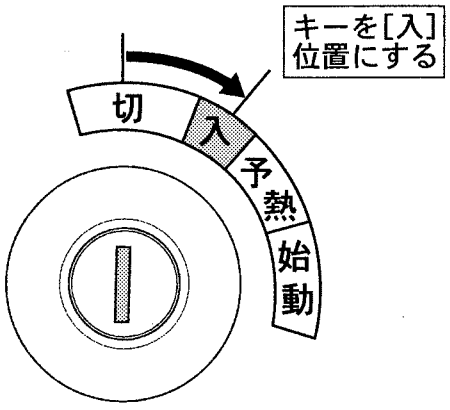
補　足

＊ 油圧ロックされている場合，作業機は下がりません。
（詳細は［**作業機昇降装置**］の項を参照）



F-13286A

7. キースイッチにキーを差込み［入］位置にします。



F-13287A

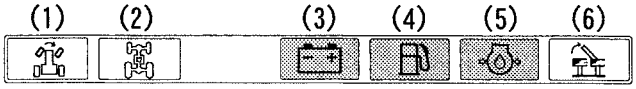
■キースイッチ

切…… エンジンが停止し，キーが抜き差しできる位置。
入…… エンジン回転中の位置，すべての電気装置が使えます
予熱…… 燃焼室内を予熱する位置。
始動…… エンジンを始動する位置。手を離せば自動的に［**入**］に戻ります。

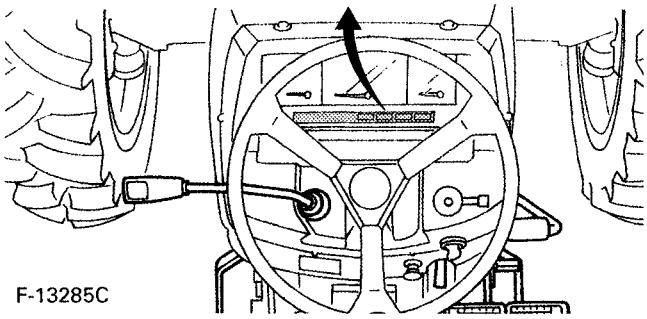
始動のしかた

◆イージーチェッカランプ

1. キースイッチを［入］位置にすると，エンジンオイルランプ、燃料残量警告ランプとバッテリチャージランプが点灯します。
2. ブレーキ連結金具が解除されていると、ブレーキペダル非連結警告灯が点灯します。



F-14089A

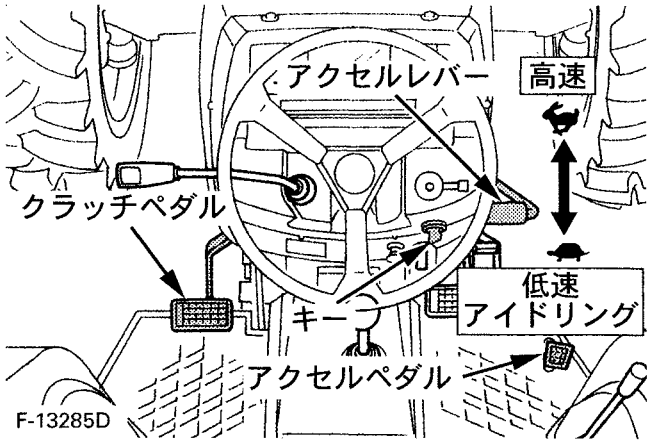

F-13285C

(1) 倍速ターンランプ［AT,B 仕様のみ］
(2) DT（4 輪駆動）ランプ［AT,B 仕様のみ］
(3) バッテリーチャージランプ（バッテリ充電警告灯）
(4) 燃料残量警告ランプ
(5) エンジンオイルランプ（エンジン油圧警告灯）
(6) ブレーキペダル非連結警告灯

補　足

＊ 倍速ターンランプと DT（4 輪駆動）ランプはスイッチの位置により点灯する場合があります。

8. アクセルレバーを［中程］まで押します。



F-13285D

9. クラッチペダルを［踏込み］ます。

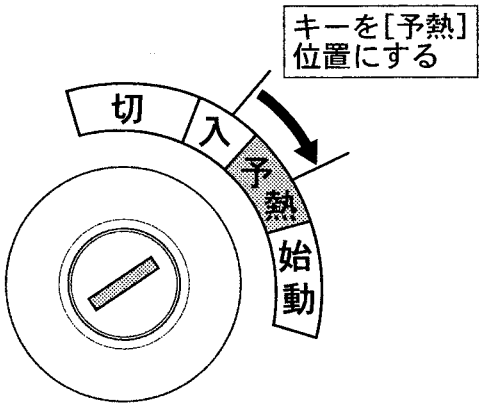
補　足

＊ エンジンはクラッチペダルを踏込まなくても始動できますが，安全確保のため踏込んでください。

10. キーを［予熱］位置に回します。

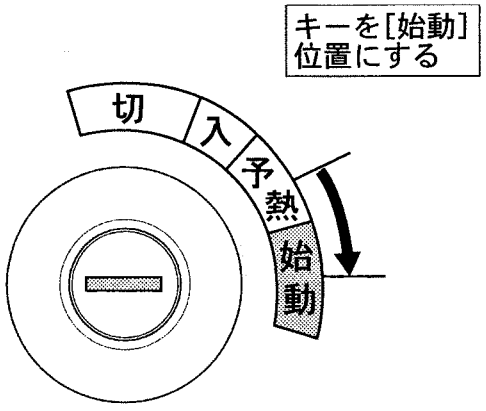
予熱時間は、下表を参考に行なってください。
エンジンが暖まっている場合、予熱は不要です。

気　温	予熱時間
10 ℃以上	予熱不要
10 ～－ 5 ℃	5 秒
－ 5 ～－ 15 ℃	10 秒
連続予熱時間	20 秒以下



F-13287B

11. キーを［始動］位置に回します。



F-13287C

始動のしかた

重　要

＊ セルモータは，大電流を消費しますので，10秒以上の連続使用は避けてください。
＊ 10秒以内で始動しなかった場合は，いったんスイッチを切って，30秒以上休止してから同じ操作をくり返してください。

補　足

＊ シャトルレバーを［**中立**］，PTOクラッチコントロールレバーを（**切**）にしないと，安全スイッチが作動してエンジンは始動しません。

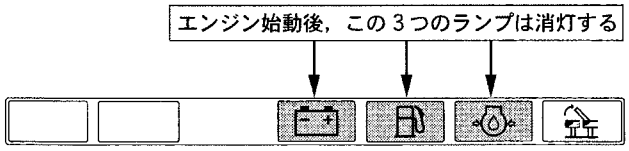
12. エンジンが始動したら，キーから手をはなします。

キーは自動的に［**入**］にもどります。

重　要

＊ エンジン回転中は，キーを［**始動**］位置にしないでください。セルモータ破損の原因になります。

13. エンジンオイルランプ、燃料残量警告ランプとバッテリチャージランプの［消灯］を確認します。



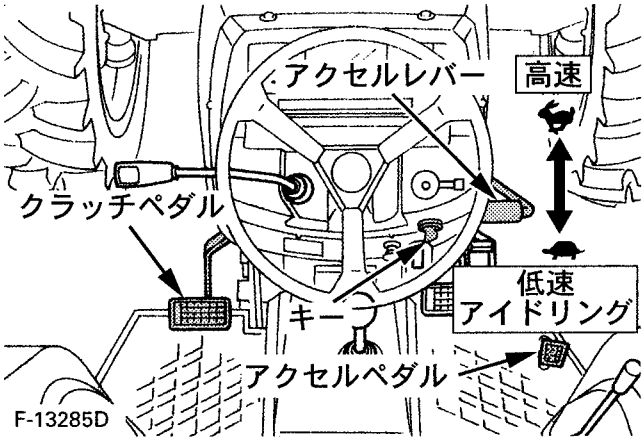
F-13288B

もし，ランプが消灯しない場合は，エンジンを停止し，点検してください。

14. エンジン回転を下げ，クラッチペダルからゆっくり足を離し，そのまま5分程度暖機運転します。

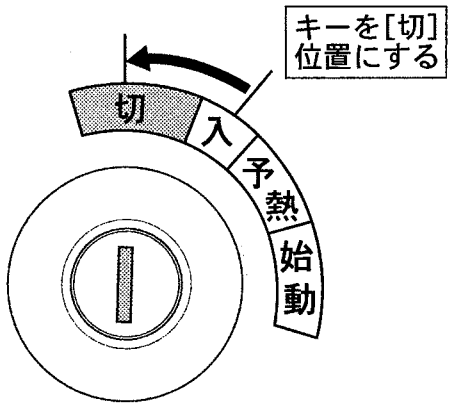
停止のしかた

1. アクセルレバーをいっぱい手前に［引き］，アイドリング状態にします。



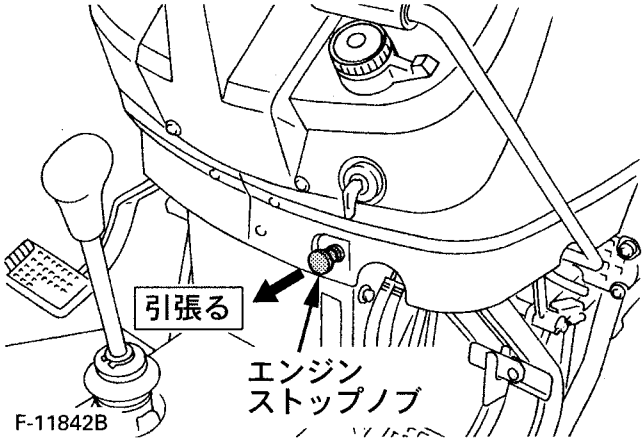
F-13285D

2. キースイッチのキーを［切］の位置にしてエンジンを停止します。



F-13287D

万一停止しないときは，エンジンストップノブをいっぱい引張ると止まります。



F-11842B

停止のしかた

重　要

＊ M8230・9030 ターボ付き仕様のエンジンの停止は，５分間アイドリング運転してからにしてください。高速負荷運転後，急にエンジンを停止するとターボチャージャに悪い影響を与えます。

補　足

＊ エンジンストップノブは，エンジンが完全に停止した後，元の位置まで戻しておいてください。エンジンストップノブを引いた状態では，エンジンは始動しません。

3. キーを［抜き］ます。

重　要

＊ キースイッチの切り忘れによるバッテリあがり防止のため，必ずキーは抜いてください。

寒冷時の暖機運転

注　意

＊ 換気が不十分な所では，暖機運転はしないでください。換気が不十分であると排気ガスにより，一酸化炭素中毒のおそれがあります。
＊ 暖機運転中は必ず駐車ブレーキをかけてください。

このトラクタには油圧クラッチが採用されており，油圧オイルはミッションオイルを兼用しております。
特に寒冷地では，気温が下がってオイルが冷えると，粘度が高くなって，始動時に，油圧の立上がりが遅かったり，正常な圧力が得られなかったりすることがあります。
このようなことをなくすため，下記のことを必ず守ってください。これを怠ると，油圧系統の故障を引起こし，油圧クラッチの損傷にもつながります。

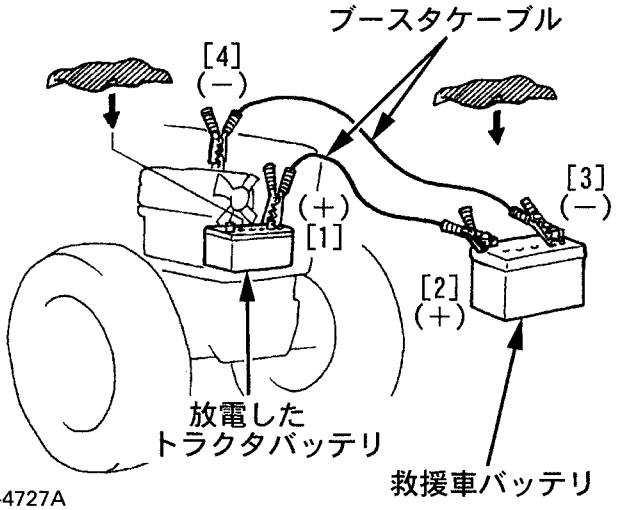
トラクタの始動時は必ず暖機運転を行なってください。

気　温	暖機運転時間
-10 ℃以上	少なくとも５分間
-10 ～ -15 ℃	5 ～ 10 分間
-15 ～ -20 ℃	10 ～ 20 分間
-20 ℃以下	20 分間以上

バッテリあがりの処置

ブースタケーブル（別売）があれば，他車のバッテリを電源としてエンジンを始動することができます。

1. ブースタケーブルを図の番号順で接続します。
   ＊トラクタのキースイッチを［**切**］にします。
   ＊バッテリの（＋）端子同士を接続します。
   ＊マイナスケーブルの他端［ ４ ］の接続位置は，バッテリから離れたエンジン本体に接続します。
   （マイナスケーブルの他端［ ４ ］を直接バッテリの（－）端子に接続すると，バッテリから発生する可燃ガスに引火するおそれがあります。）



F-4727A

2. 救援側の車を始動し，少しエンジン回転を高めに保ちます。
3. トラクタのエンジンを始動します。
   （始動手順は［**エンジンの始動と停止**］の項を参照）
4. ブースタケーブルを接続順序の逆で外します。

重　要

＊ 救援車は必ず 12V バッテリ車を使用してください。
＊ ケーブル接続の際には，（＋）と（－）端子を絶対に接触させないでください。
＊ ケーブルが冷却ファンなどに巻込まれないようにしてください。
＊ 救援車にトラクタを使用する場合は，必ず作業機を降してください。

トラクタの運転

警　告

＊ トラクタを発進するときは前後左右をよく確認し，付近に人（特に子供）を近づけないでください。
また，安全フレームに当たる障害物がないかも確認してください。
＊ 子供はもちろん，運転者以外の人を乗せてトラクタを運転しないでください。また，必ずシートに座って運転してください。
＊ 溝や穴の近く，路肩などトラクタの重みでくずれやすい所では運転しないでください。
転落事故のおそれがあります。
＊ 急な坂道の登坂はバックで行なうか，作業機をできるだけ下げ，転倒防止に心がけてください。
＊ 下り坂は，エンジンブレーキを使用してください。ブレーキペダルを踏むだけで降りないでください。
＊ 負荷の大きいけん引をする場合や湿田脱出の場合には，徐々に発進し，トラクタが後へ転倒しないように注意してください。
＊ 高速で旋回すると，横転するおそれがあります。
デフロックペダルの解除を確認して，必ずスピードを落としてゆっくりと回ってください。
＊ 後進は前進とほぼ同じ速度が出ます。
周囲の状況をよくみて，安全であることを確認してからシャトルレバーを後進位置に入れて，安全な速度で後進してください。
また後進中は，特に周囲の状況によく注意して運転してください。
＊ 運転席足元に空缶，部品などの物を置くとブレーキペダルやクラッチペダルの下にはさまり，ブレーキ操作，クラッチ操作ができなくなり危険です。

ならし運転（最初の約 50 時間）

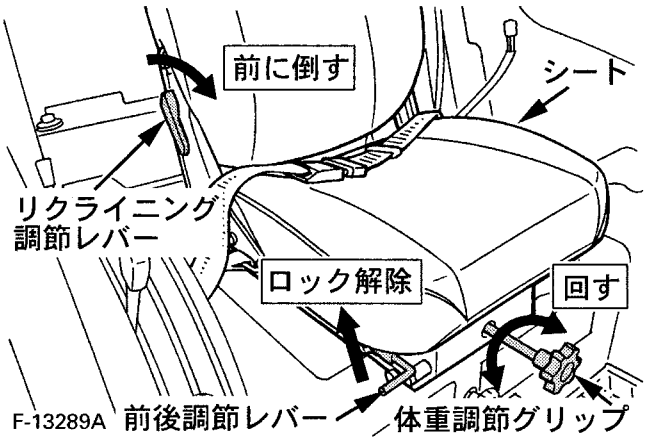
この期間中は，特に次のことを厳守してください。

1. 急なスタート，急ブレーキは慎んでください。
2. 必要以上のスピードや負荷をかけないようにしましょう。
3. 運転は，エンジンが十分暖まってから行なうようにしましょう。
4. 悪路や傾斜地では，速度を落とし安全を確認しながら走行しましょう。
5. 50 時間使用後，［**定期点検箇所一覧表**］に従い各部の点検，オイル交換などを行なってください。

運転席回りの調節

■シートの調節

1. 前後調節レバーでロックを［ **解除** ］すると，シートが前後に調節できます。
2. 体重調節グリップを［ **回す** ］と，クッションの強さが調節できます。
3. リクライニング調節レバーを［**前に倒す**］と，背もたれの角度が調節できます。
4. 雨のときはシートを前に倒しておくと，ぬれる心配がありません。



■安全フレームとシートベルトについて

警　告

転倒・転落による死傷事故防止のため，下記のことを守ってください。

＊ トラクタを使用するときは，安全フレームを外して運転しないでください。

＊ 納屋の出入りなど，安全フレームが当たる場合を除き，運転時はいつも安全フレームを立て，必ずシートベルトを着用してください。

＊ 安全フレームを折りたたんだ状態では，シートベルトを絶対にしないでください。折りたたみ式安全フレームは，折りたたんだ状態では安全フレームの役目をしません。

＊ 安全フレームの改造を絶対にしないでください。また，強度に影響する破損，曲がりなどが発生した場合，交換してください。

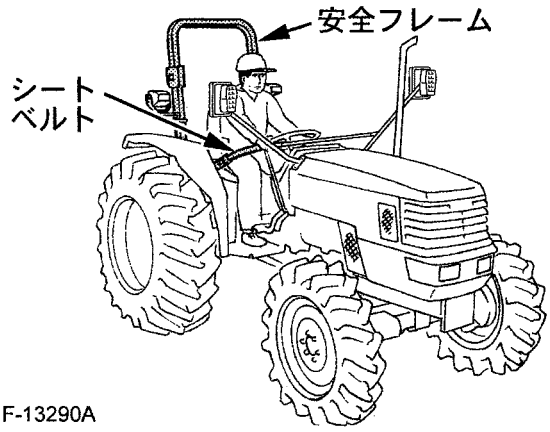
＊ 安全フレームを折りたたんだり立てたりしたときは，ロックピンを入れてセットピンで確実に固定してください。
また日常点検時，ロックピン，セットピンが入っているか確認してください。

＊ 安全フレームが確実に固定されているか確認してください。

＊ 安全フレームを折りたたんだり，立てたりするときは，平坦な場所で必ず作業機を地面に降ろし，エンジンを止め，駐車ブレーキを掛けてから行なってください。
また折りたたんだり，立てたてたりするときは，トラクタの後方の安定した足場に立ち，両手でゆっくりと注意しながら行なってください。

＊ シートベルトは作業者の身体に合わせ長さを調節してください。

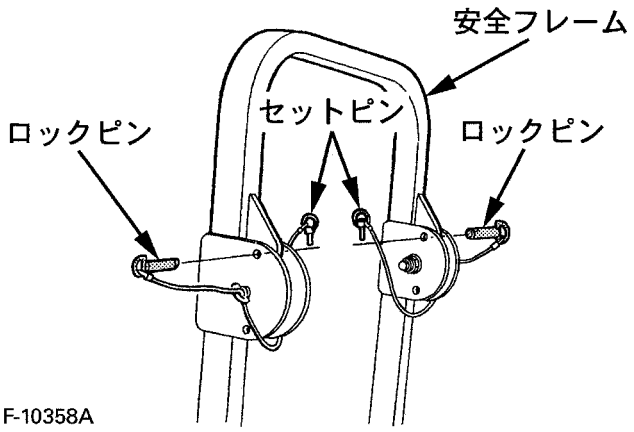
運転席回りの調節



F-13290A

補　足

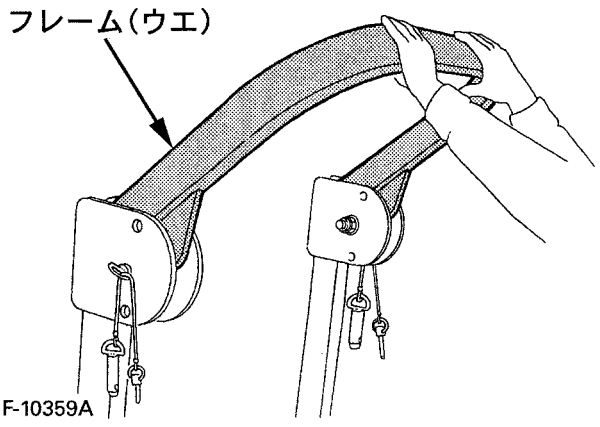
＊ 安全フレームは，万一のときに少しでも被害を軽くするためのものであって，すべての傷害を防げるものではありません。
＊ 安全フレームにキャノピアッシ等の部品を装着した場合，折りたたむことが出来ない場合があります。



F-10358A

◆折りたたみ方法

1. セットピンを外し，ロックピンを抜きます。
2. 両手でフレーム（ウエ）を支え、後方に折りたたみます。

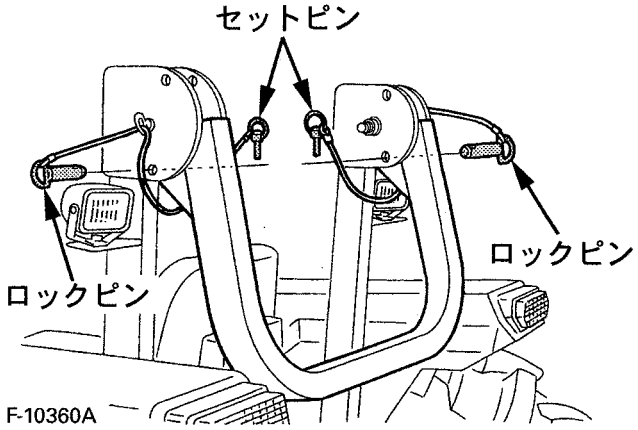


F-10359A

補　足

＊ 安全フレームを折りたたむと，作業機の状態によっては接触する場合があります。接触しないことを確認して折りたたんでください。

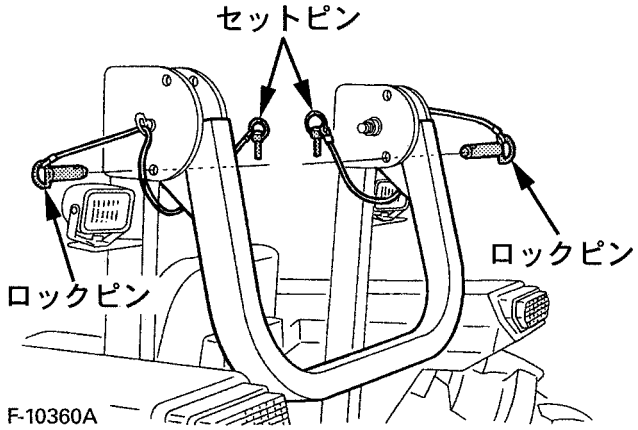
3. セットピンでフレーム（ウエ）を固定します。



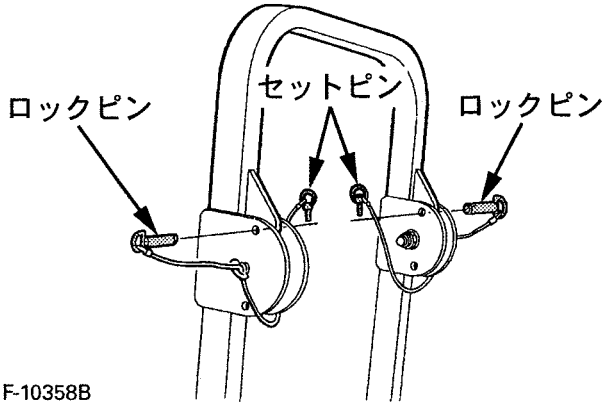
F-10360A

◆起こす方法

1. セットピンを外し，ロックピンを抜きます。
2. フレーム（ウエ）を前方に起こし，ロックピンとセットピンで確実に固定してください。



F-10360A

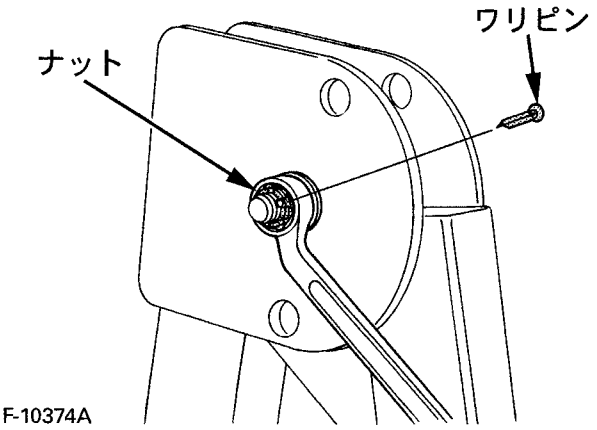


F-10358B

運転席回りの調節

◆折りたたみのかたさの調節

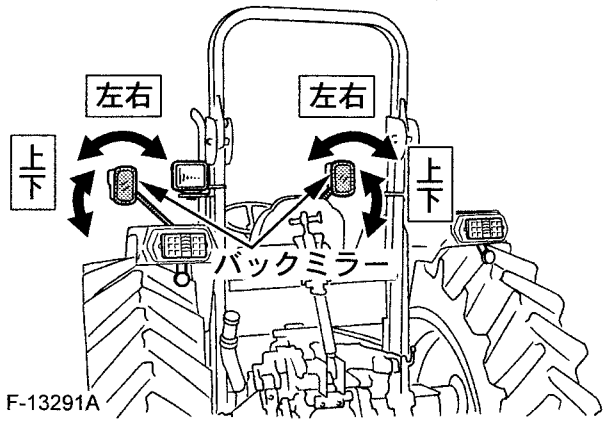
安全フレームを折りたたんだり，立てたりするときのかたさが軽くなってきたときは，ワリピンを抜いて適正なかたさになるまでナットを締めてください。調節が終ったら，再びワリピンを入れてワリピンが抜けないように割っておいてください。



F-10374A

■バックミラー

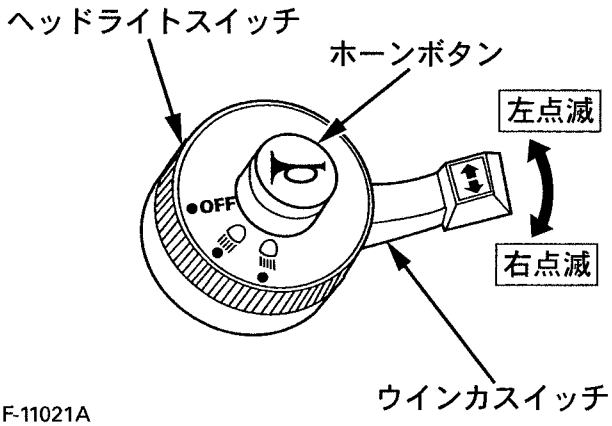
後方視界が十分に確認できる位置に調整してください。



F-13291A

灯火類の操作

■コンビネーションスイッチ



F-11021A

◆ヘッドライトスイッチ

ＯＦＦ……ヘッドランプ消灯位置。

……ヘッドランプ上向き照射位置。

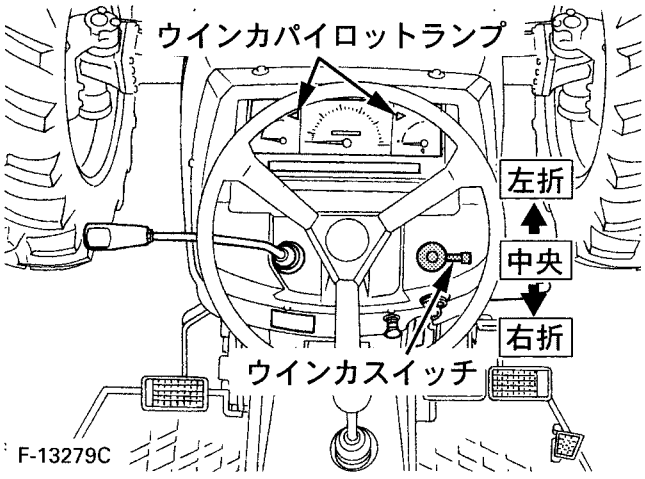
……ヘッドランプ下向き照射位置。

補　足

＊ ヘッドライトスイッチ［≡D］［≡D］位置で，車幅灯，尾灯が点灯します。

◆ウインカスイッチ

1. スイッチを操作すると，ウインカランプ及びウインカパイロットランプが点滅します。
2. 右折又は左折が終ったら，スイッチを中央に戻しましょう。



F-13279C

◆ホーンボタン

ホーンボタンを押すとホーンが鳴ります。

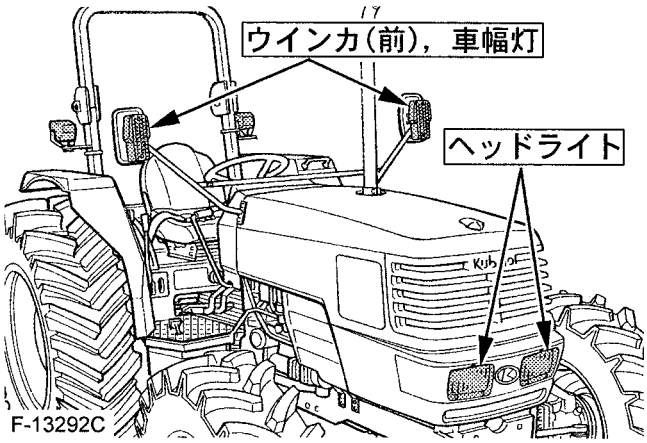
灯火類の操作

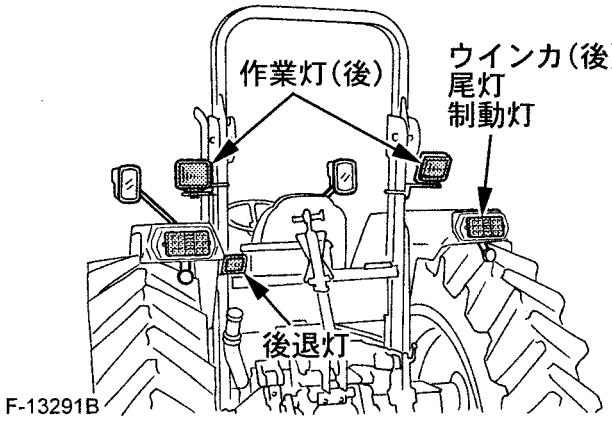
■バックランプ

シャトルレバーを［ **後進** ］の位置に入れると，バックランプが点灯します。

■ブレーキランプ

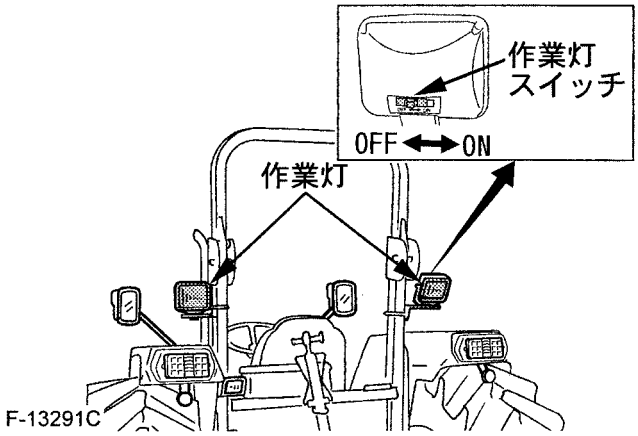
ブレーキペダル左右を連結金具で連結し，ブレーキペダルを踏むと，ブレーキランプが点灯します。





■作業灯

作業灯スイッチで点灯・消灯が行なえます。



補　足

＊ 作業灯は［**道路運送車両の保安基準**］第 42 条（灯火の色等の制限）において，［**走行中に使用しない灯火**］とされ，点灯したまま道路走行すると他の交通車両の妨害となることから，道路走行中の点灯は禁止されています

発進・走行

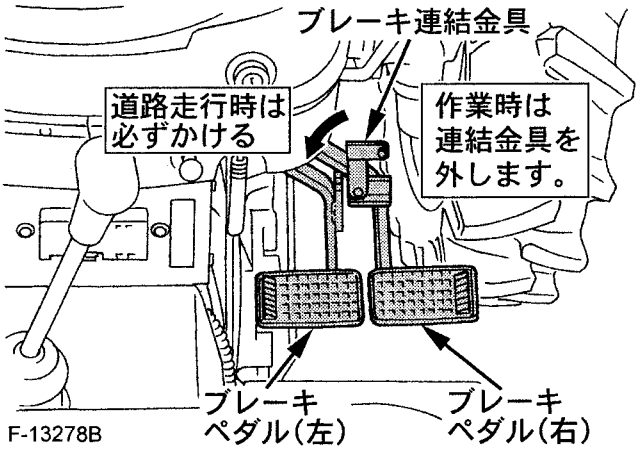
1. ブレーキペダルの確認

■ブレーキペダル

警　告

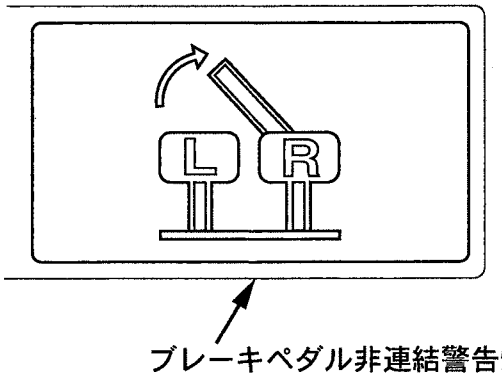
＊ 移動中・登り坂・下り坂及びあぜ越え中は，ブレーキペダルの左右を連結金具で，必ず連結してください。
移動中に片ブレーキを踏むと車体が振られ，転倒や事故のおそれがあります。

ブレーキは，強制的に機体を停止させる装置で，一般車両と異なり，左右それぞれ独立しており，後輪の片輪だけにブレーキをかけることができます。
また連結金具でブレーキペダルをつなぐと，左右両輪のブレーキが同時に働きます。



F-13278B

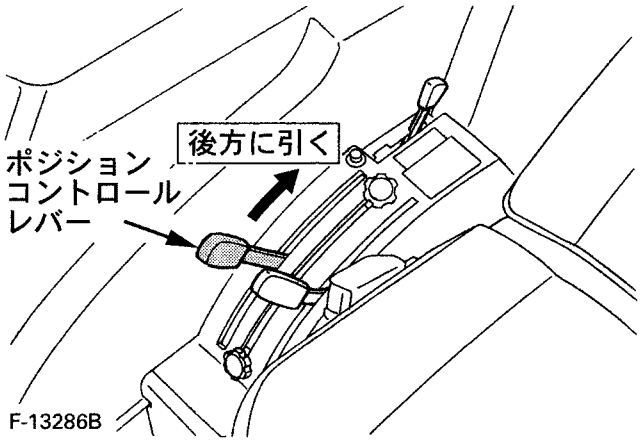
◆ブレーキペダル非連結警告灯
ブレーキペダル連結金具を外すと警告灯が点灯します。
道路走行時などでは連結金具をかけ，警告灯の消灯を確認してから，走行してください。



F-13295A

2. ポジションコントロールレバーを［後方に引き］作業機を上げます。

〔詳細は［**油圧**］の項を参照してください。



F-13286B

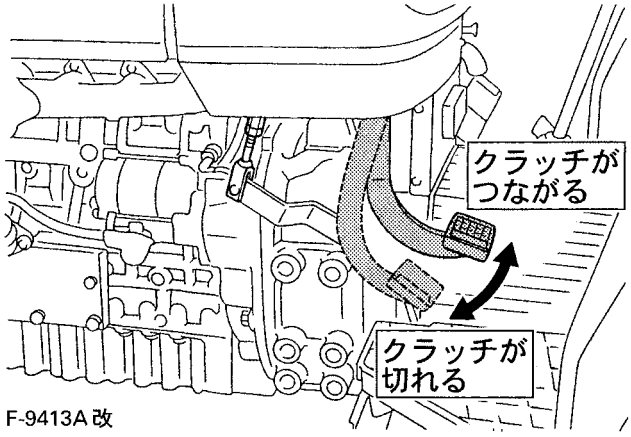
3. クラッチペダルを踏込みます。

注　意

＊ 急にクラッチを離すと，急に飛出すおそれがあります。ゆっくり行なってください。

■クラッチペダル

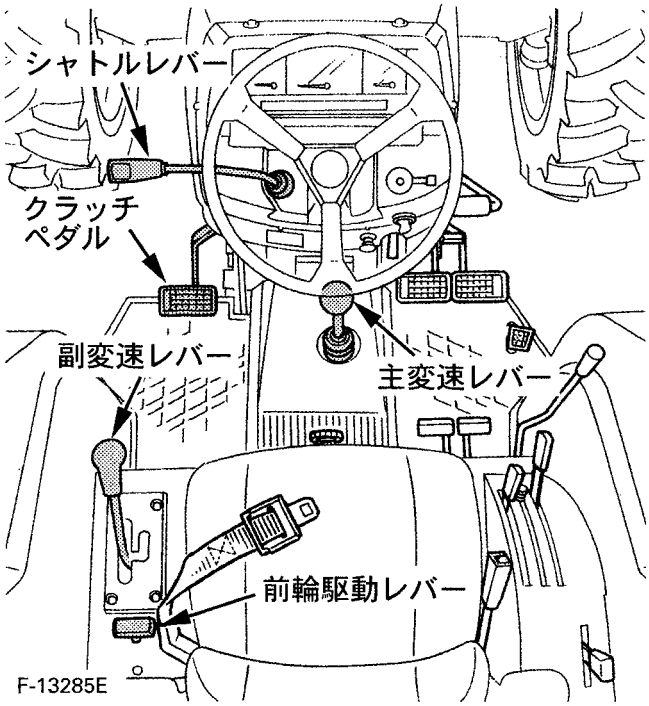
クラッチは，エンジンの動力を各作動部に断続する装置です。



F-9413A 改

補　足

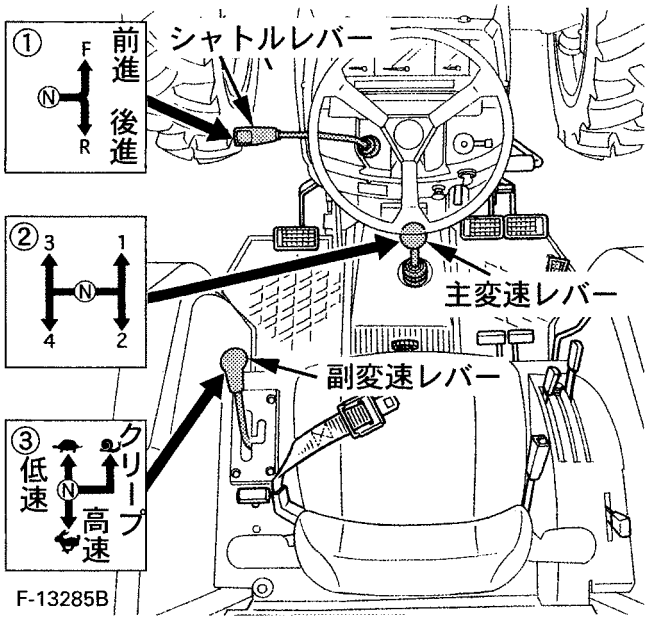
＊ 下記レバーを操作するときは，必ずクラッチペダルを踏みトラクタを完全に停止させてから行なってください。
- 主変速レバー
- 副変速レバー
- シャトルレバー
- 前輪駆動レバー



F-13285E

4. 走行速度を選択します

3 本のレバー操作を組合せることにより前進 12 段，後進 12 段の車速が得られます。



F-13285B

■主変速レバー

1. レバー１本で４段の車速が選択できます。
2. H 形変速部の４段は、フルシンクロメッシュ付きで走行時クラッチを切った状態で変速できます。

■副変速レバー

[🐢] 位置で低速，[🐇] 位置で高速が得られます。

[🐌] 位置でクリープ速度が得られます。（詳細は［**クリープ速度**］の項を参照してください。）

重　要

＊ 変速はクラッチを切りトラクタが完全に停止してから行なってください。
走行中に操作するとミッションの損傷につながります。

■シャトルレバー

注　意

* シャトルレバー操作をする前にエンジン回転を下げてください。
* [前進] ←→ [後進] のシフト操作は、いったん [中立] 位置にして停止してから操作してください。
* 高速で後進する場合は、周囲の状況をよく注意して運転してください。
* 後進は前進とほぼ同じ速度が出ます。周囲の状況をよくみて、安全であることを確認してからシャトルレバーを後進位置に入れて、安全な速度で後進してください。また後進中は、特に周囲の状況によく注意して運転してください。

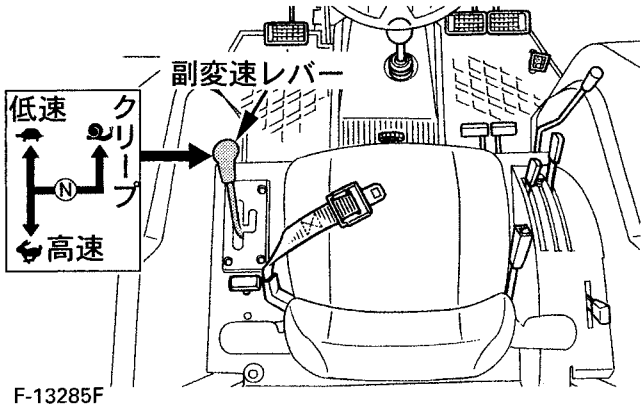
レバーを持ち上げ，前に押して［**前進**］，手前（後）に引いて［**後進**］です。
クラッチペダルを踏まないと変速できません。

◆シャトルレバーの使い方

1. シャトルレバー操作をする前にエンジン回転を下げてください。
2. ［**前進**］・［**後進**］のシフト操作は、クラッチペダルを踏み込み、ブレーキペダルを踏み込み、停止してから操作してください。
3. 前進・後進の急な変速はトランスミッションの寿命の低下や損傷の原因になります。

■クリープ速度

クリープ速度では車軸の回転力が非常に強くなるので，ブレーキペダルを強く踏んだだけではブレーキはききません。
クラッチペダルを踏み込み、副変速レバーを［🐌］に変速すると、クリープ速度が得られます。



クリープ速度は，使用する作業と取扱い方を誤ると故障の原因になります。
次のことに注意してお使いください。

1. 使用できる作業
 ・ロータリでの深耕・細土耕うん作業。
 ・ロータリで，ほ場がかたく標準速度で耕うんできない場合。
 ・プランタによる移植作業。
 ・農業用トレンチャによる作業（農業用に限る）。
 ・車への積み・降ろしをするとき。
2. 使用できない作業（故障の原因になります）
 ・湿田での沈没状態から脱出する作業。
 ・けん引・トレーラ作業。
 ・フロントローダ作業。
 ・フロントブレード作業（除雪作業）。
 ・土木作業。
 ・ほ場への出入り。
3. クリープ速度を使用するときは，必ず次のことを守ってください。
 ・変速は，クラッチペダルをいっぱい踏込んでから行なってください。
 ・発進は，必ず駐車ブレーキを外してから行なってください。
 ・クリープ速度では車軸の回転力が非常に強くなるので，ブレーキペダルを強く踏んだだけではブレーキはききません。
 停止は，必ずクラッチを切ってからブレーキをかけてください。

重　要

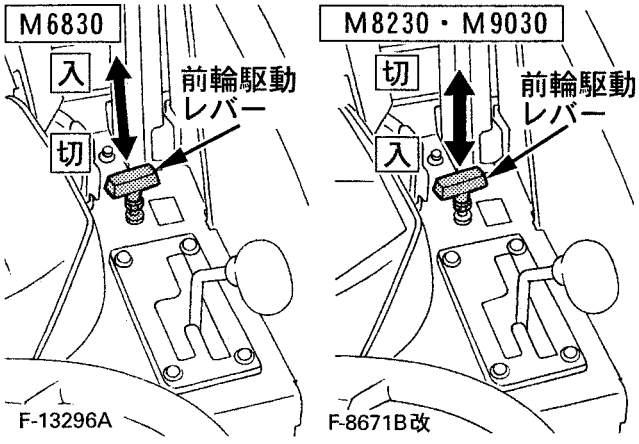
＊ クリープ速度でブレーキペダルをあまり強く踏むと故障の原因になります。
＊ クリープ速度では，けん引作業をしないでください。
超低速で無理な負荷をかけると故障の原因になります。

補　足

＊ 副変速レバー操作時，レバー操作が重くなるときがあります。
そのときは，クラッチペダルを踏み直し，再度副変速レバーを操作してください。
＊ また，クラッチペダルを踏み直してもまだレバー操作が重いときは，いったん主変速レバーを［**中立**］(N) にしてから操作してください。

■前輪駆動レバー

前輪駆動の断続に使用するレバーで，クラッチペダルを踏込み操作します。



重　要

＊ 前輪駆動レバーは，［**入**］か［**切**］の位置にしてください。
中間の位置で運転すると故障の原因になります。

◆前輪駆動の使い方

前輪駆動は，次のような場合に使用してください。

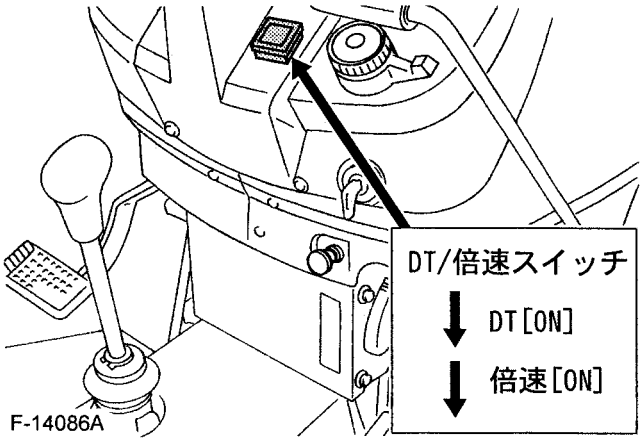
1. 傾斜地，湿田，トレーラ運搬，フロントローダ作業などけん引力を必要とする場合。
2. 砂地で作業をする場合。
3. 固い農場で，ロータリ耕うん時の飛出しを防止する場合。
4. ほ場への出入り及びあぜ越えを行う場合。

補　足

＊ 舗装道路や高速走行時の４輪駆動は避けてください。
思わぬ事故の原因にもなります。
又，タイヤの摩耗を早める原因にもなります。

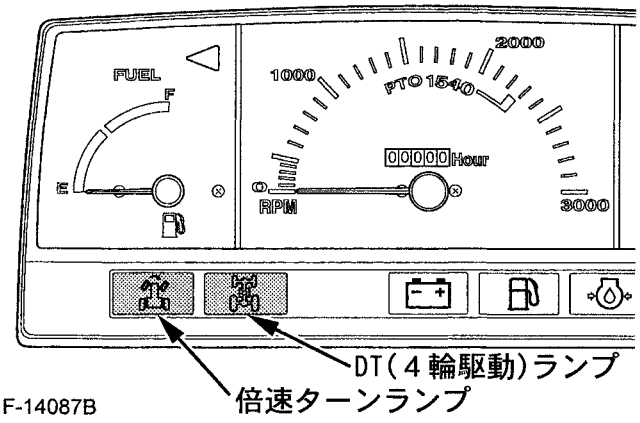
■DT/倍速スイッチ［AT, B（倍速）仕様］

スイッチを１回押す・・・DT　ランプが点灯し４輪駆動になります。
スイッチを２回押す・・・DT/倍速スイッチランプ，倍速ターン及び DT ランプが点灯し倍速ターンになります。
スイッチを３回押す・・・全ランプが消灯し，２輪駆動に戻ります。



◆DT/倍速ターンパイロットランプ

4輪駆動及び倍速ターンの［入］・［切］をパイロットランプで表示します。



F-14087B

◆前輪駆動の使い方

前輪駆動は，次のような場合に威力を発揮します。

1. 傾斜地，湿田，トレーラの運搬・フロントローダ作業時で，けん引力が必要な場合。
2. 砂地で作業する場合。
3. 固い農場で，ロータリ耕うん時の飛出しを防止する場合。
4. ほ場への出入り及びあぜ越えを行なう場合。

補　足

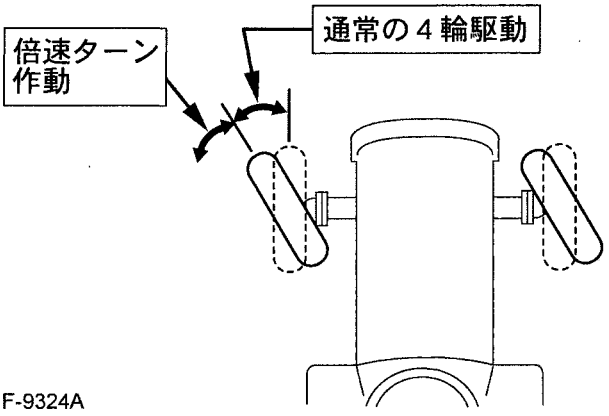
＊ 舗装道路や高速走行時の前輪駆動は避けてください。思わぬ事故の原因にもなります。前輪駆動は必ず切ってDTランプが消えていることを確認してから走行してください。又，タイヤの摩耗を早める原因にもなります。

◆倍速ターンの使い方

警　告

＊ 倍速ターンに入れたままでは，ほ場以外を走行しないでください。ほ場から出る前にDT/倍速スイッチを前輪駆動［入］又は前輪駆動［切］に切換えてください。
＊ 倍速ターンは，畑，水田などのロータリ耕作業に役立ちますが，使用法を誤ると転倒などのおそれや故障の原因にもなります。

倍速ターンの作動は下図のようになっています。［倍速］モードで旋回動作に入り，ステアリングハンドルを切っていくと，前輪の切れ角が，直進状態からある一定の角度になるまでは，通常の4輪駆動の回転数で前輪が駆動されます。更にステアリングハンドルを切ると，倍速ターンが作動し，前輪の回転数がそれまでの約2倍の回転数で駆動され，小さくスムーズな旋回が行なえます。



F-9324A

重　要

＊ トレーラけん引作業などの速度の速い作業には，使用しないでください。
＊ フロントローダを装着した場合は，使用しないでください。

5. エンジンを加速します。

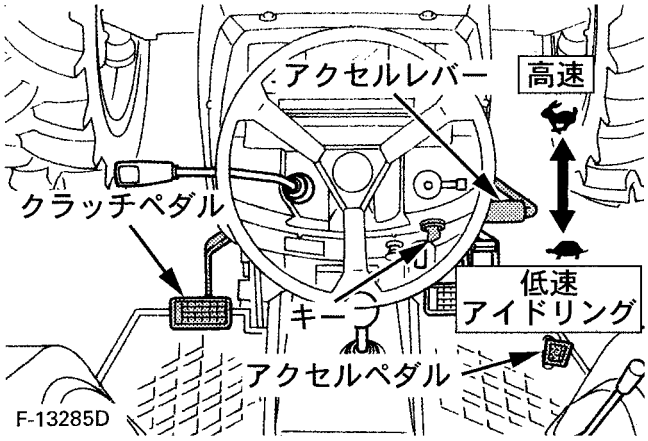
■アクセルレバーとアクセルペダル

◆アクセルレバー

主に農作業時に使用する。
レバーを前側に押すと，エンジン回転が上がる。
レバーを手前に引くと，エンジン回転が下がる。

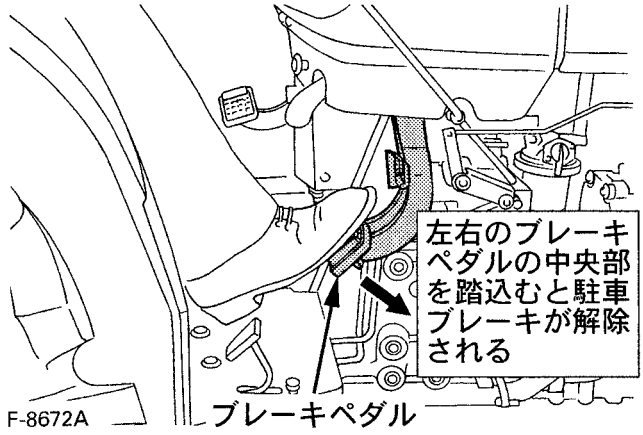
◆アクセルペダル

主に走行時に使用する。
ペダルを踏込むと，エンジン回転が上がる。
ペダルから足を離すと，アクセルレバーで設定しているエンジン回転まで戻る。



6. 駐車ブレーキを解除します。

■駐車ブレーキ



7. クラッチペダルをゆっくり離します。

重　要

＊ クラッチの寿命を伸ばすため，半クラッチの使用時間・回数を少なくするように，次の点にご注意ください。

1. 速度調節はクラッチで行なわないようにしてください。
2. 作業に応じた車速及びエンジン回転を選択してください。
3. クラッチペダルの上に足を乗せたまま運転しないでください。
   知らないうちに半クラッチを使用していることになります。
4. トレーラけん引作業時などの発進は，低速度段で行ない，次に必要な車速段に入れて走行してください。
   （クラッチの寿命が長くなります。）

停車・駐車

注 意

* 駐車するときは，平坦でトラクタが安定する場所を選び，各変速レバー（主変速・副変速・シャトル変速）を［中立］(N)，PTO クラッチコントロールレバーを（切），作業機を［下げ］，駐車ブレーキを［掛け］，エンジンを［停止］してキーを抜いてください。
やむをえず坂道で駐車する場合は，タイヤに車止めをしてください。
* 乾いた草やワラなど可燃物の堆積した場所には駐車しないでください。
* 格納などでトラクタにシートをかける場合は，マフラやエンジンが十分冷えてから行なってください。火災の原因になります。
* トラクタから降りるときは，ロータリなどの PTO 作業機が完全に止まるまで待ってください。

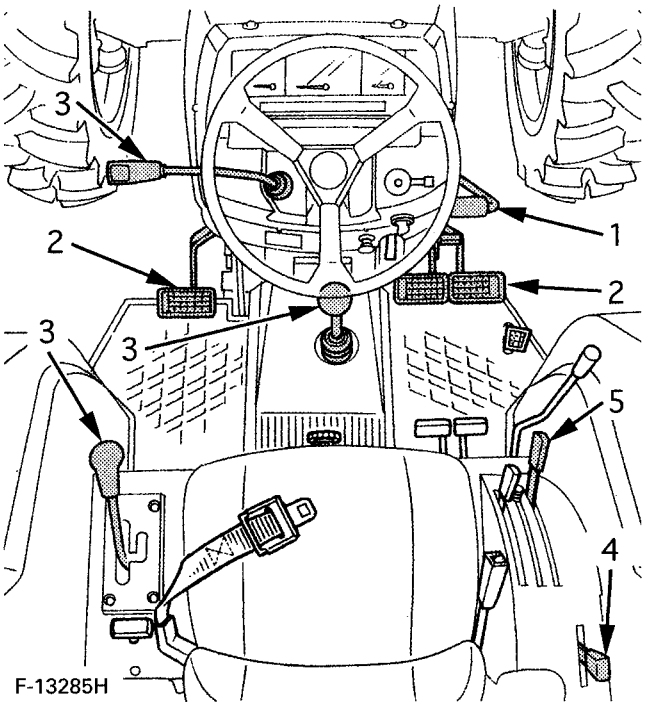
1. アクセルレバーを手前に引き，エンジン回転をアイドリング状態にします。

2. クラッチ及びブレーキペダルを［踏込み］ます。

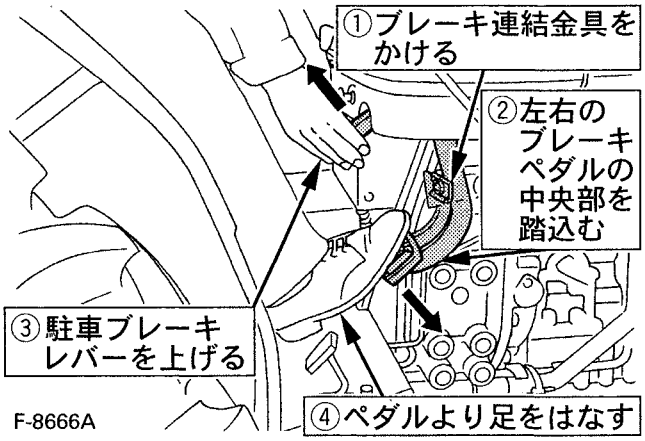
3. 完全に停止してから，主変速，副変速及びシャトルレバーを［中立］（N）にします。

4. PTO を使用している場合は，PTO クラッチコントールレバーを（切）にして，PTO を停止させます

5. 作業機を取付けている場合は，ポジションコントロールレバーをゆっくり［前方に倒し］作業機を下げます。



6. 駐車ブレーキを確実に［掛け］てください。



7. キースイッチを［切］にして，エンジンを停止します。

運転中の作動確認

トラクタの運転中は，各部が円滑に作動しているかどうかを，たえず注意してください。

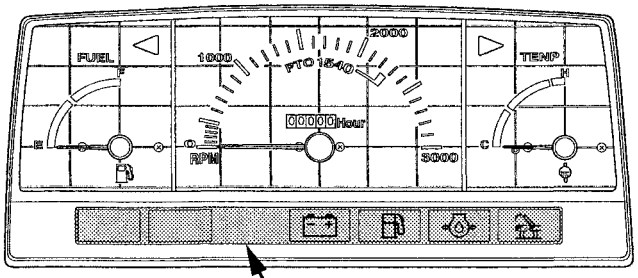
■次の場合には，直ちにエンジンを止めてください。

1. 回転が急に下降したり上昇したりする。
2. 突然，異常な音をたてた。
3. 排気色が急に黒くなった。

運転中，メータ類に異常がないか，またイージーチェッカランプが点灯していないかを，たえず注意してください。

■イージーチェッカ

運転中イージーチェッカ内の下記警告ランプが点灯したとき，すみやかにエンジンを止め，点灯した箇所の点検をしてください。もし原因がわからないときは，購入先にご相談ください。



イージーチェッカ

F-13282B

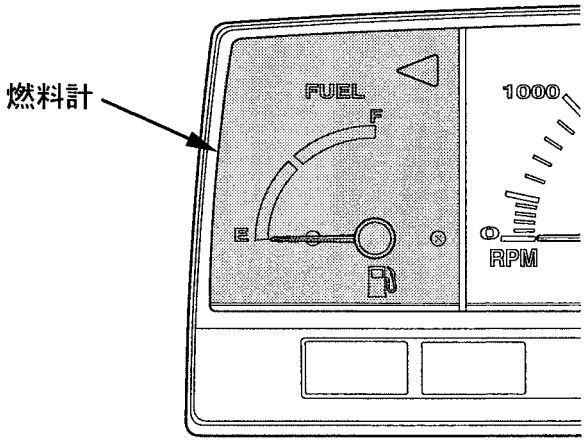
	（バッテリ充電警告灯） エンジン回転中，充電系統が異常のとき点灯する充電警告灯です。 キースイッチを［入］にすると点灯し，始動すると消灯します。
	（燃料残量警告灯） 燃料の残量が約 10L 以下になったとき点灯して警告します。 点灯したままのときは燃料を補給してください。
	（エンジン油圧警告灯） エンジン回転中，潤滑系統が異常のとき点灯するエンジンオイル油圧警告灯です。キースイッチを［入］にすると点灯し，エンジンを始動すると消灯します。点灯したままのときは，エンジンオイル量を点検してください。
	（ブレーキペダル非連結警告灯） ブレーキペダル連結金具を外すと警告灯が点灯します。 道路走行時などは連結金具をかけ警告灯の消灯を確認してから走行してください。

■燃料計

指針が［E］に近づいたら早めに燃料を補給してください。

からにすると燃料系統に空気が入るので，空気抜きが必要です。

〔詳細は［**必要に応じた点検・整備**］の［**燃料の空気抜きのしかた**］の項を参照してください。〕



F-13282C

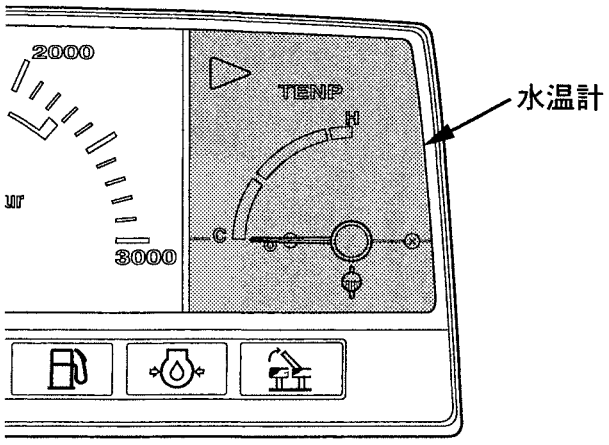
運転中の作動確認

■水温計

注 意

＊ ラジエータキャップは，エンジン運転中及び停止直後に開けると，熱湯が噴出しヤケドをするおそれがあります。停止後 30 分以上たって，冷えてから最初のストップ位置までキャップをゆっくり回し，余圧を抜いてからキャップを外してください。

指針が **[H]**（レッドゾーン）を示すときは，オーバヒート状態ですから下記に従って点検してください。



F-13282D

◆オーバヒートしたときの処置

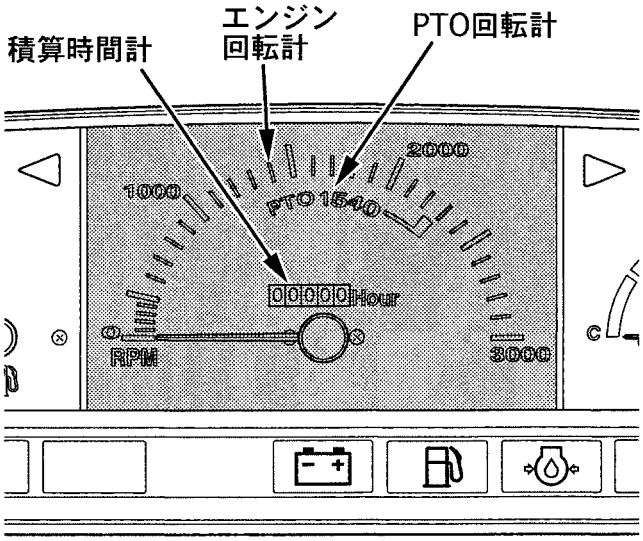
オーバヒート（水温計の針が **[H]** にあるとき）したときは，

1. 作業を中止し，
2. エンジンを約 5 分間アイドリング回転してから，
3. エンジンを停止し，停止後 30 分以上たって冷えてから，次の点検・整備をしてください。
   1. リザーブタンク，ラジエータの冷却水の量（不足），及び水もれがないか。
   2. フロントグリル，防虫網及びラジエータフィンとチューブの間に，泥やゴミが付着していないか。
   3. ファンベルトのゆるみがないか。

重 要

＊ ラジエータのオーバフローパイプから蒸気が噴き出たら，前記 **[オーバヒートしたときの処置]** を行なってください。

■トラクタメータ



F-13282E

◆積算時間計

積算時間計は 5 桁になっており，初めの 4 桁は時間，最後の 1 桁は 1 /10 時間（6 倍すると **[分]** 単位）を示します。

◆エンジン回転計

1 分間のエンジン回転速度を示します。

◆PTO 回転計

エンジン回転計の指針を **[PTO-1-540]** 位置に合わせると，PTO が 540 回転となります。

デフロックの使い方

注　意

＊ デフロックを入れたままで旋回できません。
旋回の前に必ず解除してください。
＊ 道路走行時には絶対にデフロックを使用しないでください。ハンドル操作ができなくなります。

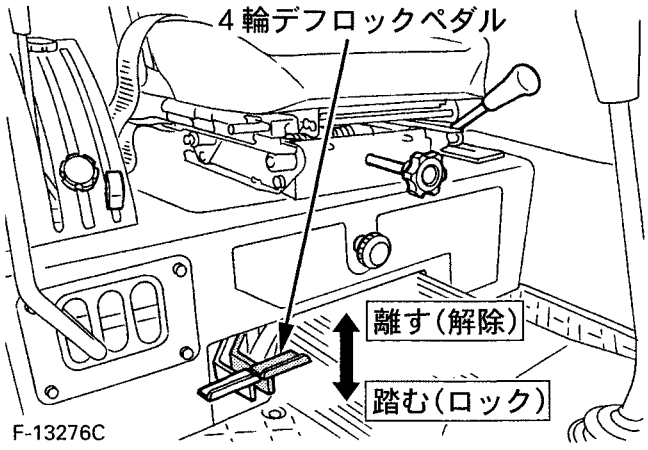
■４輪デフロックペダル

左右の前・後輪が同じ回転速度で駆動される装置で，スリップ防止に効果があります。

◆デフロックの使い方

デフロックは，下記のような場合に使用します。

1. 農場への出入りやフロントローダ作業時など，片車輪がスリップして直進できないとき。
2. 農場の一部軟弱なところに片車輪が入り込み，スリップして走行がしにくくなったとき。
3. プラウ作業などけん引力を必要とする作業で，片側車輪がスリップしたとき。



F-13276C

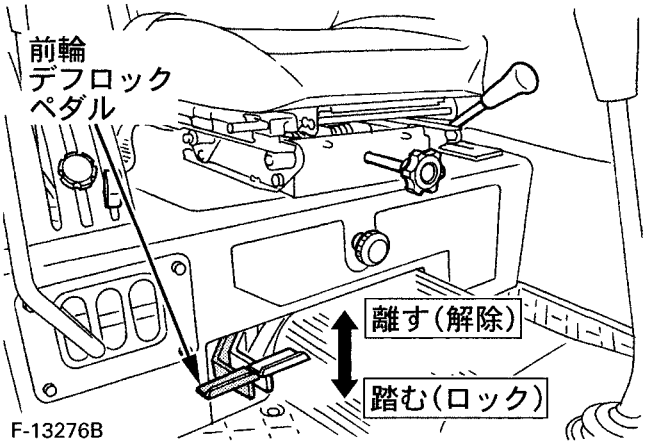
■前輪デフロックペダル

左右の前輪が同じ回転速度で駆動される装置で，スリップ防止に効果があります。

◆デフロックの使い方

デフロックは下記のような場合に使用します。

1. 軟弱な農場内で旋回するときに，前輪がスリップして旋回が困難になったとき。
2. プラウ作業や傾斜地を等高線沿いに走行する作業など，直進性を必要とするとき。



F-13276B

重　要

＊ デフロックを入れるときは，エンジン回転を下げてから行なってください。
＊ ４輪デフロックが抜けにくいときは，ブレーキペダルを左右交互に軽く踏んでください。
＊ 前輪デフロックが抜けにくいときは，ハンドルを左右交互に回してください。
＊ 使用しないときは，足をペダルにのせないでください。

補　足

＊ デフロックは前輪駆動［入］の状態で使用すると最も効果があります。

旋回のしかた

注　意

＊ 高速で旋回すると，横転するおそれがあります。
デフロックペダルの解除を確認して，できるだけエンジン回転を落とし，ゆっくりと旋回してください。

坂道での運転

警　告

＊ ブレーキペダルの連結及びデフロックの解除を確認してください。
＊ 坂道では変速を中立にしたり，クラッチを切ったりして惰性で走行しないでください。
惰性運転をすると，スピードが出すぎて制動不能や，転倒事故を引起こすおそれがあります。
＊ 急な坂では途中で変速しないでください。
あらかじめ安全な車速に変速してから走行してください。

1. 坂道状況に応じた安全なスピードで，エンジンにできるだけ負担をかけないように走行しましょう。
2. 登り坂ではノッキングさせないように早めに遅い変速位置にしましょう。
3. 下り坂ではエンジンブレーキを活用しましょう。車速を下げるほどエンジンブレーキはよくききます。

ほ場への出入り時の注意

警 告

＊ 左右のブレーキペダルは，必ず［連結］しておいてください。
＊ ほ場への出入りは，高低差が大きいと危険です。
アユミ板などを利用してください。
＊ ほ場への出入りは，あぜと直角に行なってください。
＊ ほ場への出入りの際は，あらかじめ遅い車速で運転し，途中で変速しないでください。

注 意

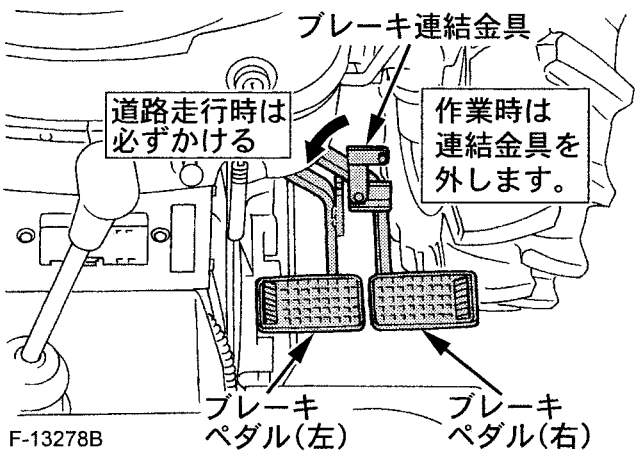
＊ DT/倍速スイッチは［２輪又は４輪駆動］にしてください。［AT,B仕様］

1. 作業機を低く下げて進むと，前輪が浮き上がりません。
常に前・後輪のバランスを考えながら操作してください。
2. あぜを上がるとき，４輪駆動の特色を生かして，バックで上がると格段に上がる能力が増します。

道路走行中の注意

警 告

＊ 道路を走行するときは，左右のブレーキペダルを必ず連結してください。
連結しないと，ブレーキが片ぎきになり，車体が急旋回して，転倒・転落・衝突などの事故を引起すおそれがあります。



注 意

＊ 道路を走行するときは，関係法規を守り安全運転をしてください。
＊ 運転者のほかは乗せないようにしてください。
転落事故の原因になります。
＊ 溝のある農道や両側が傾斜している農道を通るときは，特に路肩に注意してください。
＊ トラクタは，ロータリなどの作業機を装着して公道を走行できません。
【道路運送車両法の保安基準】
(作業機を装着して道路を走行すると，他の車・電柱又はガードレールなどにロータリを引掛けて，事故の原因になります。)

走行中の注意

1. 公道走行中進路方向を変えるときは，方向指示器で進路方向を他の自動車に知らせてください。
2. 夜間走行中，対向車とすれちがうときは，ヘッドランプを下向き照射にし，対向車の妨害にならないように注意しましょう。
3. 踏切では，必ずいったん停止し，左右の確認をしてから，速やかに渡ってください。

補　足

＊ 作業灯は［**道路運送車両の保安基準**］第42条（灯火の色等の制限）において，［**走行中に使用しない灯火**］とされ，点灯したまま道路走行すると他の交通車両の妨害となることから，道路走行中の点灯は禁止されています。

トラックへの積み・降ろし

注　意

＊ アユミ板は，十分な強度・幅・長さ（傾斜が15度以下になる長さ：トラック荷台高さの4倍以上）のあるすべり止め付きのものを使用し，トラクタの重量でアユミ板が傾いたりしない場所を選んでください。
＊ 積み・降ろしはあらかじめ遅い車速で運転し，途中での変速はしないでください。

トラックへの積込みは，必ず左右のブレーキペダルを［**連結**］しバックで行なってください。
万一，途中でエンストした場合は，すぐブレーキペダルを踏込み，その後徐々にブレーキをゆるめ，いったん道路まで降ろし，あらためてエンジンを始動してから行なってください。

パワーステアリングの取扱い

注 意

＊ パワーステアリングはエンジン運転中，ハンドル操作は軽くなりますので，道路走行は慎重に行なってください。

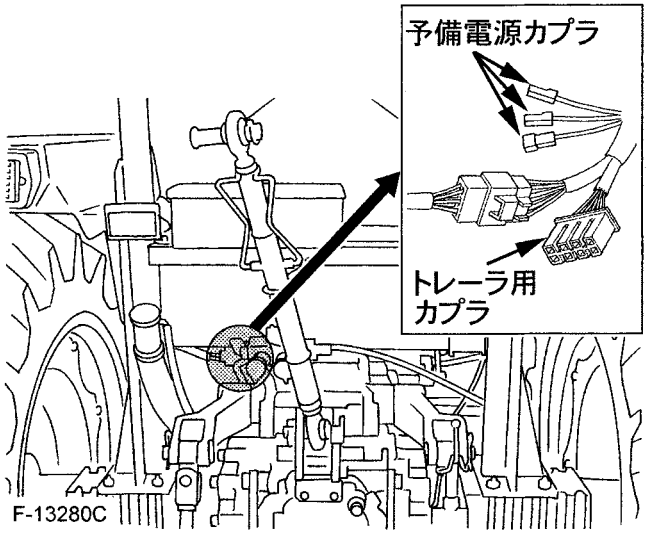
重 要

＊ パワーステアリングは，エンジン運転中だけ作動します。ただし，エンジン回転が低速のときは多少ハンドルが重くなります。
なお，エンジン停止時は，ハンドルの遊びが大きくなりますが，機能上問題はありません。
＊ ローダなどの前部装着作業機を使用し，トラクタを止めたままハンドルを操作すると，途中重くなることがあります。
このときは，低速でトラクタを移動させながらハンドルを操作してください。
＊ ハンドルをいっぱい切ると，安全弁の作動音（リリーフ音）が出ます。
この音が鳴ったまま使用しないでください。（短い時間ではかまいません。）
また，ハンドルのフル回転状態での連続使用は，できるだけ避けてください。
＊ 不必要なハンドルのスエ切り（走行しないでハンドルを切る）は，タイヤ及びリムなどの損耗を早めるので避けてください。
＊ 冬期は暖機運転を十分行なってから使用してください。

外部電源取出端子

■トレーラ用カプラ，予備電源カプラ

トレーラ用電源，予備電源を設けています。



◆トレーラ用電源カプラ（オプション）

1. トレーラと連結時に用いる電源カプラは別途購入してください。（オプション）
2. 電源は下図のとおりです。

トレーラハーネス (3A011-9788-0)
1. アース
2. 尾灯（10W）
車幅灯（5W）
駐車灯（5W）
3. 方向指示器左（21W）
4. 制動灯（21W × 2）
5. 方向指示器右（21W）
6. 予備
7. 後退灯（21W）

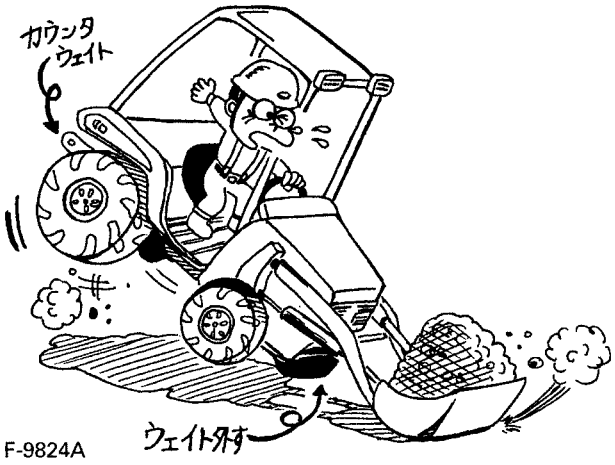
ローダ作業を安全に行なうために！

ローダ作業時の転倒事故を防止するために，次のことがらを必ず守ってください。

1. トラクタ後部にカウンタウエイトを取付ける！

トラクタの後部に，三点リンクを利用して適正量のカウンタウエイトを取付け，前・後輪のバランスを保つようにしてください。

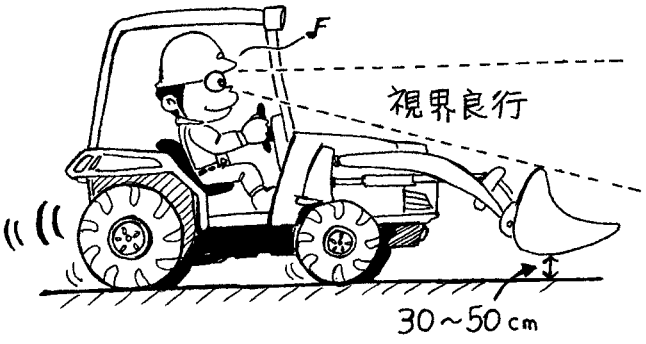
適正カウンタウエイト量（ロアーリンク先端）	
M6830 用 MLH6830 ローダ	８００ kg
M8230・M9030 用 MLH9030 ローダ	



F-9824A

2. 運搬はローダを低く下げてゆっくり走行する！

運搬・走行するときは，積荷の高さを地上から 30 ～ 50cm にし，速度も 5 km／時以下で走行してください。特に傾斜地・悪路では，速度をひかえめに慎重に走行してください。



F-9824B

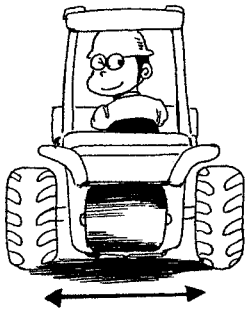
3. 片持ち作業をしない！

片持ち作業はトラクタ横転の原因になりますので，荷物は左・右片寄らないようにバランスよく載せてください。

F-9824C

4. 後輪トレッドはできるだけ広げる！

作業時はトラクタの安全性を増すため，後輪トレッドはできるだけ広げてください。



F-9824D

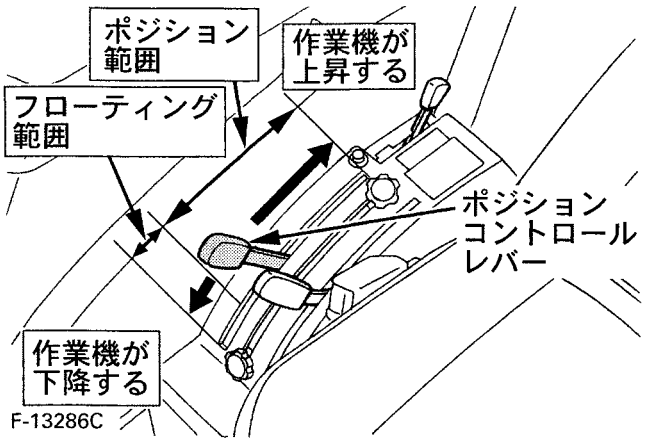
★ 以上，ローダ作業での転倒事故を未然に防いでいただくために，主だった注意事項を挙げました。これ以外にもローダの［取扱説明書］をよく読んで安全に作業をしてください。

作業機昇降装置

油圧装置は，クラッチの断続に関係なくエンジン回転中は常に作動します。

■ポジションコントロールレバー

ポジションコントロールレバーは、油圧によって作業機を上下させる装置です。



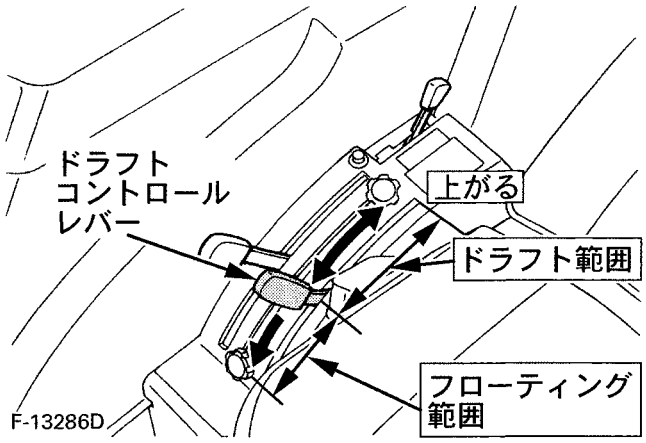
	ポジション コントロール レバー	作業機	作業機の位置
ポジション範囲	下げ方向に移動させる	下がる	この範囲では，作業機を任意の位置にセット・保持できます。
	上げ方向に移動させる	上がる	
フローティング範囲	範囲内に移動させる	下がる	この範囲では，作業機はいっぱいまで下がります。

◆レバーストッパの使い方

1. ポジションコントロールレバーで、希望する作業位置を決めます。
2. その位置にレバーストッパを固定します。
3. その後は、ポジションコントロールレバーをレバーストッパに当るまで動かすことにより、同一の作業位置が得られます。

■ドラフトコントロールレバー

ドラフトコントロールレバーは一定のけん引力を維持する為に作業機のけん引負荷を調節する装置です。



	ドラフト コントロール レバー	作業機	作業機の位置
ドラフト範囲	下げ方向に移動させる	深くなる (標準)	この範囲では作業機のけん引負担に応じて作業機を上下させ一定のけん引力を維持します
	上げ方向に移動させる	浅くなる (敏感)	
フローティング範囲	範囲内に移動させる	下がる	この範囲で作業機はいっぱいまで下がります

レバーを［上げ］位置にすると作業機はいっぱいまで上がります。(M8230/9030 のみ)

◆フローティングの使い方 (プラウのスキ込みをよくするために)

1. ドラフトコントロールレバーをフローティング位置でプラウのスキ込みを行ないます。
2. プラウが希望耕深に達すると、レバーをドラフト設定位置まで戻します。

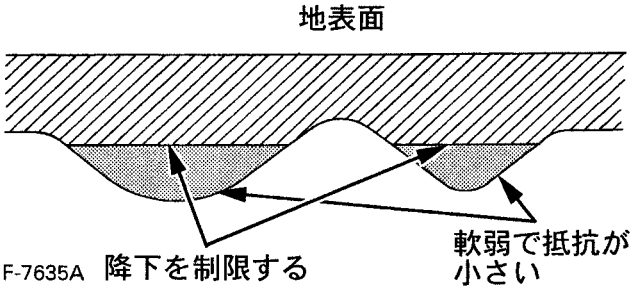
◆ドラフト感度の調整

トップリンクホルダへのトップリンク取付け位置により、感度が調節できます。

〔詳細は［トップリンク］の項を参照〕

■ミックスコントロール

通常ドラフトコントロールを使用する場合，けん引抵抗が小さくなると作業機が降下して，自動的に抵抗を大きくする動きとなりますが，必要以上に降下することがあります。
この場合，ポジションコントロールで降下位置を規制することにより，作業を能率よく，きれいに仕上げることができます。
一般作業はドラフトコントロールで，抵抗に応じて自動的に油圧制御するが，けん引抵抗が小さくなった場合の作業機降下量をポジションコントロールで限定してやる，これがミックスコントロールです。



F-7635A

■作業機落下速度の調整

注　意

ロータリなど作業機を点検する場合は：

* 必ず落下速度調整グリップで，作業機が落下しないようにロック（停止）してください。
* 落下速度調整グリップでロックした後，ポジションレバーを［前方に倒して］，作業機が落下しないことを必ず確認してください。
* 確認後，再度ポジションレバーを上げておいてください。
* ロックするとともに適切なジャッキ又はブロックで歯止めをし，落下防止を行なってください。

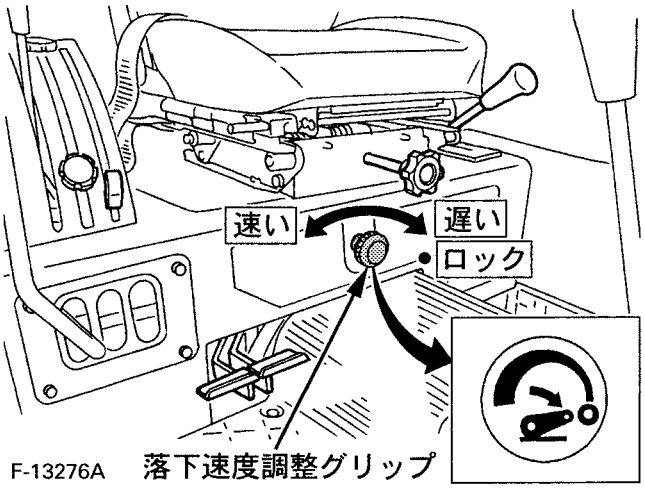
落下速度調整グリップを回すことにより作業機落下速度が調整できます。

［**速い**］方向に回す：
油圧回路が開き，作業機の落下速度が早くなります。
［**遅い**］方向に回す：
油圧回路が閉じ，作業機の落下速度が遅くなります。
（［ロック］方向に軽く締込むと，油圧がロック（停止）します。）

ロータリの落下速度は，上昇位置から接地するまで２～３秒が適当です。
特に耕うん開始時の落下速度が速すぎると滑らかな耕うんができない場合があります。

重　要

* **グリップは軽く回すだけで油圧がロックされますから無理に回さないでください。**



F-13276A　落下速度調整グリップ

作業機昇降装置

◆油圧ロックの取扱い

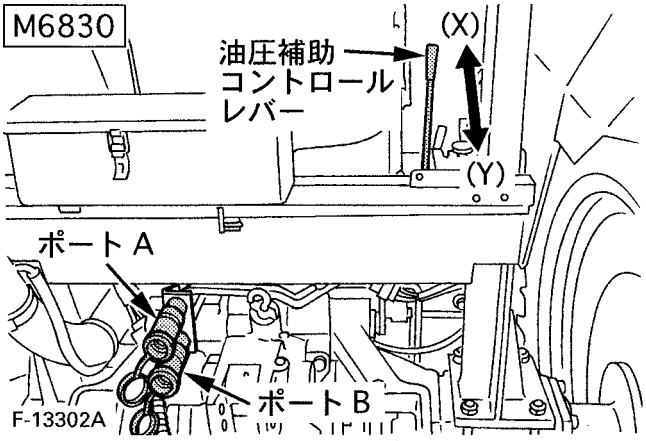
1. トラクタの格納は，作業機を降ろした状態にして保管してください。
   作業機を上げた状態で長時間保管すると，油圧をロックしていても下降することがあります。
2. 作業機を上げた状態で保管する場合は，次の要領で行ってください。
   (1) エンジンをかけた状態で落下調整グリップを油圧がロックする側に回して，軽く締めこんでください。
   (2) ポジションレバーを前方に倒して，作業機が下がらないことを確認してから，再度レバーを上げておいてください。
   (3) エンジンを停止してください。

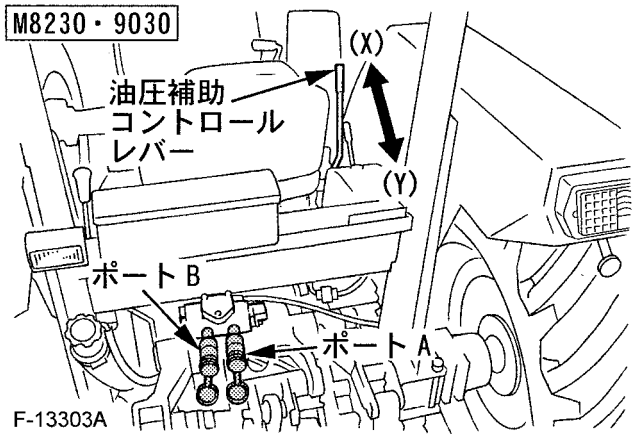
外部油圧取出し

型式	補助コントロールバルブ
M6830	● 単 / 複切替え式バルブ 1 連が標準装備 ● オプションで 2 連まで装着可能
M8230 M9030 (AT, B)	● 1 連目 : 単 / 複切替え式バルブが標準装備 ● オプションで 3 連まで装着可能
M9030 (W, WB)	● 1 連目 : 単 / 複切替え式バルブ、2 連目 : 複動式バルブが標準装備 ● オプションで 3 連まで装着可能

■油圧補助コントロールレバー

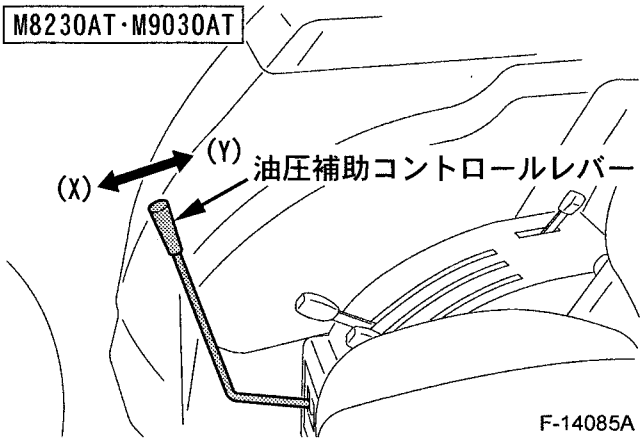
1. 使用する作業機に応じ、単複切替えつまみを［**単動**］又は［**複動**］に切替えてください。
2. 表の油の流れを確認し、レバーを操作します。
   レバーから手を離すと中立に戻ります。



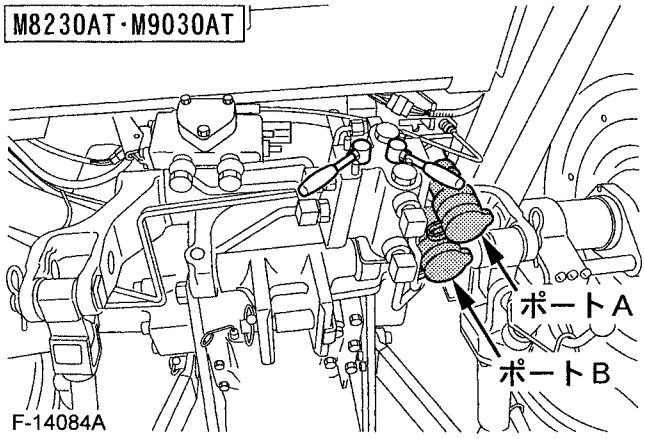


外部油圧取出し

M8230AT・M9030AT



M8230AT・M9030AT



補　足

＊ 作業機の油圧シリンダが複動の場合，油圧シリンダの圧力側（負荷がかかったとき高圧となる側または，漏れを発生させたくない側）をポート B に接続してください。（ポート B のみにチェックバルブが入っています。）

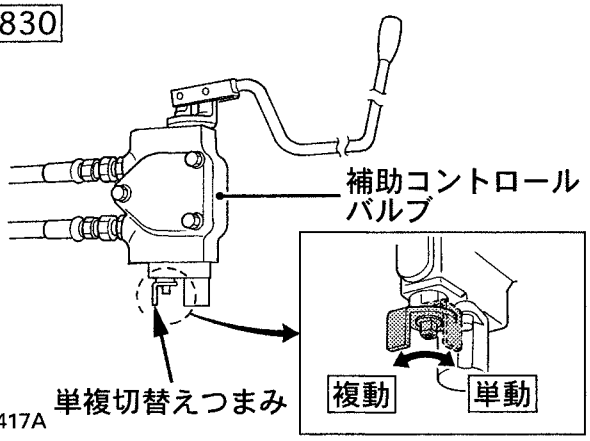
油圧補助コントロールレバー	複動		単動	
	ポート A	ポート B	ポート A	ポート B
X 方向	→ 吐出	← 戻り	—	→ 吐出
Y 方向	戻り ←	吐出 →	—	戻り ←

	カプラサイズ
ポート A・B	NPSF 1/2”

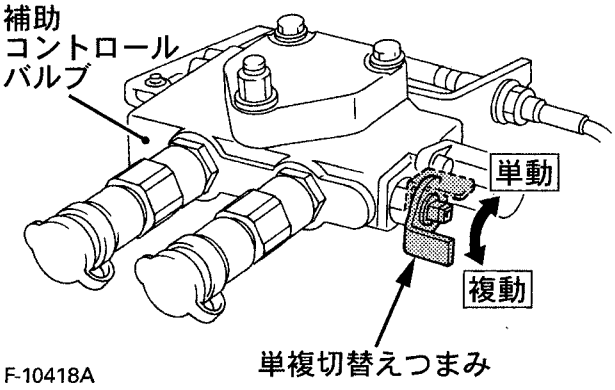
（カプラサイズに注意してください。）

■補助コントロールバルブ 単複切替えつまみ

M6830



M8230・M9030

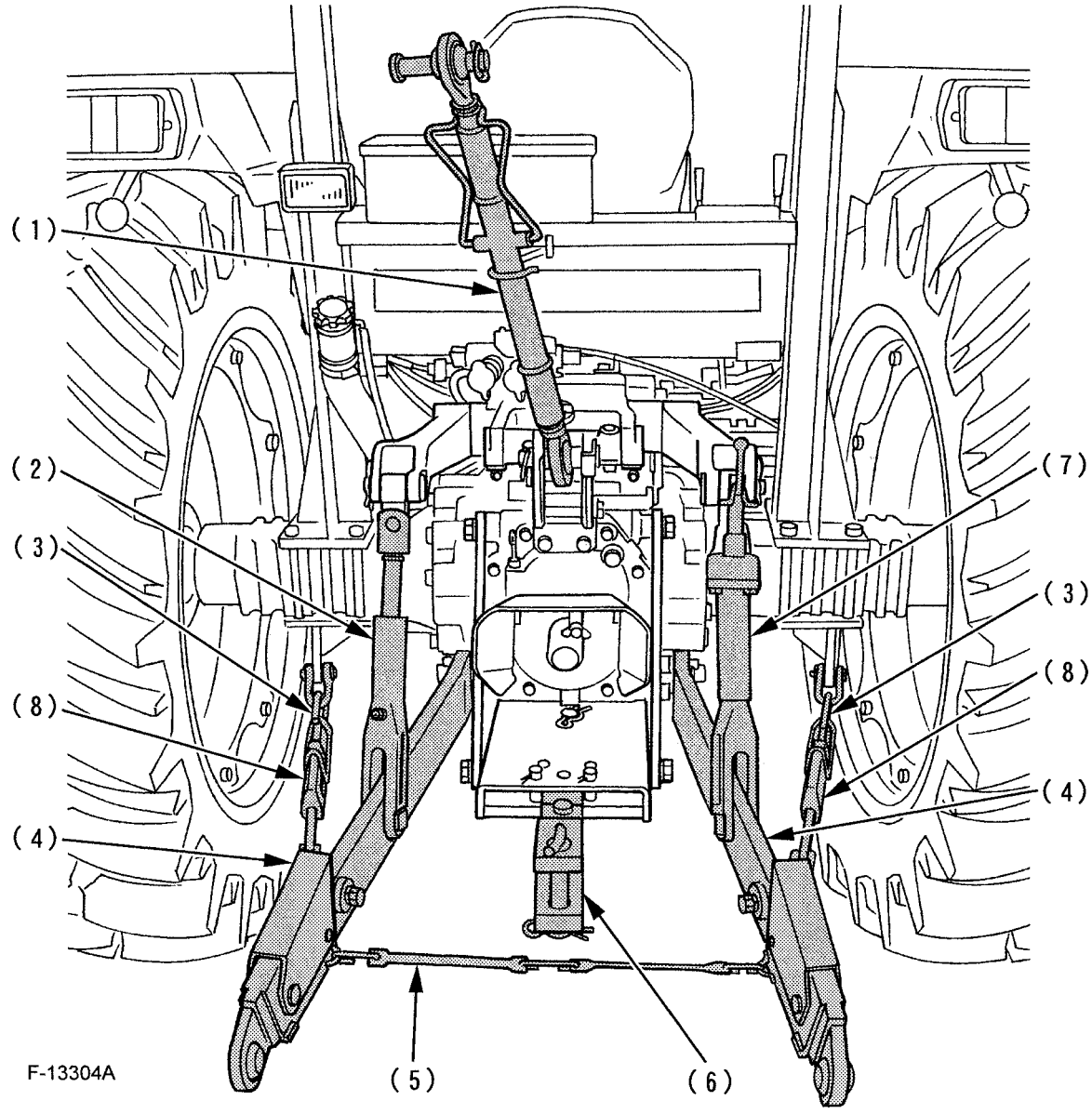


重　要

＊ [単動] の作業機を [複動] の位置で使用するとトラクタの故障の原因になります。
ご使用になる作業機に合わせて，切替えてください。

三点リンク

■各部の名称



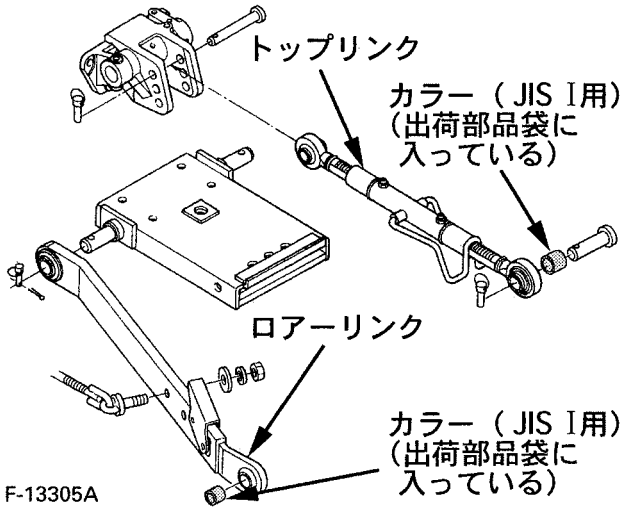
参照ページ
(1) トップリンク 39
(2) リフトロッド左 38
(3) チェックチェーン 40
(4) ロアーリンク 38
(5) 振止めゴム 40
(6) けん引ヒッチ（ドローバ） 41
(7) リフトロッド右 39
(8) ターンバックル 40

1. インプルメント取付け前の準備

■三点リンク（JIS Ⅰ・Ⅱ）の切替え (M6830)

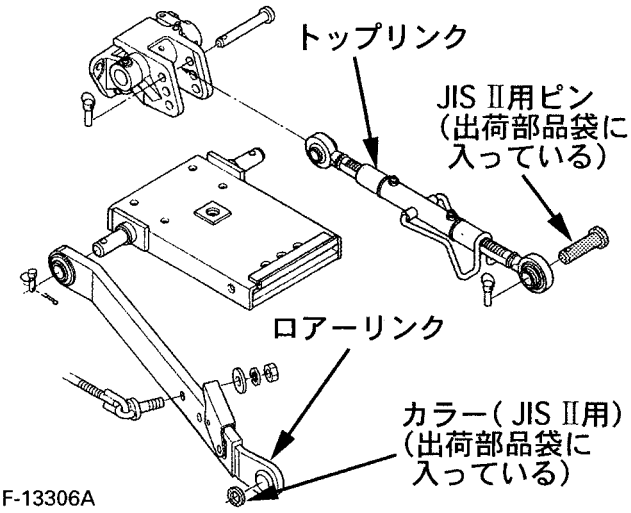
作業機側取付けピンの大きさにより，三点リンクJIS Ⅰ・Ⅱの切換えを行なってください。

JIS Ⅰとして使用する場合



F-13305A

JIS Ⅱとして使用する場合



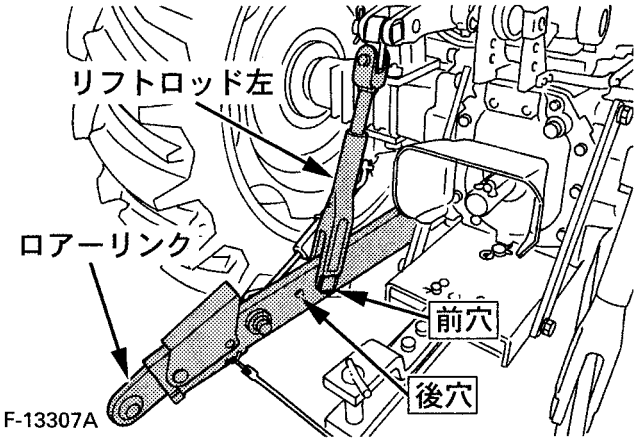
F-13306A

補　足

＊ M8230/9030 は JIS Ⅱのみです。

■ロアーリンク取付け穴の選択

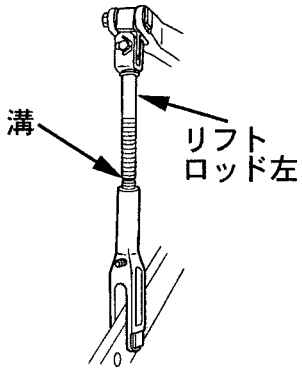
使用する作業機によってロアーリンクの取付穴を選択してください。
一般作業機は，［**前穴**］、重い作業機は［**後穴**］を使ってください。



F-13307A

■リフトロッド（左）の長さ調整

リフトロッドを外し、作業機に応じ長さを調整します。



F-10362A

重　要

＊ リフトロッド（左）は，ネジ部のミゾが見えるまで伸ばさないでください。
伸ばしすぎるとネジ部が外れます。

2. 作業機の着脱

警 告

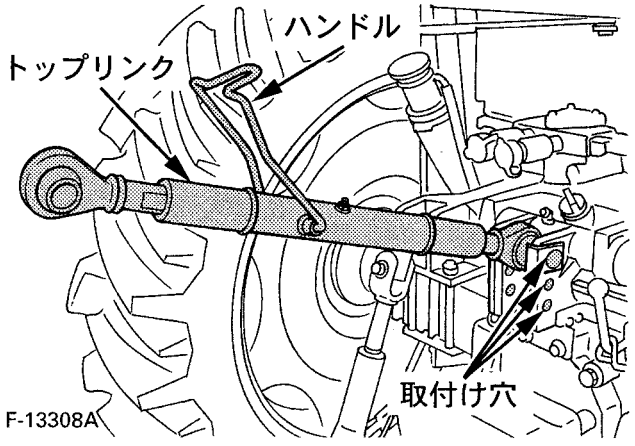
* 作業機を着脱する前，必ずエンジンを止めてください。又，ロータリなどのＰＴＯ作業機は完全に止まるまで待ってください。
* 駐車ブレーキがかかっていないときは，トラクタと作業機の間に入らないでください。
* 作業機の着脱は，固い平坦な場所で行なってください。
* 作業機を取付けたとき，油圧で作業機を上下させ，トラクタとの接触やユニバーサルジョイントの外れがないか点検してください。

■トップリンク

1. 使用する作業機によって取付け穴を選択してください。
   プラウ作業などドラフトコントロールを使用する場合，トップリンクホルダの下穴を使用する程，ドラフト感度がよくなります。

◆トップリンク長さの調整

ハンドルを回し、トップリンクを伸縮させて，作業機の傾きを調整してください。調整後は、ハンドルでロックしてください。

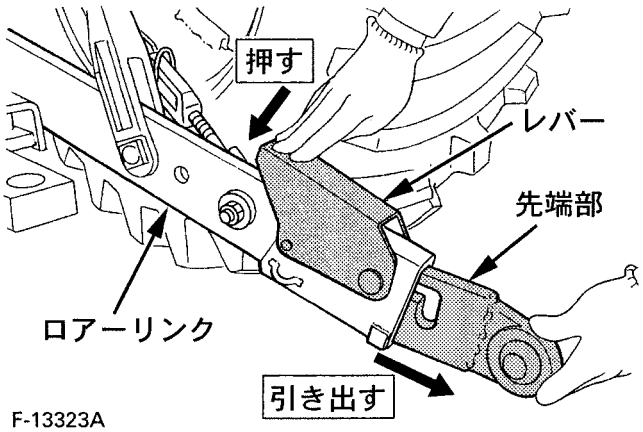


F-13308A

■クイックジョイント

ロアーリンクの先端部が上下・左右に少し動くので，作業機の取付けが容易にできます。

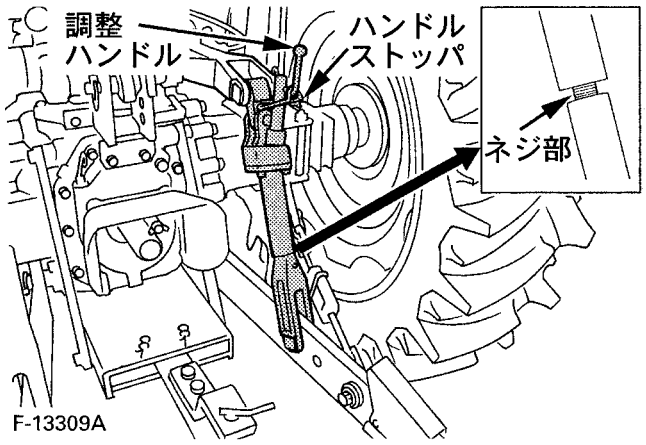
1. レバーを押して先端部を引き出し，作業機を取付けます。
2. 作業機取付け後，トラクタを少しバックさせると，先端部が元に戻って固定されます。



F-13323A

■リフトロッド（右）の長さ調整

1. 調整ハンドルで作業機の傾きを調整してください。
2. 調整後は，ハンドルをストッパで固定してください。



F-13309A

重 要

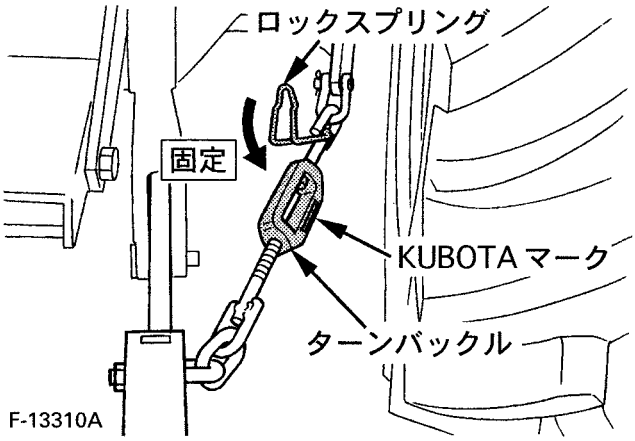
* リフトロッド（右）は，ネジ部が見えるまで伸ばさないでください。伸ばしすぎるとネジが外れます。

三点リンク

■チェックチェーン

ターンバックルを回して，作業機の横振れを制限してください。
調整後はロックスプリングでターンバックルを固定してください。

作業機	チェーンの張り具合
プラウ ハロー サブソイラ ディガー	ゆるめる 作業機が横方向に 5 ～ 6cm 動く程度 （ロアーリンク，リフトロッドがタイヤと接触しないことを確認してください。）
ロータリ モアー ヘイレーキ テッダ リッジャ カルチベータ	軽く締める



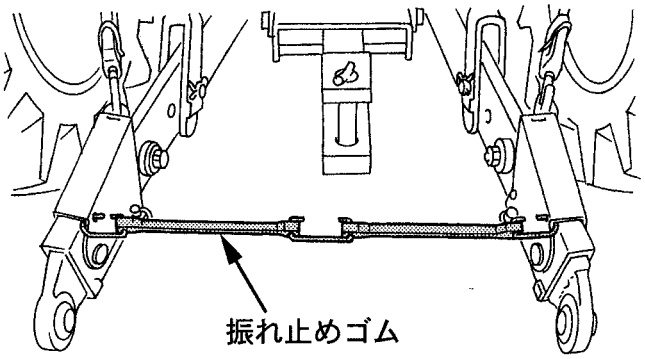
F-13310A

重　要

＊ ターンバックルの KUBOTA マークを下側にしてからロックスプリングで固定してください。逆向きにするとロックスプリングが変形してしまいます。

■作業機を取付けないときの注意

作業機を取付けないときは，ロアーリンクが後輪に当らないように，左右振れ止めをしておいてください。



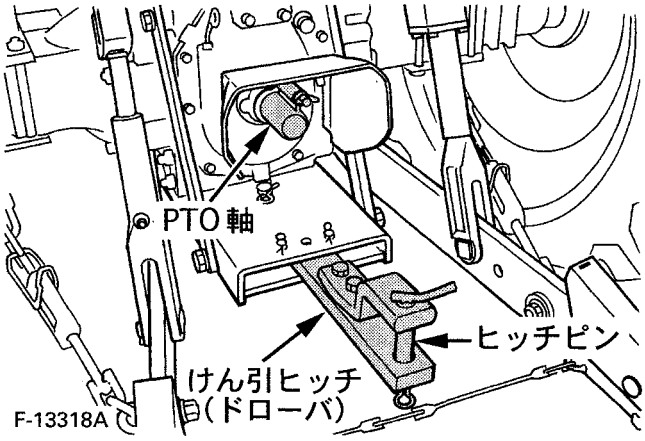
F-13091A

けん引ヒッチ（ドローバ）

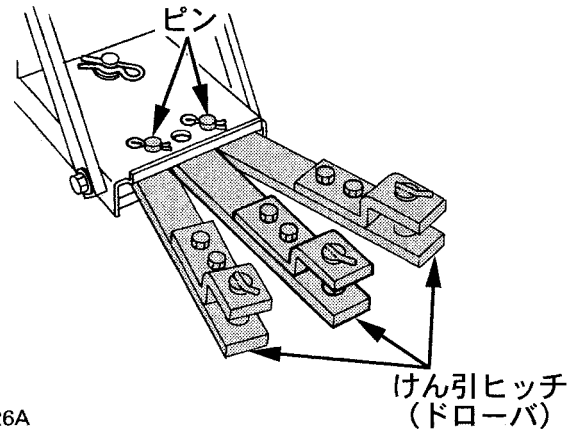
警 告

* けん引作業をするときは，必ずけん引ヒッチ（ドローバ）を使用し，トップリンクブラケットや車軸などで引張らないようにしてください。転倒事故を引起すおそれがあります。
* 三点リンクに取付け，PTO 軸からユニバーサルジョイントで動力を取出すインプルメント（ロータリ，ブロードキャスタなど）を使用するときは，けん引ヒッチ（ドローバ）を外してください。そうしないと，ユニバーサルジョイントがけん引ヒッチ（ドローバ）に当って破損し，事故を起すおそれがあります。

けん引は，このトラクタ用に採用しているインプルメントのみにしてください。
他の物をけん引する場合は，必ず購入先にご相談ください。



F-13318A



F-11026A

PTO

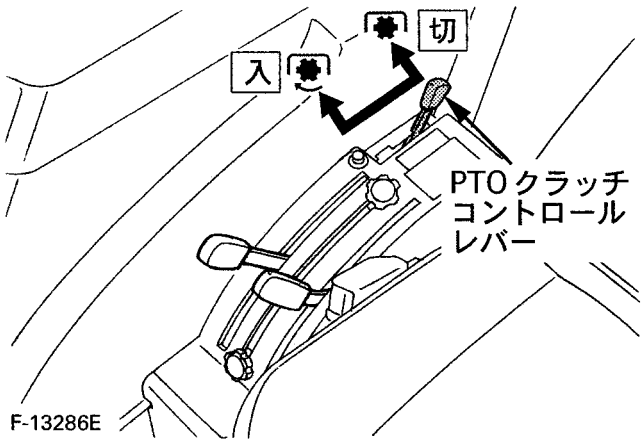
■PTO クラッチコントロールレバー

注 意

* 走行クラッチを踏んだだけでは PTO は止まりません。
  PTO を止めるには，PTO クラッチコントロールレバーを［切］にしてください。
* 走行に関係なくPTOクラッチコントロールレバーを［入］にすると，PTO クラッチが接続されます。

補 足

* PTOクラッチコントロールレバーが［切］の位置でないとエンジンが始動できません。



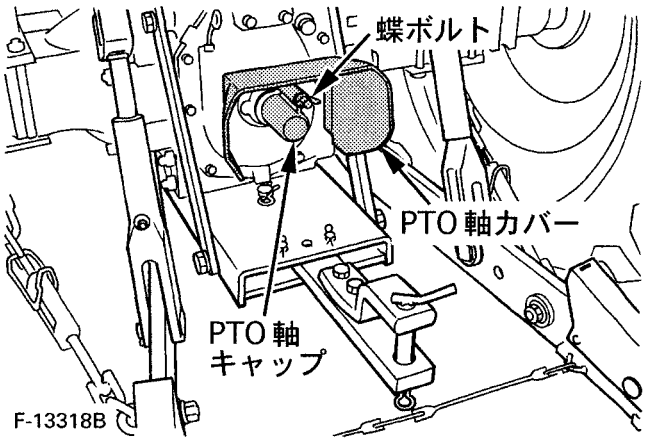
F-13286E

PTO

■PTO 軸キャップ，PTO 軸カバー

注 意

* PTO 軸を使わないときは，PTO 軸にグリースを塗布した後，PTO 軸キャップを取付けておいてください。
  そうしないと，巻込まれによる傷害事故を引起すおそれがあります。
* PTO 軸キャップを使用しないときは，PTO 軸キャップを紛失しないように大切に保管してください。
* PTO 軸カバーは常に取付けておいてください。
* PTO 軸カバーの上に乗らないでください。



タイヤ・ウエイト

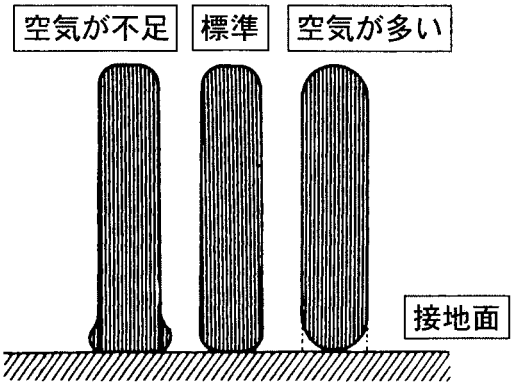
タイヤ

警　告

＊ タイヤの空気圧は，取扱説明書に記載している規定圧力を必ず守ってください。
空気の入れ過ぎは，タイヤ破裂のおそれがあり死傷事故を引き起こす原因になります。
＊ タイヤに傷があり，その傷がコード（糸）に達している場合は，使用しないでください。
タイヤ破裂のおそれがあります。
＊ タイヤ，チューブ，リムなどの交換，修理は，必ず購入先にご相談ください。
（特別教育を受けた人が行うように，法で決められています。）

■タイヤの空気圧

前輪・後輪の空気圧が適正であるかを調べます。
外観から判断する目安は次のとおりです。



F-1010A

◆標準空気圧

・ バイアスタイヤ　　〔 〕内はローダ装着時

	タイヤ	空気圧 kPa (kgf/cm²)
前輪	9.5-24	220(2.2) 〔240(2.4)〕
	11.2-24	180(1.8) 〔200(2.0)〕
	12.4-24	160(1.6) 〔180(1.8)〕
後輪	12.4-36	120(1.2)
	13.9-36	
	16.9-30	
	16.9-34	
	12.4-38	160(1.6)

・ ラジアルタイヤ　　〔 〕内はローダ装着時

	タイヤ	空気圧 kPa (kgf/cm²)
前輪	9.5R24	140(1.4) 〔160(1.6)〕
	11.2R24	
	12.4R24	
後輪	13.6R36	140(1.4)
	16.9R34	

輪距の調整

注 意

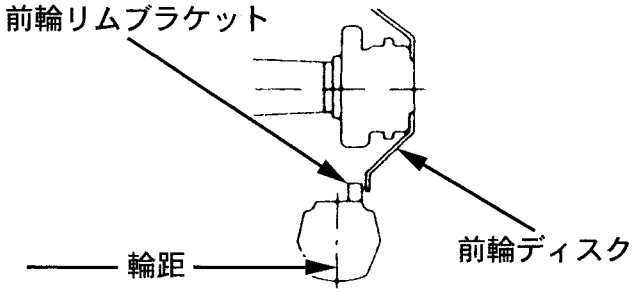
* けん引作業・傾斜地作業・フロントローダ作業などの場合は，左右の安定を良くするため，支障のない範囲で輪距を広くして使用してください。
* 道路走行時は前輪・後輪トレッドを出荷トレッドにしてください。〔出荷トレッドは［ 前輪・後輪輪距 ］の項を参照してください。〕

■前輪

リムとディスクの取付け位置変更により，輪距の調整が行なえます。
(タイヤの仕様により異なります。)

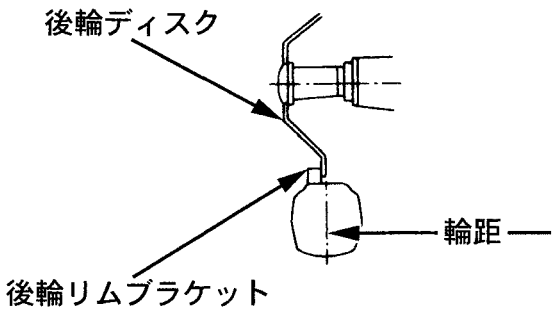
重 要

* 決められた輪距以外では使用しないでください。



■後輪

リムとディスクの取付け位置変更により，輪距の調整が行なえます。
(タイヤの仕様により異なります。)



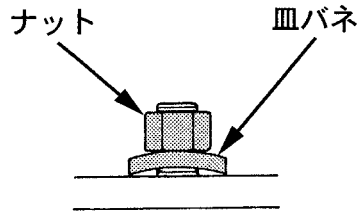
重 要

* 決められた輪距以外では使用しないでください。

補 足

* タイヤは，側面の矢印が前進時の回転方向に合うように取付けてください。
* 後輪ウエイトは，すべての輪距で取付けられます。

1. 皿バネの取付け方向には十分注意し，図のようにしてください。

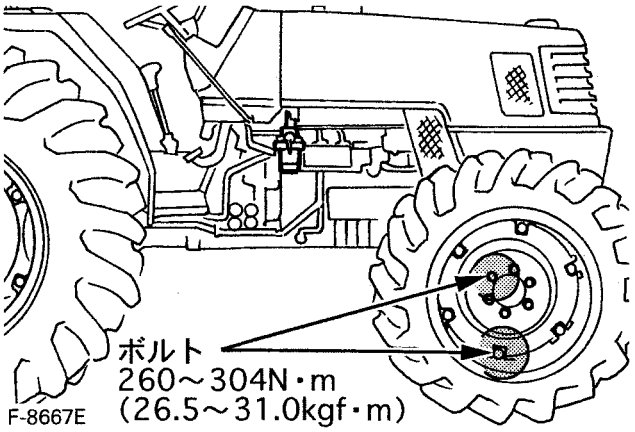


F-10320A

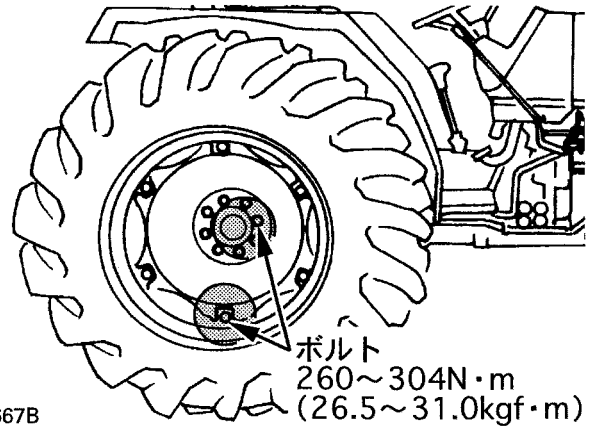
輪距の調整

2. フロントローダ作業など重作業時，タイヤのボルト，ナットは規定トルクで十分締めあげ，締め忘れのないよう注意してください。
   また，しばらく作業した後，再度トルクチェックを行ない，増し締めを行なってください。

3. ボルト，ナット，スタッド，皿バネやリム，ディスクの締付け面に油やグリースが付着していると，規定トルクまで締まりあがりませんので，シンナなどで油分をふきとってください。



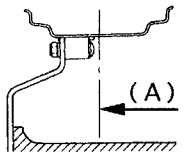
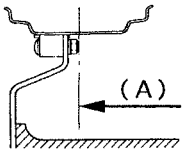
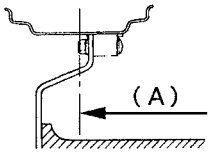
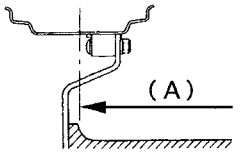
F-8667E



F-8667B

輪距の調整

■前輪輪距

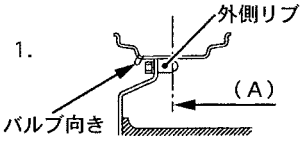
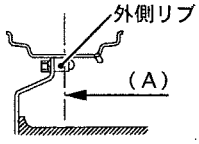
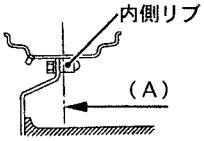
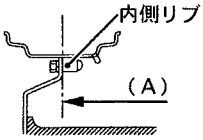
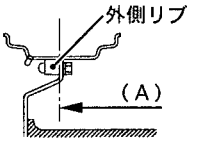
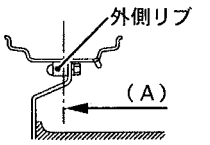
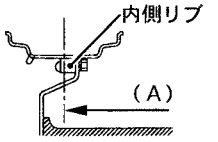
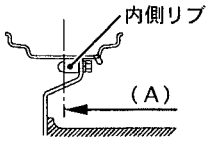
型式	M6830	M6830/8230(B)	M8230(B)/9030(B)	M9030(W,WB)
タイヤサイズ / 輪距（A）（単位：mm）	9.5R24（ラジアルタイヤ）	9.5-24	11.2-24 11.2R24 （ラジアルタイヤ）	12.4-24 12.4R24 （ラジアルタイヤ）
1. 	-	1335	1335	-
2. 	-	1435	1435 （出荷時）	1535 （出荷時）
3. 	-	1420 （出荷時）	1420	1555
4. 	1520 （出荷時）	1520	1520	1655

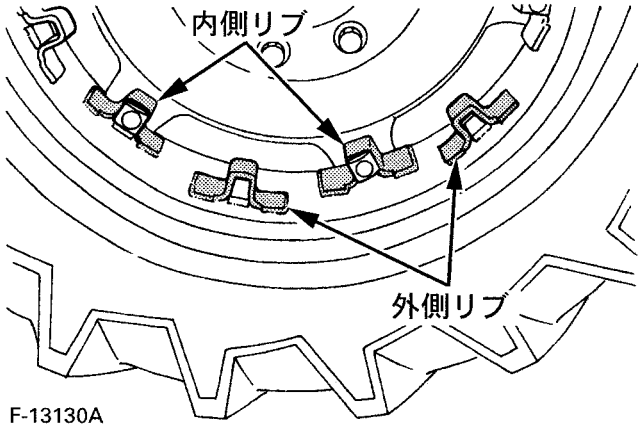
補　足

＊ 輪距の図は左前輪タイヤを示します

輪距の調整

◆前輪 RC タイヤ

型式	M6830 M8230AT M9030AT	M8230(B) M9030(B)
タイヤサイズ / 輪距 (A) (単位：mm)	9.5-24	11.2-24
1. 	1335 (出荷時)	1335
2. 	1365	1365
3. 	1380	1380
4. 	1420	1420
5. 	1435	1435 (出荷時)
6. 	1465	1465
7. 	1480	1480
8.  F-13124A	1520	1520



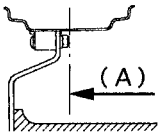
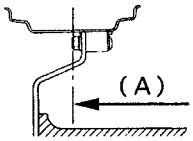
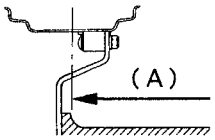
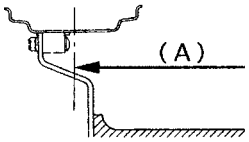
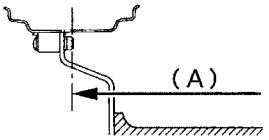
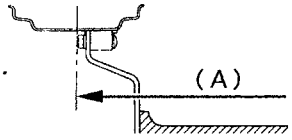
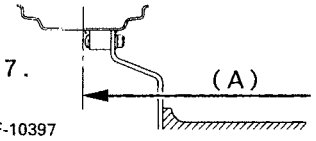
F-13130A

補　足

＊ 輪距の図は左前輪タイヤを示します。

輪距の調整

■後輪輪距

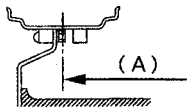
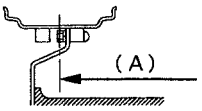
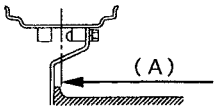
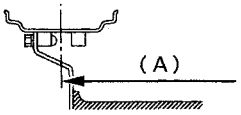
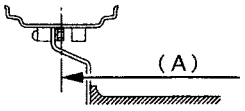
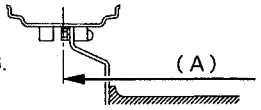
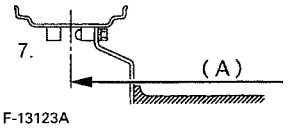
型式	M6830			M8230(B) M9030(B)		M8230AT M9030AT	M9030 (W,WB)
タイヤサイズ / 輪距（A） （単位：mm）	12.4-36	16.9-30	13.6R36 (ラジアル タイヤ)	13.9-36 13.6R36 (ラジアル タイヤ)	16.9-30	12.4-36 12.4-38	16.9-34 16.9R34 (ラジアル タイヤ)
1. 	-	-	-	1300	-	1270～ 1520 (出荷時 1520)	-
2. 	-	-	-	1400 (出荷時)	1400 (出荷時)	1370～ 1620	-
3. 	1320	-	-	1500	1500	1470～ 1720	1505 (出荷時)
4. 	1420 (出荷時)	1420 (出荷時)	-	1600	1600	1570～ 1820	1655
5. 	1520	1520	1520 (出荷時)	1700	1700	1670～ 1920	1785
6. 	1620	1620	1620	1800	1800	-	1855
7.  F-10397	1720	1720	1720	1900	1900	-	1985

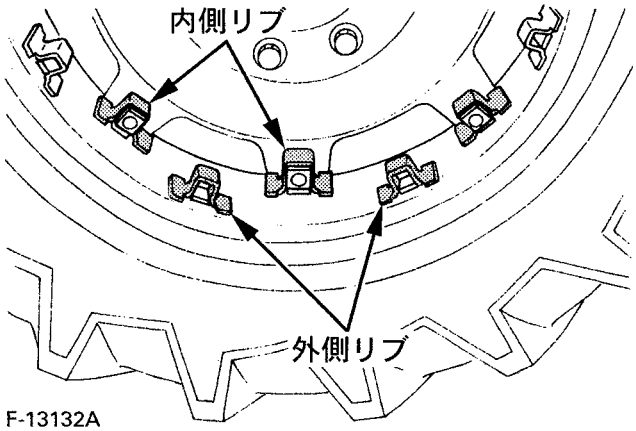
補　足

＊ 輪距の図は左後輪タイヤを示します。

輪距の調整

◆後輪 RC タイヤ

型式	M6830	M8230(B) M9030(B)
タイヤサイズ / 輪距 (A) (単位:mm)	12.4-36	12.4-38
1. 	–	1300
2. 	–	1400 (出荷時)
3. 	1320 (出荷時)	1500
4. 	1420	1600
5. 	1520	1700
6. 	1620	1800
7.  F-13123A	1720	1900



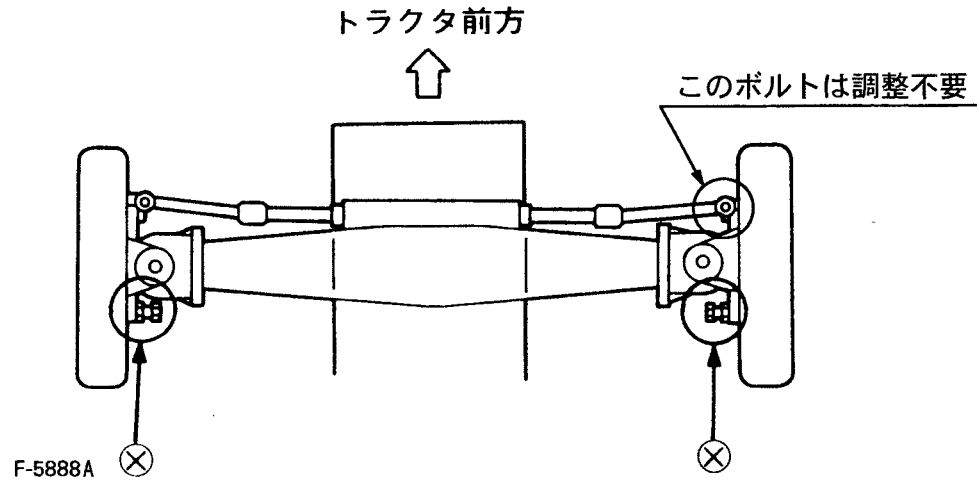
F-13132A

補　足

＊ 輪距の図は左後輪タイヤを示します。

輪距の調整

■前輪切れ角の調整



（×）部ストッパの調整要領	
[A]	出荷状態 ストッパボルト ロックナット L=9mm ＊左側に取付けた状態 F-9468A
[B]	ストッパボルト バネザガネ ストッパ ＊出荷部品のバネザガネを組付けてください ＊左側に取付けた状態
[C]	ストッパボルト バネザガネ ストッパ ＊出荷部品のバネザガネを組付けてください ＊左側に取付けた状態

タイヤサイズ	トレッド		
	1335-1520		
9.5-24 9.5R24	[A]	-	-
	1335	1420	1435,1520
11.2-24 11.2R24	[C]	[B]	[A]
	1535-1655		
12.4-24 12.4R24	[A]	-	-

■ストッパ調整要領

1. 従来のストッパボルトとロックナットを取外し、左図のようにストッパを取付け、ストッパボルトを軽く締めてください。
2. エンジンを回転させステアリングハンドルを回して、ストッパを２～３回ベベルギヤケースに接触させてください。(ストッパの接触面の位置決めをするため)
3. その後、ストッパボルトを締込みますが、ストッパの位置がずれないようにするため、モンキーレンチでストッパの回り止めをしてからストッパボルトを強く締込んでください。

補　足

＊ 取外したロックナットは紛失しないでください。

＊ [B] 又は [C] で使用後、[A] に戻して使用する場合、前側ボルト（上図の**「このボルトは調整不要」**）と同時当り又は１～２ mm のすき間になることを確認してください。

ウエイト

注　意

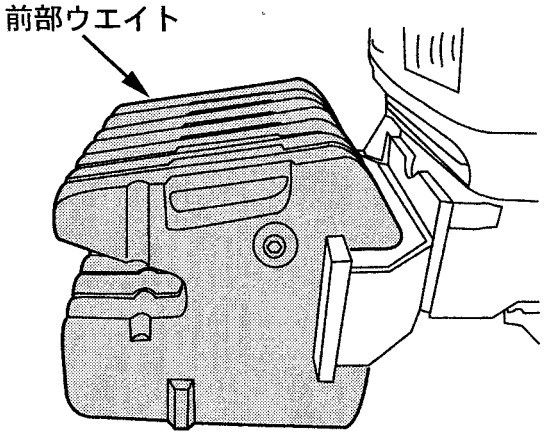
＊ トラクタ後部用作業機を装備したとき，かじ取り車輪（前輪）にかかる荷重が総重量の 20%以上になるようにバランスウエイトを装備し，使用してください。
＊ 装着可能な最大ウエイトを装備してもかじ取り車輪（前輪）にかかる荷重が総重量の 20%以上を確保できない作業機は装着しないでください。
前部が軽くなりすぎると、操縦が難しくなり転倒事故のおそれもあります。
＊ フロントローダを使用するときは，安定性を高めるためトラクタ後部に作業機や適切なウエイトを装着してください。(詳細は購入先にご相談ください。)

■前部ウエイト

ウエイトの必要枚数は使用するインプルメントの取扱説明書や購入先にご相談ください。

◆ウエイトの取付け方法

トラクタのウエイト取付台にウエイトをひっかけ，ボルト，ナットで固定します。
ウエイト 1 枚の重量は 45kg で最大 10 枚まで取付けできます。
(ウエイトの標準付属枚数は 8 枚です。)



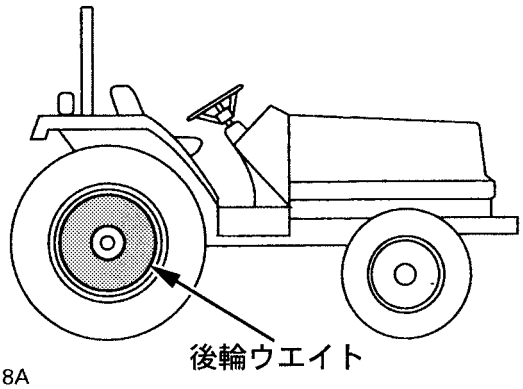
＊ M9030W についてはウエイト取付台および前部ウエイトはオプション採用

■後輪ウエイト（オプション）

ウエイトの必要枚数は使用するインプルメントの取扱説明書や購入先にご相談ください。

重　要

＊ タイヤに過負荷を加えないでください。
下に示した以上にウエイトを追加しないでください。
最大ウェイト（片側タイヤ）
50kg × 2 枚



F-7818A

補　足

＊ ウエイトの着脱は，オプションキット内の要領書を参照してください。

後輪アジャスタブルトレッドの取扱い（AT 仕様）

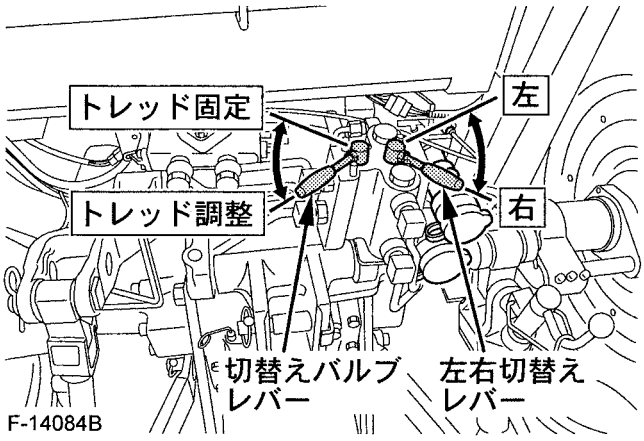
後輪油圧アジャスタブルトレッドの取扱い

注 意

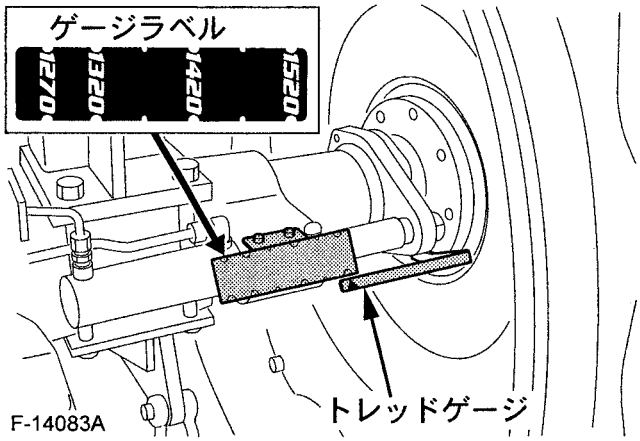
* トレッド調整は，必ず 1920mm を越えないようにしてください。
* 道路走行時は前輪・後輪トレッドを出荷トレッドにしてください。（出荷トレッドは［前輪・後輪輪距］の項を参照してください）
* トレッド調整後は，切替えバルブレバーを必ず［トレッド固定］位置にしてください。

■調整手順

1. エンジンを始動し，エンジン回転をアイドリング状態にします。
2. 補助コントロールバルブ単複切替えつまみを，［**複動**］位置にします。
3. 切替えバルブレバーを［**トレッド調整**］位置にします。
4. 左右切替えレバーを［**右**］又は［**左**］に切替え，低速（約 1 km/h 以下）で進みながら，補助コントロールレバーで操作してください。
   補助コントロールレバーを
   ［**引く**］……トレッドが広くなる。
   ［**押す**］……トレッドが狭くなる。



5. トレッドゲージを見ながら希望する位置に調整してください。



6. 4.5. の操作で，もう一方のトレッドも同じ位置に調整してください。
7. トレッド調整後は，切替えバルブレバーを［**トレッド固定**］位置にしてください。

重 要

* トレッドを調整する前に，車軸のメッキ部分を水洗いしてください。（土が付着した状態でトレッド調整を行なうと，オイルシールの寿命が低下する原因になります。）
* エンジン回転は，必ずアイドリング状態で調整してください。

■ミッションオイル

◆点検

オイル量は，後輪油圧アジャスタブルトレッドを一番縮めた状態で点検してください。（適量はオイルゲージ上限と下限の中間）

後輪油圧アジャスタブルトレッドの取扱い

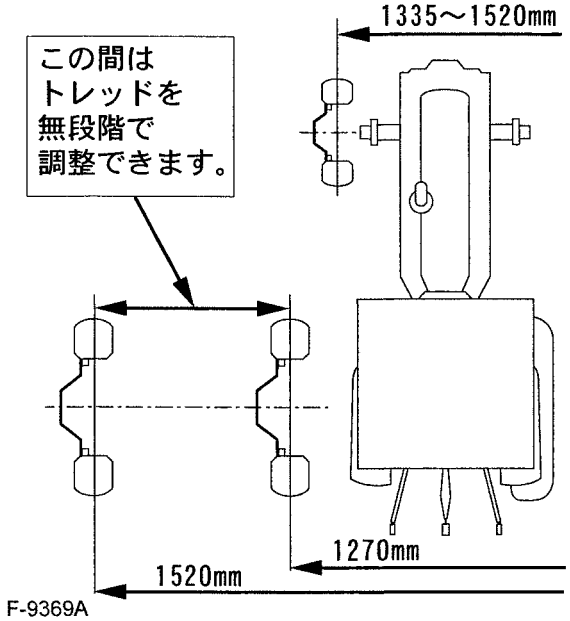
■後輪輪距表

注 意

＊ トレッド調整は，必ず前輪は 1520mm 後輪は 1920mm を越えないようにしてください。
＊ トレッドは，必ず左右同じ位置になるように調整してください。
＊ 狭い輪距で傾斜地作業する場合は転倒に十分注意してください。

補 足

＊ 下図のトレッドは出荷時のリム・ディスクの組合わせ位置による，アジャスタブルトレッド寸法を表示しています。
＊ リム・ディスクによる輪距の調整は，［タイヤ・ウェイト］の章を参照してください。



トラクタの簡単な手入れと処置

注　意

＊ 給油及び点検整備するときは
1. トラクタを平たんな広い場所に置き
2. 作業機を降ろし
3. 駐車ブレーキをかけ
4. エンジンを止め
5. キーを抜き，安全を確認してから行なってください。

そうしないと傷害事故を引起すおそれがあります。

廃棄物の処理について

警　告

廃棄物をみだりに捨てたり，焼却すると、環境汚染につながり、法令により処罰されることがあります。
廃棄物を処理するときは
＊ 機械から廃液を抜く場合は，容器に受けてください。
＊ 地面へのたれ流しや河川，湖沼，海洋への投棄はしないでください。
＊ 廃油，燃料，冷却水（不凍液），冷媒，溶剤，フィルタ，バッテリ，ゴム類，その他の有害物を廃棄，又は焼却するときは，購入先，又は産業廃棄物処理業者等に相談して，所定の規則に従って処理してください。

洗車時の注意

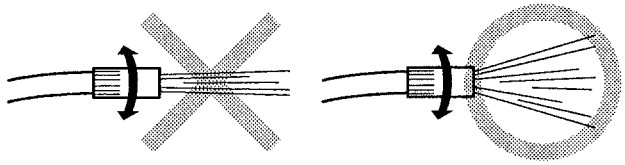
高圧洗車機の使用方法を誤ると人を怪我させたり，機械を破損・損傷・故障させることがありますので，高圧洗車機の取扱説明書・ラベルに従って，正しく使用してください。

注　意

機械を損傷させないように洗浄ノズルを拡散にし，2m 以上離して洗車してください。
もし，直射にしたり，不適切に近距離から洗車すると，
1. 電気配線部被覆の損傷・断線により，火災を引き起こすおそれがあります。
2. 油圧ホースの破損により，高圧の油が噴出して傷害を負うおそれがあります。
3. 機械の破損・損傷・故障の原因になります。

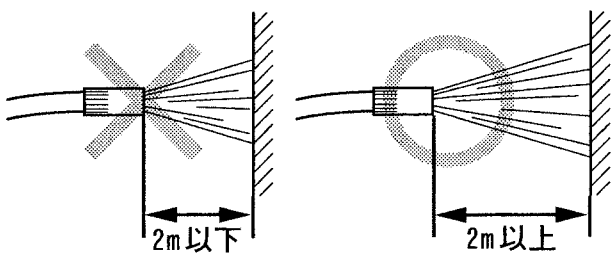
例）(1) シール・ラベルの剥がれ
(2) 電子部品，エンジン・トランスミッション室内，安全キャブ室内等への浸入による故障
(3) タイヤ，オイルシール等のゴム類，樹脂類，ガラス等の破損
(4) 塗装，メッキ面の皮膜剥がれ

直射洗車厳禁



1AGACBRAP067A

近距離洗車厳禁



1AGACBRAP068A

定期点検箇所一覧表

重　要

＊ ◎はならし運転の50時間後に必ず行なってください。
＊ バッテリ電解液は年間使用時間が 100 時間以内の場合，１年ごとに点検を行なってください。

〔専門的な技術や特殊な工具を必要とするときは，購入先にご相談ください。〕
次の定期点検箇所に従って，定期点検を実施しましょう。

No.	項目＼時期		アワーメータ表示時間																それ以降	参照ページ
			50	100	150	200	250	300	350	400	450	500	550	600	650	700	750	800		
1	エンジンオイル	交換	◎			○				○				○				○	200時間ごと	73
2	エンジンオイルフイルタ	交換	◎							○								○	400時間ごと	75
3	ミッションオイル	交換	◎											○					600時間ごと	76
4	油圧オイルフイルタ	交換	◎			○				○				○				○	200時間ごと	73
5	前部デフケースオイル	交換	◎											○					600時間ごと	77
6	前輪ケースオイル	交換	◎											○					600時間ごと	77
7	エンジン始動システム	点検	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	50時間ごと	66
8	タイヤ取付けボルト	点検	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	50時間ごと	67
9	ワイヤハーネス バッテリ（＋）コード	点検	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	50時間ごと	66
10	クラッチハウジング	水抜き	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	50時間ごと	66
11	パワーステアリング ホース	点検	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	50時間ごと	67
		交換																	2年後ごと	81
12	燃料パイプ	点検	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	50時間ごと	68
		交換																	2年ごと	81
13	バッテリ電解液	点検		○		○		○		○		○		○		○		○	100時間ごと	68
14	エアクリーナ エレメント	アウター 清掃		○		○		○		○		○		○		○		○	100時間ごと	70
		アウター 交換																	1年または6回洗浄後	79
		インナー 交換																	アウタ交換時	79
15	ファンベルト	調節		○		○		○		○		○		○		○		○	100時間ごと	70
16	クラッチペダル	調節	◎	○		○		○		○		○		○		○		○	100時間ごと	71
17	ブレーキペダル	点検		○		○		○		○		○		○		○		○	100時間ごと	71
18	グリースの注入	－		○		○		○		○		○		○		○		○	100時間ごと	72
19	トーイン・タイロッド	点検				○				○				○				○	200時間ごと	74
20	ラジエータホース	点検				○				○				○				○	200時間ごと	74
		交換																	2年ごと	81
21	燃料タンク	水抜き				○				○				○				○	200時間ごと	75
22	燃料フイルタ	交換								○								○	400時間ごと	76
23	前部デフケース前後遊び	調節												○					600時間ごと	78
24	エンジンバルブ クリアランス	点検																○	800時間ごと	78
25	ラジエータ	洗浄																	2年ごと	81
26	冷却水	交換																	2年ごと	79
27	燃料系統の空気抜き	－																	必要に応じて	82
28	ランプ類	交換																	必要に応じて	83
29	ヒューズ類	交換																	必要に応じて	83

給油（水）一覧表

■トラクタの給油（水）

給油（水）項目		M6830	M8230(B)	M9030(B)	使用オイル
燃　料	(L)	65	90		ディーゼル軽油
冷却水	(L)	8.5	9.0		リザーブタンク1.3、清水 (不凍液を入れた場合は，その量だけ少なく清水を入れてください。)
エンジンオイル	(L)	10.7			M6830：クボタ純オイル (ディーゼルエンジン用) D30 又は D10W30 ＣＣ 級又は ＣＤ 級
			10.7		M8230, M9030： クボタ純オイル (ディーゼルエンジン用) D30 スーパー ＣＤ 又は D10W30 スーパー ＣＤ ＣＣ 級使用不可，ＣＤ 級以上のみ使用
ミッションオイル (油圧オイル)	(L)	40	52 （※1）		クボタ純オイル スーパー UDT　又は バイオスーパー UDT
前部デフケース	(L)	5.0 （※2）			
前輪ケース右，左	(L)	3.5			
各操作レバー支点		注油			クボタ純オイル M90
グリースの注入		注入箇所			
＊前輪ケースサポート		2			容量： 外部にはみ出すまで　注)
＊前車軸受部		2			
＊トップリンク		2			
＊トップリンクブラケット		2			
＊リフトロッド		3			
＊バッテリターミナル		2			容量：少量
グリースの塗布					
＊チェックチェーン		塗布			使用グリース：シャーシグリース
＊間接球					

※1 M8230AT/M9030AT は 48L

※2 M9030W, WB は 6.0L

注）グリースポンプは手動のハンドガン式のものを使用してください。

推奨オイル・グリース一覧表

必ず下表の指定オイルを使ってください。

■エンジンオイル・ミッションオイル

メ　ー　カ	エンジンオイル	ミッションオイル 前車軸ケースオイル
新日本石油	クボタ純オイル （ディーゼルエンジン用） D30 又は D10W30 ターボ付エンジンは D30 スーパー ＣＤ 又は D10W30 スーパー ＣＤ	クボタ純オイル スーパー ＵＤＴ　又は バイオスーパー ＵＤＴ
コスモ石油		
ジャパンエナジー		
昭和シェル石油		
富士興産		

★バイオスーパー UDT 油は万一事故でオイルが土壌，河川，沼地，海等に流出した場合，微生物などにより成分のほとんどが分解され環境汚染を防ぐことができる潤滑油です。

■グリース

メ　ー　カ	商品名	用　途
新日本石油	エピノックグリース AP2	極圧（万能）グリース
コスモ石油	ダイナマックス EP2	
ジャパンエナジー	JOMO リゾニックス EP2	
昭和シェル石油	アルバニヤ EP グリース 2	
富士興産	フッコール EP2	
出光興産	ダフニーエポネックス SR2	
モービル	モービラックス EP2	
エッソ／ゼネラル	ビーコン EP2	
協同油脂	マルテンプ PS2	ホーン接点用グリース

ボンネットの開閉

注 意

* エンジン回転中は絶対にボンネットを開けないでください。
* マフラが熱いときさわらないでください。ヤケドすることがあります。

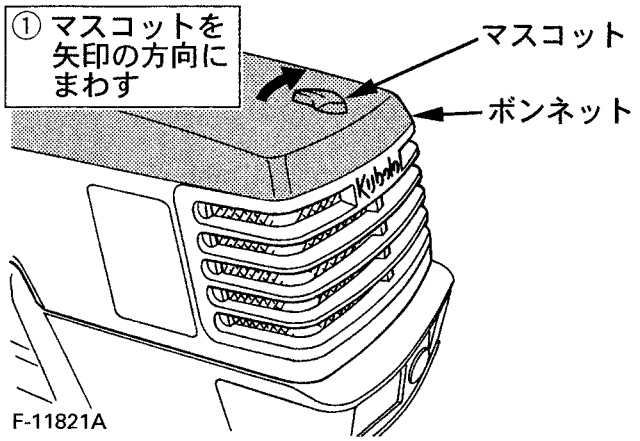
■ボンネットの開閉

注 意

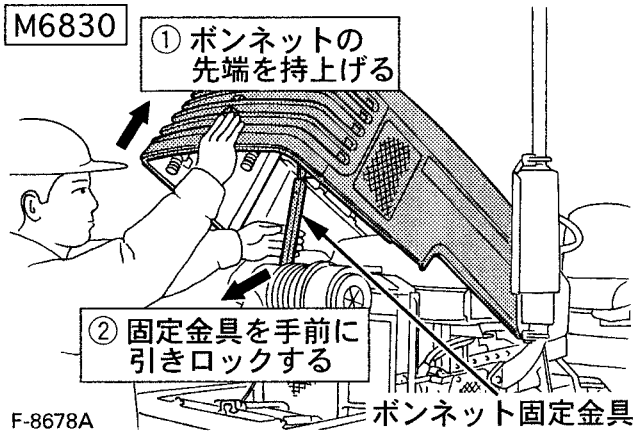
* ボンネットを開き点検・調整するときは，必ずボンネット固定金具が［ロック］されたか確認してから作業をしてください。

◆ボンネットの開け方

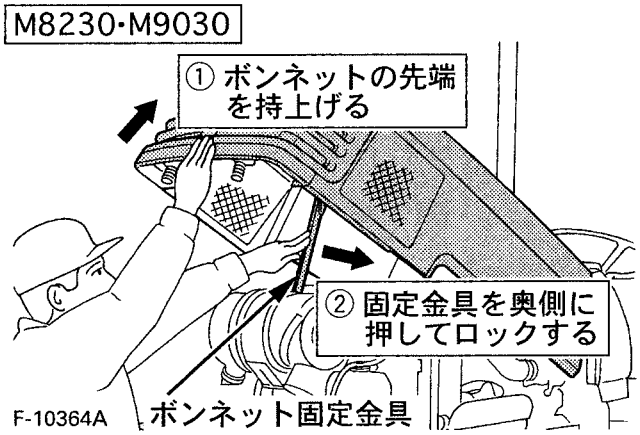
1. マスコットを［**矢印**］の方向に回し，ロックを解除します。



2. ボンネットの先端を持ち上げ，ボンネット固定金具を手前に引き［**ロック**］してください。(M6830)



2. ボンネットの先端を持ち上げ，ボンネット固定金具を奥側に押して［**ロック**］してください。(M8230・M9030)



◆閉め方

一旦ボンネットを持ち上げ，ボンネット固定金具を［**解除**］してから閉じてください。

日常点検

注 意

＊ 火気厳禁
＊ 点検をするときは，必ず作業機を降ろしエンジンを停止してから行なってください。
＊ 燃料・オイルがこぼれた場合は，きれいにふき取ってください。
＊ トラクタは常に清掃しておいてください。
バッテリ，配線，マフラやエンジン周辺部にゴミや燃料の付着などがあると，火災の原因になります。
＊ 運転中及び停止直後は，ラジエータの圧力キャップを絶対に開けないでください。
熱湯が吹き出してヤケドをすることがあります。
＊ エンジン周囲のカバー類を開けて点検・整備するときは，内部が十分に冷え，ヤケドのおそれがないことを確認してから行なってください。

1. 前日の異常箇所

前日の作業中に異常を感じたところがあれば，使用前に支障がないか点検してください。

2. トラクタの回りを歩いて

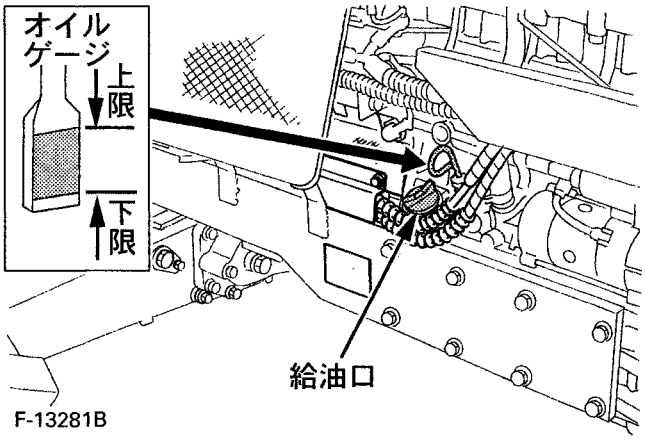
1. ボルトやナットのゆるみ及び作業機取付けピンの脱落
2. 車体各部の変形や損傷
3. 油や水もれなど異常がないか，点検してください。

■エンジンオイルの量及び汚れ

注 意

＊ 点検をするときは，必ずエンジンを止めてから行なってください。

1. オイルゲージを抜いて先端をきれいにふき，差込んでから再び抜き［**下限と上限の間**］にオイルがあるかを調べます。
2. ［**下限**］以下の場合は補給してください。ただし，［**上限**］以上には入れないでください。



重 要

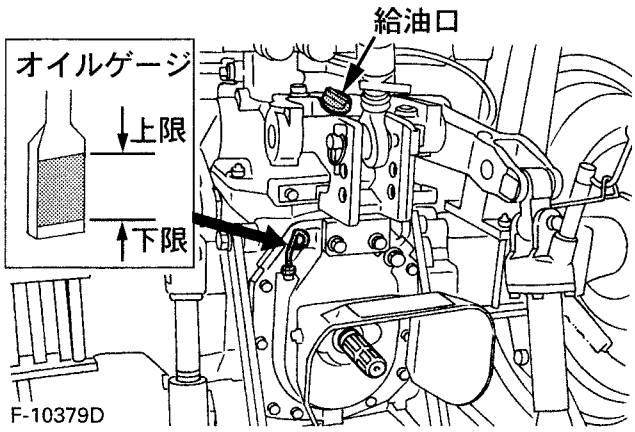
＊ 点検するときは，トラクタを水平な場所に置いてください。
傾いていると正確な量が示されません。
＊ オイル量はエンジン始動前か，エンジンを止めてから約５分以上たってから点検してください。
そうでないと，オイルがまだエンジン各部に残っており正確なオイル量は測れません。

■ミッションオイルの量及び汚れ

注 意

＊ 点検をするときは，必ずエンジンを止めてから行なってください。

1. オイルゲージを抜いて先端をきれいにふき，差込んでから再び抜き［**下限と上限の間**］にオイルがあるかを調べます。
   ロータリ付の場合は，ロータリを下げて確認してください。
2. ［**下限**］以下の場合は補給してください。ただし，［**上限**］以上には入れないでください。



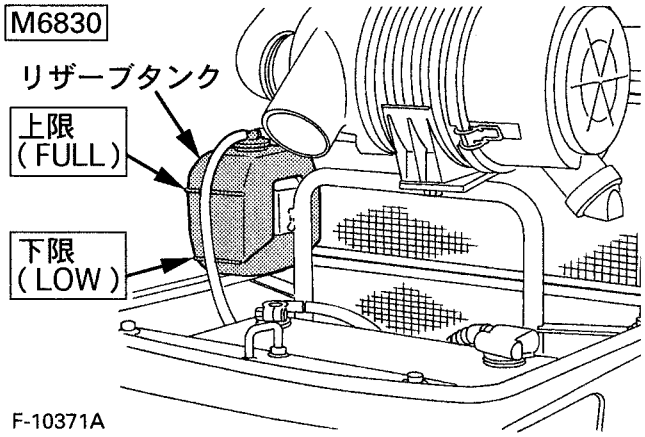
■冷却水の量

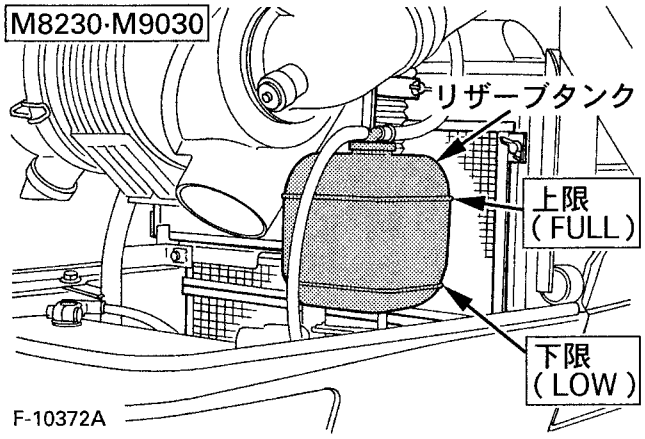
注 意

＊ ラジエータキャップは，エンジン運転中及び停止直後に開けると，熱湯が噴出しヤケドをすることがあります。
停止後 30 分以上たって，冷えてから最初のストップ位置までキャップをゆっくり回し，余圧を抜いてからキャップを外してください。

ラジエータには，リザーブタンクが付いており，ラジエータ内の冷却水が少なくなると，リザーブタンクから自動的に補給される構造になっています。

冷却水の量はリザーブタンク内の量を点検してください。
［**FULL から LOW の範囲**］であれば正常です。冷却水が LOW 以下の場合は，
FULL のレベルまで補給してください。FULL 以上は入れないでください。



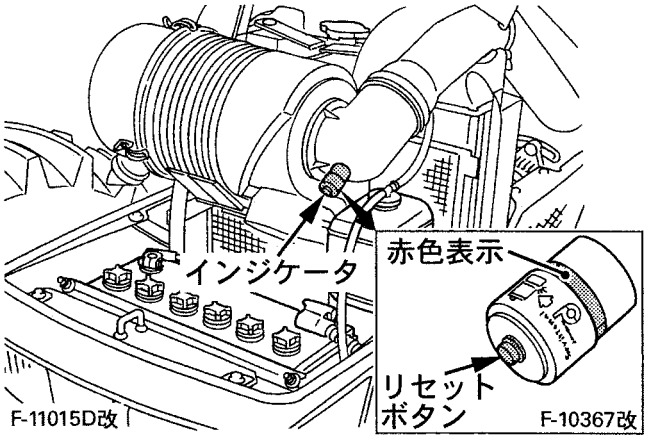


補 足

＊ ラジエータ本体のキャップは，冷却水点検及び交換するとき以外開けないでください。

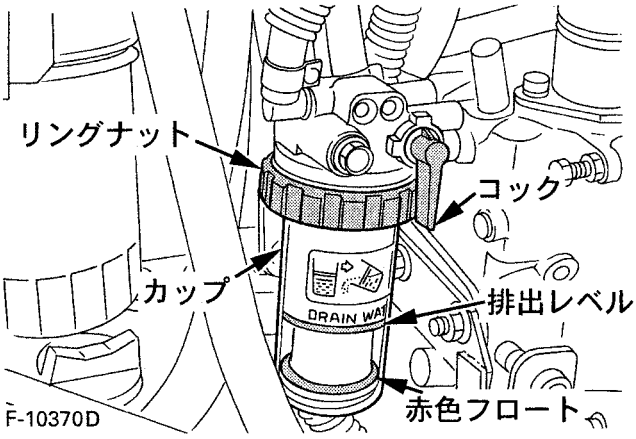
■ダストインジケータの点検

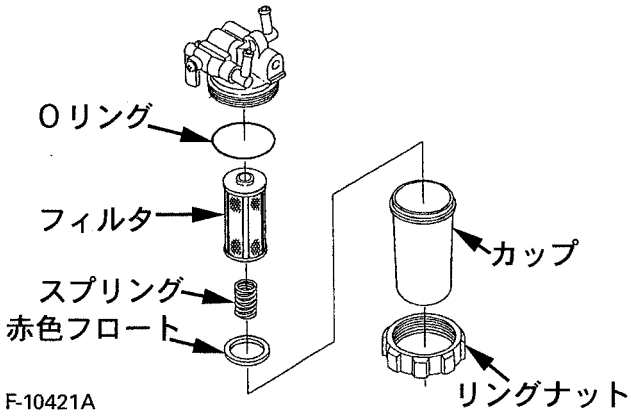
インジケータの透明カバー部が赤色表示に変わっておれば、エアクリーナが目詰まりしています。
清掃後、リセットボタンを押し赤色表示を解除してください。
〔清掃のしかたは **[100 時間ごとの点検・整備]** の **[エアクリーナエレメントの清掃]** の項を参照してください。〕



■セパレータの水の排出

1. 分離された水がたまると赤色のフロート（浮き輪）が浮き上ります。フロートが排出レベル（←→ 印）に達したときは，燃料コックを閉じリングナットをゆるめてカップを取外し排出してください。
2. このときエレメントを破らないように注意して清掃してください。
3. カップ再セット後はセパレータ内の空気を抜いてください。
   〔詳細は **[必要に応じた点検・整備]** の **[燃料の空気抜きのしかた]** の項を参照してください。



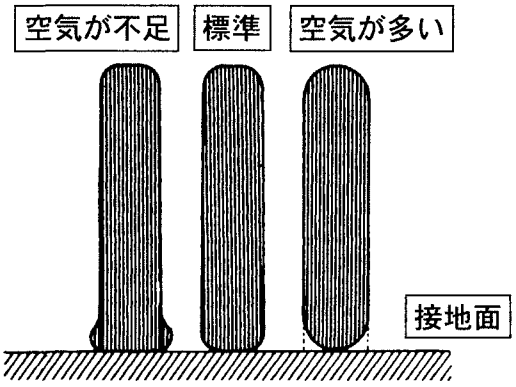


■タイヤの空気圧，及び摩耗，損傷

警　告

* タイヤの空気圧は，取扱説明書に記載している規定圧力を必ず守ってください。空気の入れ過ぎは，タイヤ破裂のおそれがあり死傷事故を引き起こす原因になります。
* タイヤに傷があり，その傷がコード（糸）に達している場合は，使用しないでください。
  タイヤ破裂のおそれがあります。
* タイヤ，チューブ，リムなどの交換，修理は，必ず購入先にご相談ください。（特別教育を受けた人が行うように，法で決められています。）

前輪・後輪の空気圧が適正であるかを調べます。外観から判断する目安はつぎのとおりです。



F-1010A

補　足

* タイヤの空気圧は［**タイヤ・ウエイト**］の項を参照してください。

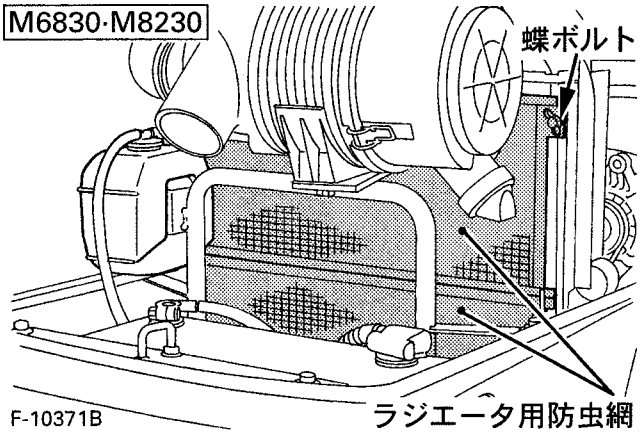
■防虫網の清掃

注　意

* エンジンを必ず停止して清掃してください。

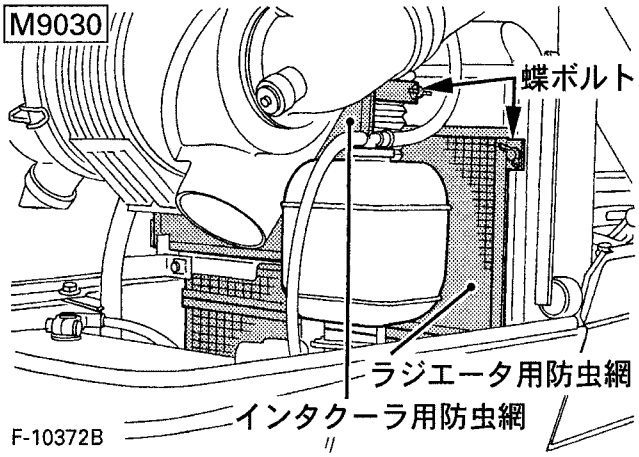
水田や夜間作業に使用すると，防虫網に草の実やこん虫が付着し詰まることがあります。目詰まりがないよう点検、清掃してください。

M6830·M8230

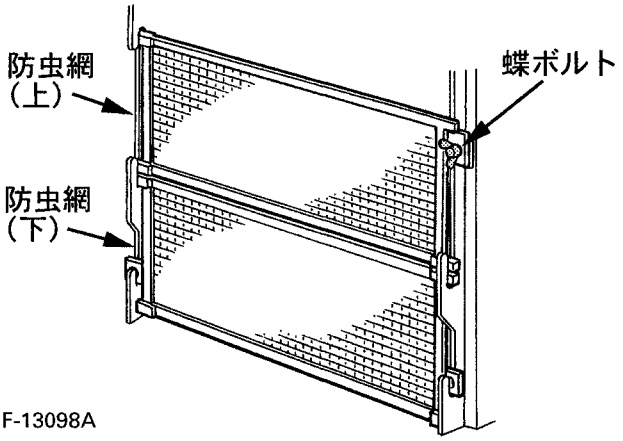


F-10371B

M9030



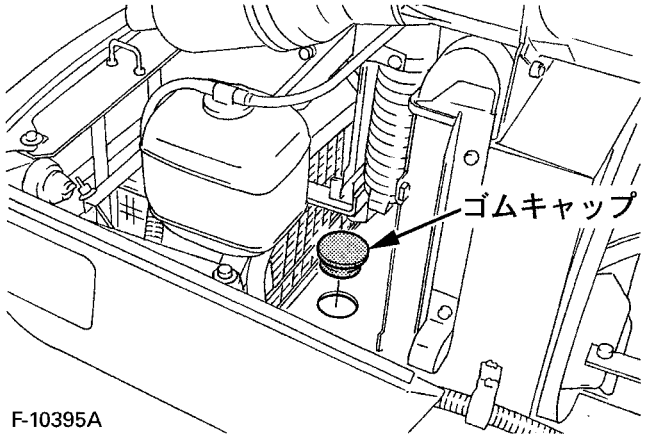
F-10372B



F-13098A

◆ラジエータ前部の清掃

ラジエータ前部に草の実やこん虫などが堆積しているときは，ゴムキャップを外してラジエータ前部を清掃してください。



F-10395A

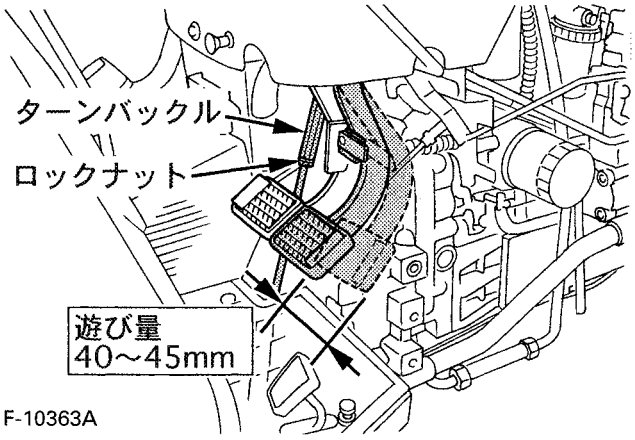
3. 運転席に座って

■ブレーキペダルの遊び・点検

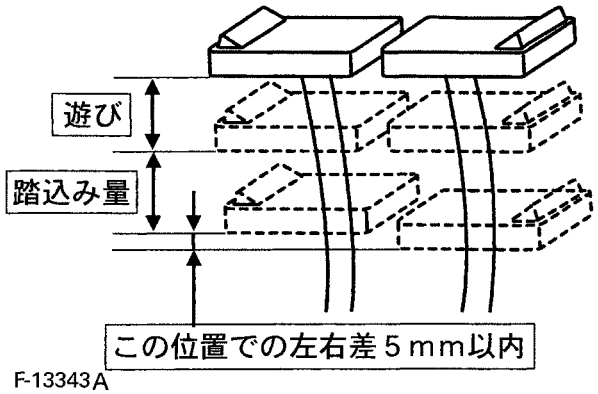
警 告

＊ ブレーキの調整が悪いと，人身事故にもつながります。
常に作動状態に注意してください。

1. ペダルを踏んで遊び量が **[40 ～ 45mm]** かどうか，また左右ブレーキの踏込み量の差が **[5mm 以内]** かどうかを調べます。
2. ブレーキのきき，片ぎきを調べます。
（調整のしかたは **[100 時間ごとの点検・整備]** の **[ブレーキペダルの点検・調整]** の項を参照）



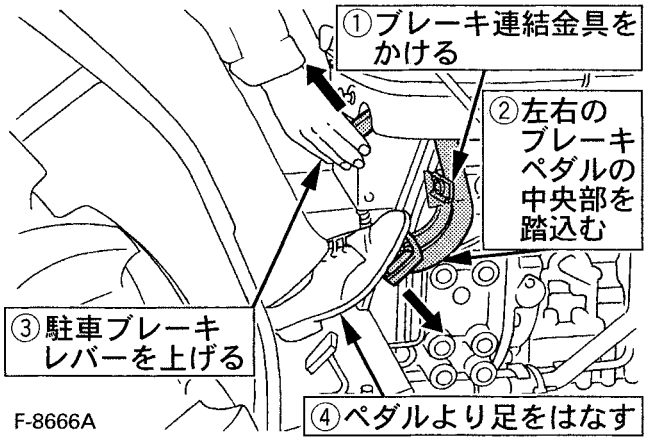
F-10363A



F-13343A

■駐車ブレーキの作動点検

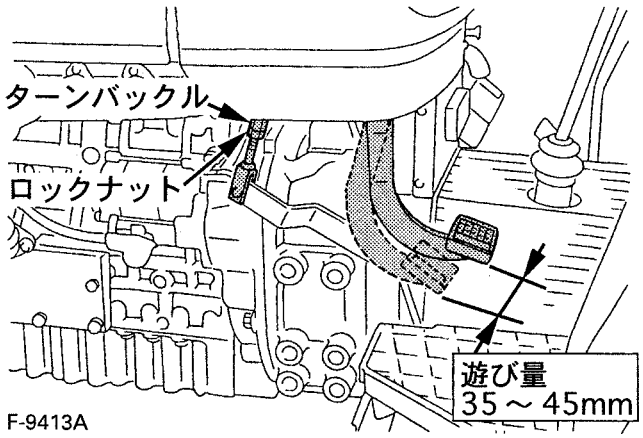
ブレーキペダルを左右連結して左右のブレーキペダルの中央部を踏込み，駐車ブレーキレバーを **[上げ]** たまま足をはなすと駐車ブレーキがかかります。
外すときは，ペダルを踏込めば外れます。



F-8666A

■クラッチペダルの遊び・点検

ペダルの遊び量が **[35～45mm]** あるか確認してください。
(調整のしかたは **[100 時間ごとの点検・整備]** の **[クラッチペダルの点検・調整]** の項を参照)



F-9413A

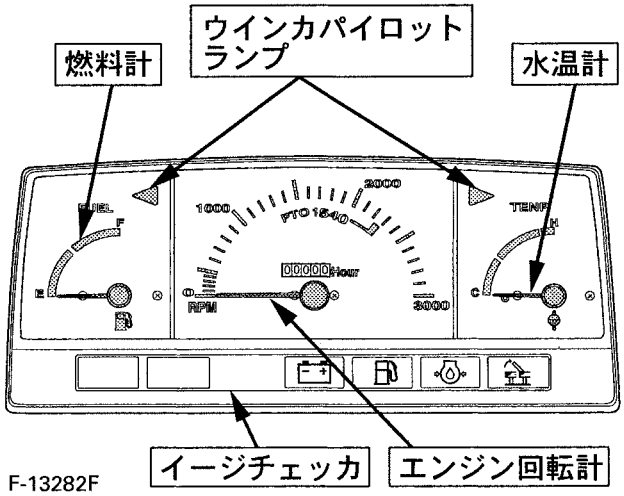
重 要

＊ クラッチの調整が悪いと，クラッチ切れ不良，すべりを起し損傷につながります。

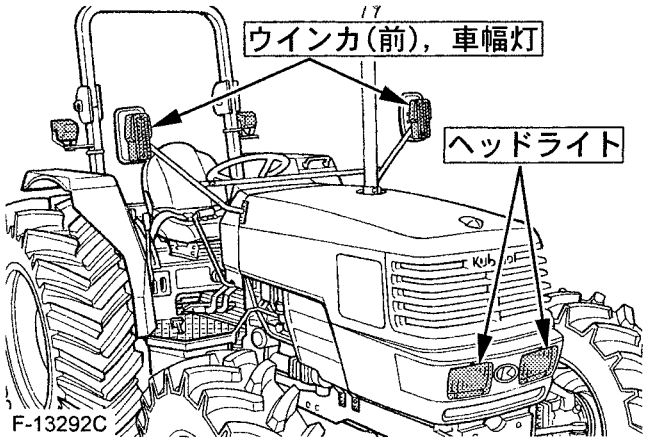
4. エンジンを始動して

■メータ・ランプ類の作動

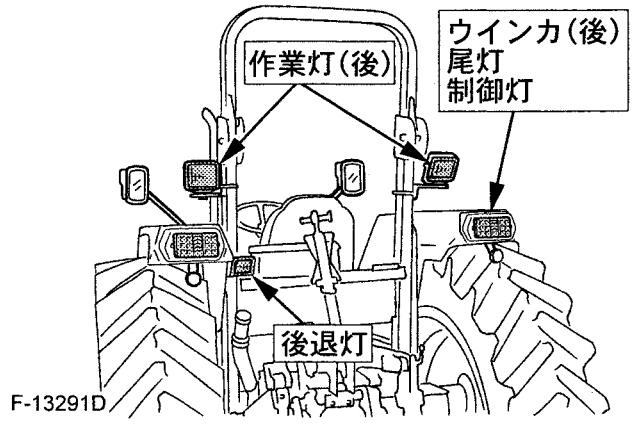
下記メータ及びランプ類が正しく作動するか点検してください。



F-13282F



F-13292C



F-13291D

5. 燃料の補給

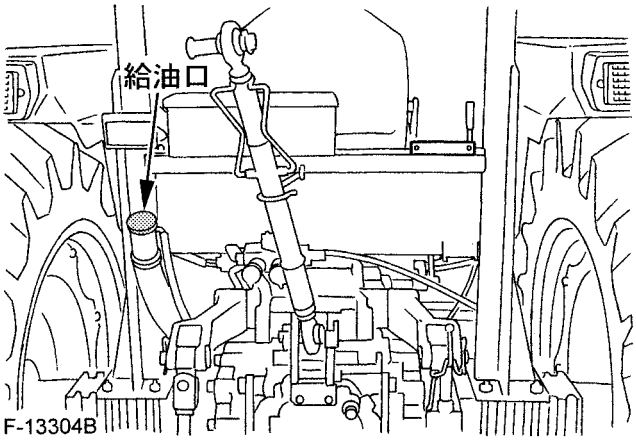
注　意

* 燃料を補給するときは，エンジンを必ず停止してください。
* 火気厳禁。

燃料には，**［ディーゼル軽油］**を使用してください。
ディーゼル軽油には下表の種類があります。
地域・季節に見合ったものを使用してください。

種類	ディーゼル軽油の流動点（℃）
特１号	＋５以上
１号	０及び－５
２号	－10
３号	－15及び－20
特３号	－25及び－30

流動点付近以下の温度になると燃料の流動性が悪くなり，始動が困難になります。



重　要

* 燃料中にゴミや砂が混入していると，燃料噴射ポンプが作動不良になりますので，注意して下さい。
* 燃料キャップの空気穴が土やゴミでふさがれていないか点検してください。
* 燃料キャップが締まっているか確認してください。

50 時間ごとの点検・整備

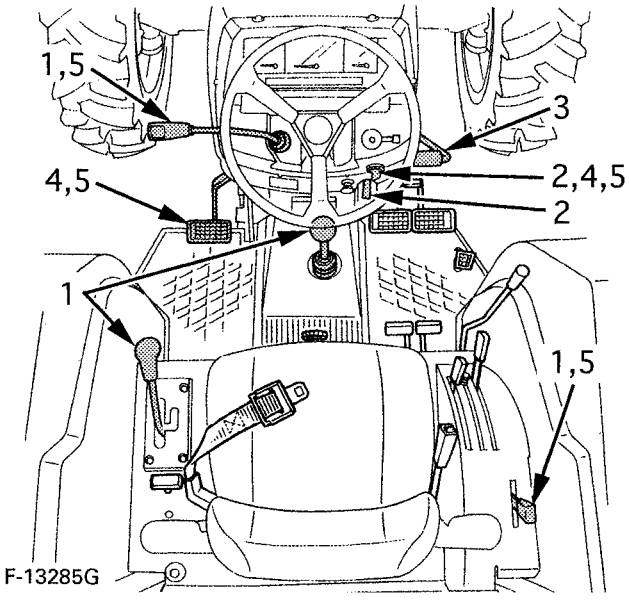
■エンジンと始動システムの点検

注 意

＊ 点検中，トラクタに人を近づけないようにしてください。
＊ 装置に異常があれば必ず整備をした後，ご使用ください。

◆点検

1. 運転席に座り，主変速，副変速及びシャトルレバーを［**中立**］(N)，PTO クラッチコントロールレバーを（切）にします。
2. 駐車ブレーキを掛け，エンジンを停止します。
3. アクセルレバーを［**最低速**］位置にします。
4. クラッチペダルを一杯踏込み，キースイッチを瞬時［**始動**］位置に回します
。この時，エンジンが回れば正常です。
5. 次に，クラッチペダルを一杯踏込んだままシャトルレバーを［**前進**］又は［**後進**］に，PTO クラッチコントロールレバーを（入）にし，キースイッチを瞬時［**始動**］位置に回します。
このとき，エンジンが回らなければ正常です。
6. もし，不良の場合は，購入先へご相談ください。



■ワイヤハーネス，バッテリ（＋）コードの点検・交換

注 意

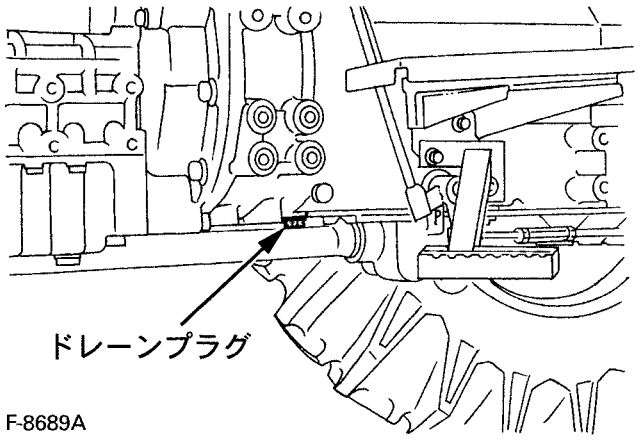
＊ ワイヤハーネス及びバッテリ（+）コードが損傷していると，ショートを起すので必ず点検してください。
＊ バッテリ，配線及びマフラやエンジン周辺部にワラクズ，ゴミや燃料の付着などがあると，火災の原因となるので毎日作業前に点検してください。

ワイヤハーネス，バッテリ（＋）コードの被覆は各部の角に接触，ネズミのかじりなどにより，損傷したり自然劣化することがありますので，下記の項目について定期的に点検してください。

1. ワイヤハーネスの損傷及びクランプのゆるみがないこと。
2. ターミナル，ブロック（ソケット）の接続部のゆるみがないこと。
3. 各スイッチが確実に作動すること。

■クラッチハウジングの水抜き

代かき作業・洗車・雨降りなどで，クラッチハウジングに多量の水がかかった場合，又は 50 時間使用ごとにクラッチハウジング底のドレーンプラグを外して，水の侵入がないことを確認してください。
もし水が入っていれば，完全に抜いて，内部をよく乾燥させてください。

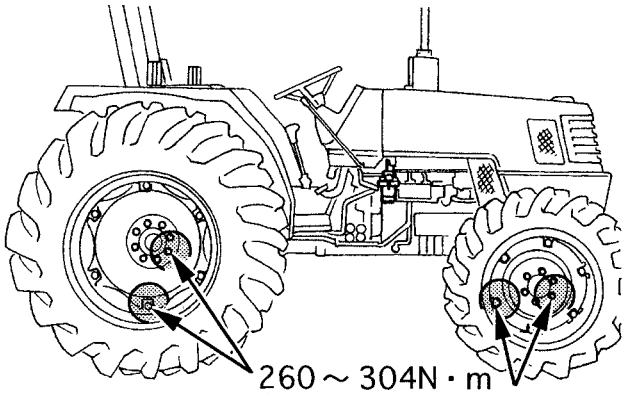


50時間ごとの点検・整備

■タイヤ取付けボルトの点検

注　意

＊ タイヤ取付けボルトやナットがゆるんだ状態でトラクタを運転しないでください。ゆるんだまま走行すると，傷害事故を引起すおそれがあります。



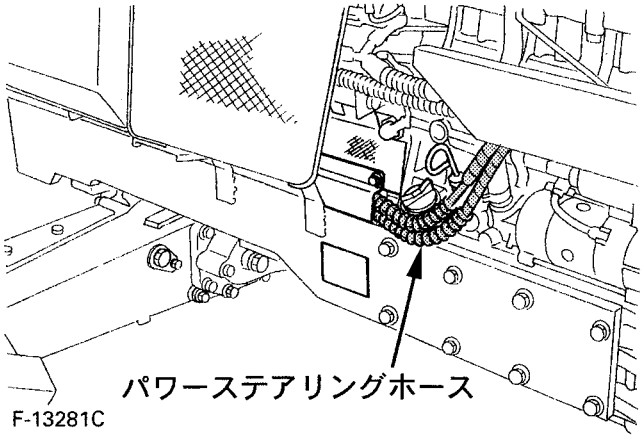
F-8667C

■パワーステアリングホースの点検

注　意

＊ ホースの傷みは，必ず点検しましょう。ホースが破損しハンドル操作ができなくなり，傷害事故などの事故を引起すおそれがあります。

パワーステアリングホースは，使わなくても劣化する消耗品です。
２年ごとに又は傷んだときには新品と交換する必要があります。
ホースが傷んでいないか常に注意してください。



F-13281C

重　要

＊ 交換時にホースなどにゴミが入らないように注意してください。ゴミが入ると作動不良の原因になります。

50 時間ごとの点検・整備

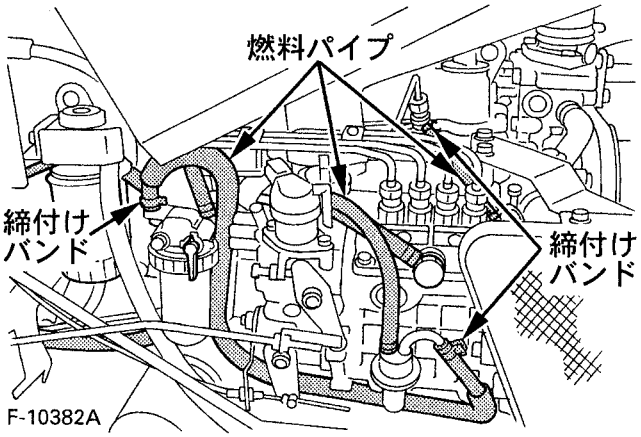
■燃料パイプの点検

注　意

＊ パイプ類の傷みや締付けバンドのゆるみは，必ず点検してください。
異常があれば交換・整備を行なってください。燃料もれなどによる火災や傷害事故などの原因になります。

燃料パイプなどのゴム製品は，使わなくても劣化する消耗品です。
締付けバンドと共に２年ごとに又は傷んだときには新品と交換する必要があります。

1. パイプ類や締付けバンドがゆるんだり，傷んでいないか常に注意してください。
2. 燃料パイプを交換した場合は，必ず空気抜きをする必要があります。
（詳細は［**必要に応じた点検・整備**］の［**燃料の空気抜きのしかた**］の項を参照してください。）



重　要

＊ 交換時にパイプや噴射ポンプなどにゴミが入らないように注意してください。ゴミが入ると，噴射ポンプの作動不良の原因になります。

100 時間ごとの点検・整備

■バッテリ電解液の点検

危　険

＊ バッテリには補水不要なタイプと補水が必要なバッテリの２種類があります。
補水が必要なバッテリについては，以下の事を守ってください。
＊ バッテリは液面が LOWER（最低液面線）以下になったままで使用や充電をしないでください。
LOWER 以下で使用を続けると電池内部の部位の劣化が促進され，バッテリの寿命を縮めるばかりでなく，爆発の原因となることがあります。
すぐに UPPER LEVEL と LOWER LEVEL の間に補水してください。

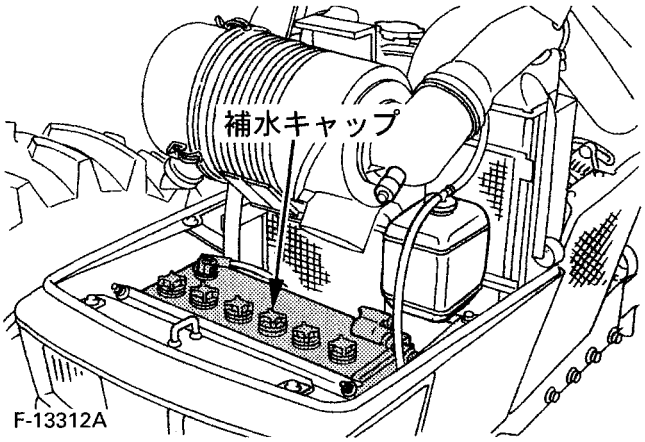
警　告

＊ バッテリ液は希硫酸なので扱いには十分注意し，身体や衣服に付けないようにしてください。
もし付着した場合は，すぐに水で洗い流してください。
状況により医師の診断を受けてください。
＊ バッテリの点検及び取外し時は，エンジンを必ず停止し，キースイッチを［切］位置にしておいてください。
＊ バッテリを取外すときは，短絡（ショート）事故を防ぐため，最初にバッテリ（－）コードを外し，接続するときは，最後にバッテリ（－）コードを接続してください。
＊ バッテリを充電しているときは，タバコを吸ったり火を近づけないでください。
バッテリは充電中，可燃性ガスが発生し，引火爆発のおそれがあります。

100時間ごとの点検・整備

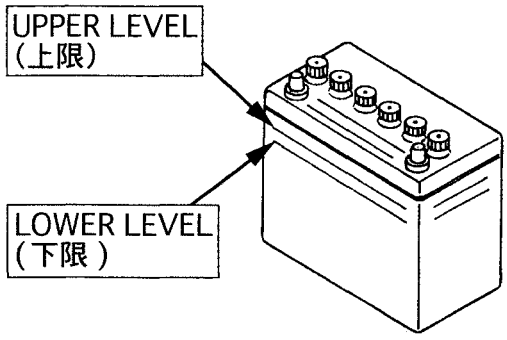
◆バッテリ液の点検

バッテリは MF（メンテナンスフリー）バッテリを使用していますので従来品に比べ，液の減り具合がきわめて少なくなっていますが側面に２本の線（レベル）があり，その間に液面があればよく，少ないときは上側の線（レベル）まで蒸留水を補給してください。



◆補水のしかた

1. バッテリ上フタの補水キャップを外します。
2. ６個の補水穴から蒸留水を均一に上側の線（レベル）まで補水します。
3. キャップを元の穴にねじ込みます。



F-5709A

◆バッテリの取付け，取外し

注　意

＊ バッテリを取外すときは，バッテリ（－）コードを最初に外し，次に（＋）コードを外してください。
＊ 取付けるときは，必ず（＋）側から取付けます。逆にすると，工具が当たった場合にショートします。

重　要

＊ バッテリ液が不足するとバッテリを傷め，多過ぎると液がこぼれて車体の金属部を腐食させます。
＊ 新品のバッテリと交換する場合には必ず指定した型式（105E41R-MF）のバッテリを使用してください。
＊ バッテリを外し，再度取付けるときにはバッテリの（＋），（－）のコードを元どおりに配線し，まわりに接触しないように締付けてください。

◆補充電のしかた

警　告

＊ バッテリを充電しているときは，タバコを吸ったり，火を近づけないでください。バッテリは充電中可燃ガスが発生し，引火爆発のおそれがあります。

1. バッテリは必ず車体から取外して充電してください。電装品の損傷の他に配線などを傷めることがあります。
   なお急速充電はできるだけ避けてください。
2. バッテリコードを接続するときは，（＋）と（－）をまちがえないようにしてください。まちがえるとバッテリと電気系統が故障します。
3. 充電は，バッテリの（＋）を充電器の（＋）に，バッテリの（－）を充電器の（－）にそれぞれ接続して，普通の充電法で行なってください。
   コードの接続をまちがわないように注意してください。

■エアクリーナエレメントの清掃

◆エレメントの清掃

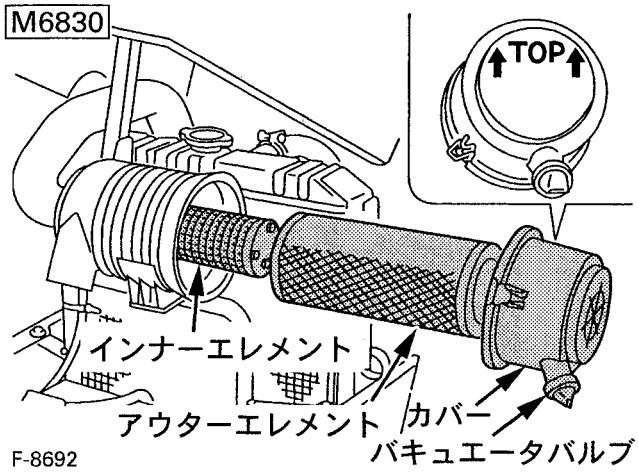
乾いたちりやほこりの場合は，エレメントを傷めないように注意しながら，エアーで吹き飛ばしてください。

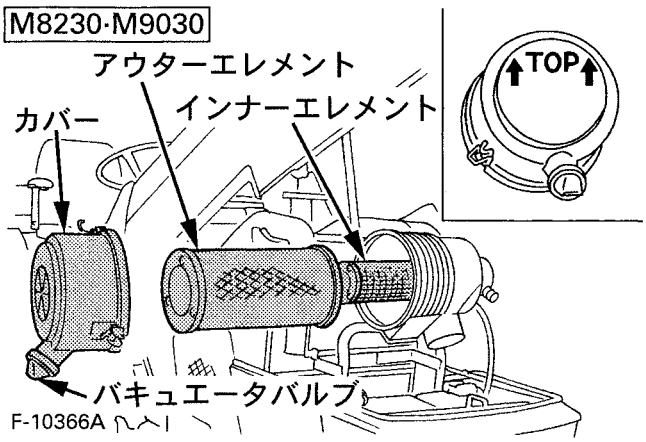
(エアーの圧力は0.21MPa (2.1kgf/cm^2) を越えないように注意し，ノズルとエレメントの間は適当にあけてください。)

エレメントがカーボンや油分で汚れている場合は，中性洗浄剤をご使用ください。

◆エレメントの交換

エレメントの交換は1年間使用後，又は6回掃除ごとに交換が必要です。





重　要

* エレメントは，清掃・交換以外は不必要にさわらないでください。
* 乾式エレメントを使用していますので，オイルを使用しないでください。
* 清掃時，エレメントをたたいて変形させないでください。
  変形するとほこりがエンジンに侵入し，エンジンを損傷することがあります。変形したときは，すぐに新しいエレメントと交換してください。
* ダストカップの（ ↑ TOP ↑ マーク）を必ず上向きになるように取付けてください。

◆バキュエータバルブの清掃

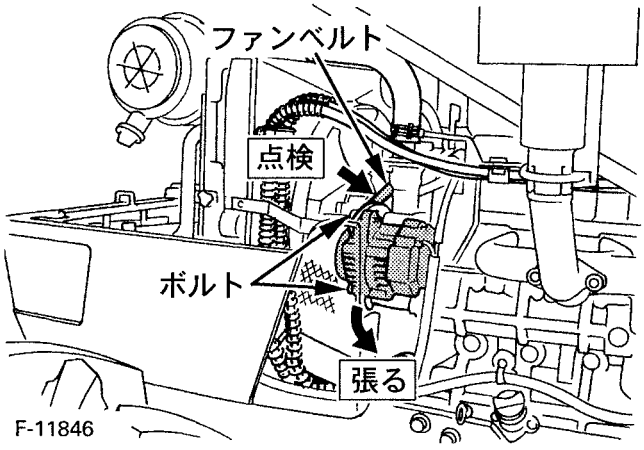
バキュエータバルブを開き，大きなごみを取除いてください。

■ファンベルトの点検・調整

適正張り強さ	ベルトの中央部を指先で約98N(10kgf) の力で抑えて，約10～12mmたわむ程度

◆調整方法

1. ダイナモを取付けているボルト・ナットをゆるめて，ダイナモを動かして調整します。
2. 調整後はボルト・ナットを確実に締付けておいてください。



重　要

* ベルトの張りがゆるいと，オーバヒートや充電不足の原因になります。
* き裂やはがれがあれば交換してください。

100 時間ごとの点検・整備

■クラッチペダルの点検・調整

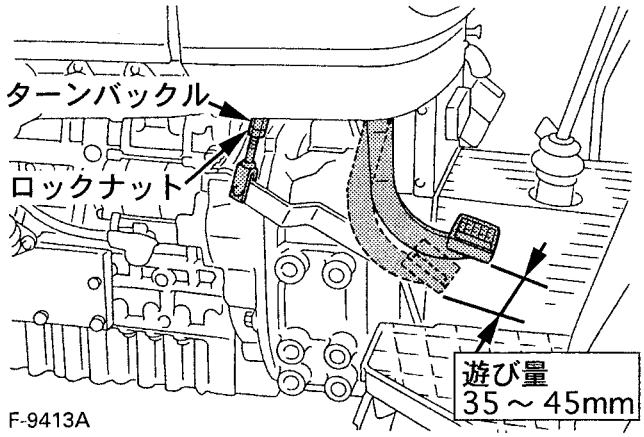
適正遊び量	ペダルで 35 ～ 45 mm

重 要

* 遊びが適正でないと，クラッチ切れ不良・伝動不良を起し，損傷につながります。
* クラッチペダルの上に足を乗せたまま運転しないでください。
  知らないうちに半クラッチを使用していることになります。

◆調整方法

1. ロックナットをゆるめターンバックルを回して，ペダルの遊びを調整します。
2. 調整後はロックナットを確実に締付けてください。



F-9413A

重 要

* 初回 50 時間，以降 100 時間ごとに遊びを点検・調整して頂くのが基本ですが，使用方法により更に早期に調整を必要とすることがあります。
  従って，クラッチペダルの遊びには十分注意を払い，遊びが基準値を下回った場合，そのまま使用せず必ず調整してください。

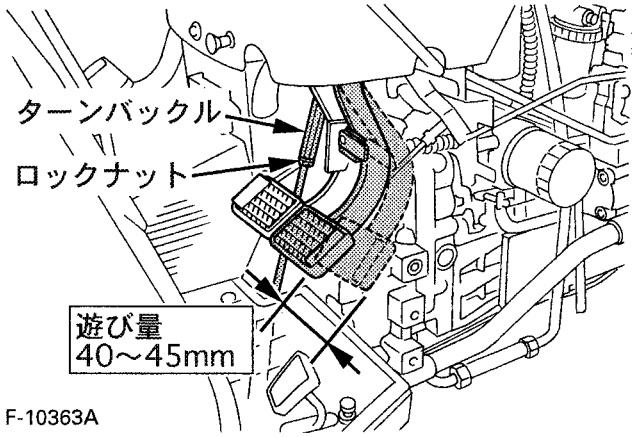
■ブレーキペダルの点検・調整

警 告

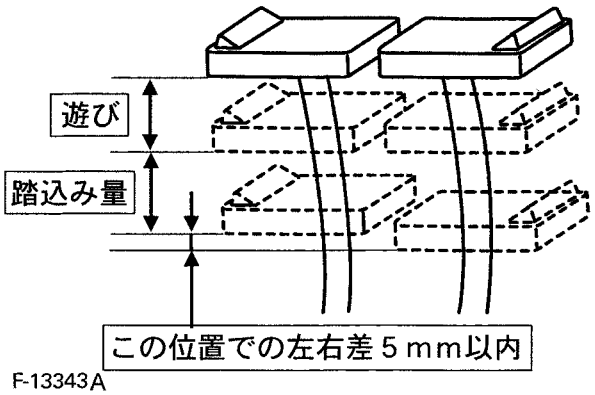
* 点検・調整をするときは，必ずエンジンを止めて行なってください。
* ブレーキの調整が悪いと，人身事故にもつながります。
  常に作動状態に注意してください。
* 調整時左右のペダルの踏込み量の差を必ず［ 5 mm 以内 ］にしてください。差が大きいとブレーキが片ぎきになります。ブレーキが片ぎきになると，傷害事故を引起すおそれがあります。

◆調整方法

1. 駐車ブレーキを解除します。
2. ロックナットをゆるめターンバックルを回して，ペダルの遊びを調整します。
3. 調整後はロックナットを確実に締め付けておいてください。
4. ブレーキペダルを踏んだとき，駐車ブレーキレバーが確実に作動するか確認してください。



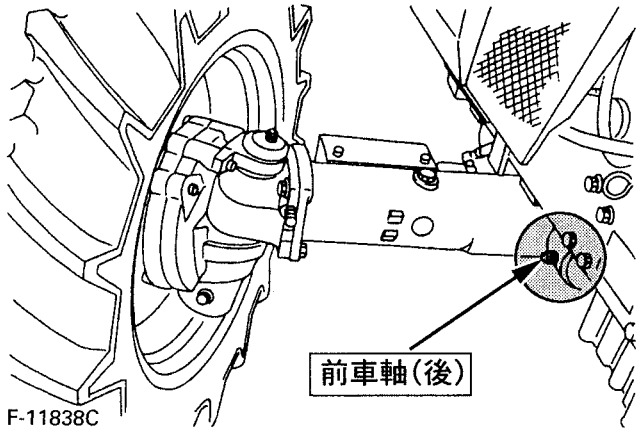
F-10363A



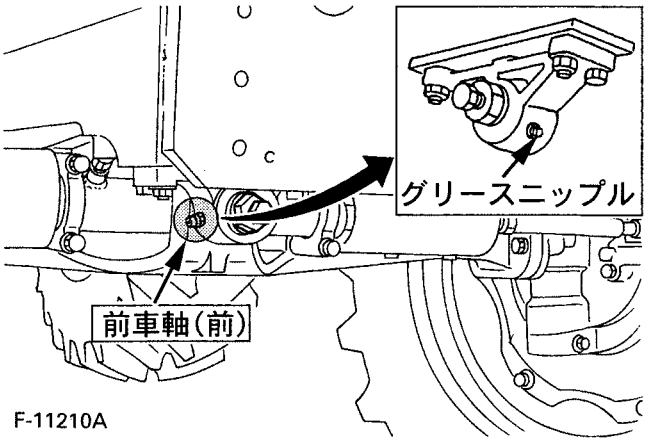
F-13343A

■グリースの注入

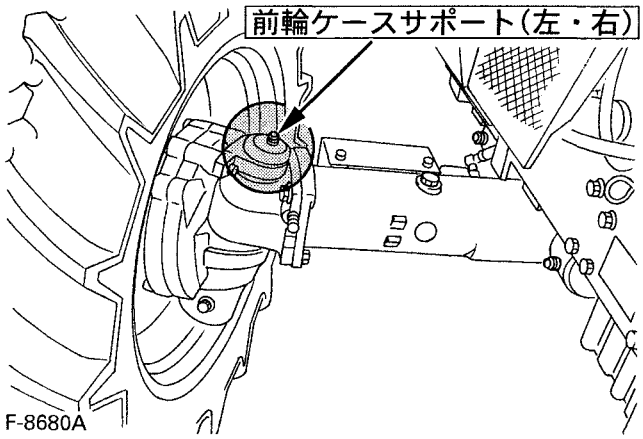
代かき作業などで泥水の中に入ったときは，１日の作業が終ったあと必ずグリースアップをしておきましょう。
グリースは，［**クボタ推奨グリース**］を使用してください。
グリースポンプは手動のハンドガン式のものを使用してください。高圧のエアーポンプ式のものは使用しないでください。



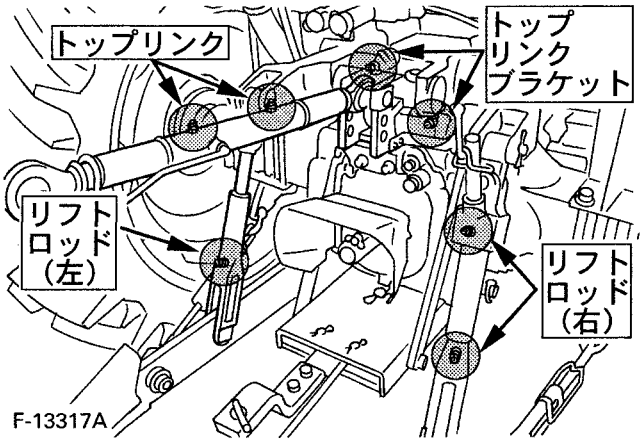
F-11838C



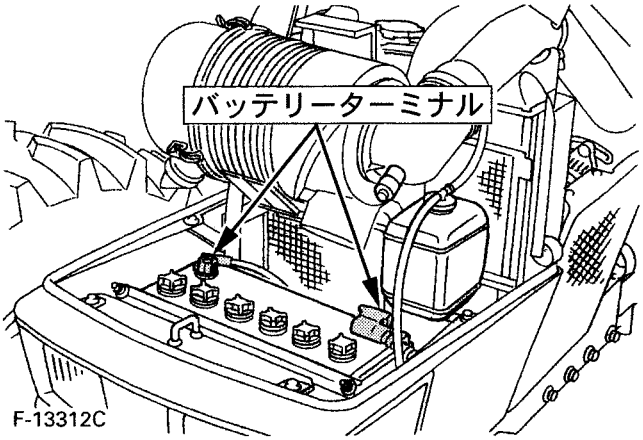
F-11210A



F-8680A



F-13317A



F-13312C

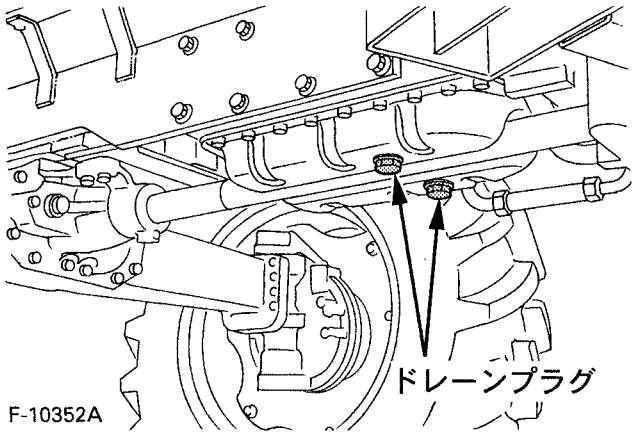
200 時間ごとの点検・整備

■エンジンオイルの交換

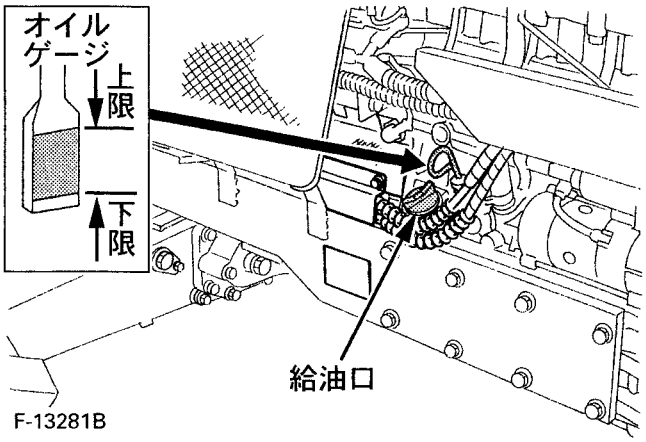
危 険

＊ 交換をするときは，必ずエンジンを止めて十分冷えてから行なってください。
ヤケドのおそれがあります。

1. ドレーンプラグを外してオイルを排出します。
   このときオイルが暖まっている方が排出しやすくなります。
   ただしヤケドに注意してください。



2. ドレーンプラグを締めます。
3. エンジンオイルを給油口から，規定量まで入れてください。
   このときオイルをこぼさないように注意してください。
   オイルゲージを外しておくと給油がしやすくなります。



重 要

＊ 今まで使用していたオイルと異なるメーカ，あるいは粘度 No. の異なるものを使用する場合は，オイルを全部排出してから，新しいオイルと交換してください。
注ぎ足し使用は絶対しないでください。
＊ 気温により次のように使いわけてください。

15 ℃以下	D10W30（オールシーズン用）
15 ℃以上	D30，又は D10W30

＊ 冬期は必ず D10W30 を使用してください。
＊ **M8230・9030 ターボ付き仕様は，クボタ純オイル**（ディーゼルエンジン用）D30 スーパー CD 又は D10W-30 スーパー CD を使用してください。

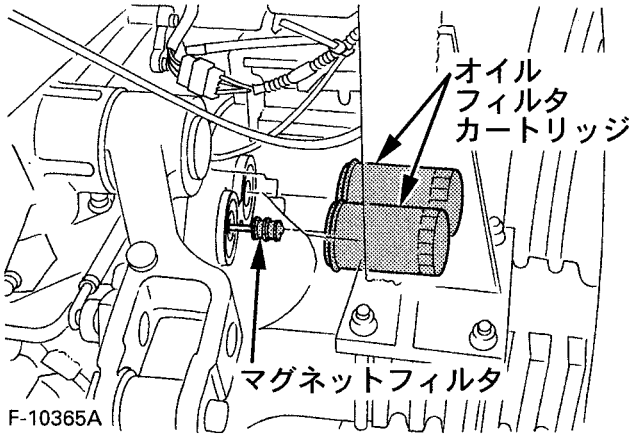
■油圧オイルフィルタカートリッジの交換

注 意

＊ 交換をするときは，必ずエンジンを止めて十分冷えてから行なってください。
ヤケドのおそれがあります。

1. ドレーンプラグを外してオイルを抜きます。
   （ミッションオイルの抜き方，補給のしかたは**［600 時間ごとの点検・整備］**の**［ミッションオイルの交換］**の項を参照してください。）
2. フィルタレンチでフィルタを取外します。
3. マグネットフィルタを清掃します。
4. 新しいカートリッジの O リングにオイルを薄く塗布してから，フィルタレンチを使用せず手で確実に締付けます。
5. ミッションオイルを規定量まで補給します。
6. 約 2 分間運転し，作業機の昇降に異常がないか確認してからエンジンを止めます。

7. 再びオイルゲージで油面を確認し，不足していれば補給してください。



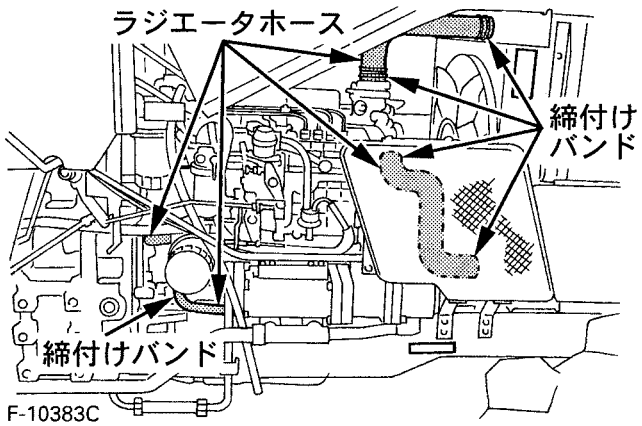
F-10365A

■ラジエータホースの点検

注 意

＊ ラジエータホースの傷みや締付けバンドのゆるみがないか点検してください。異常があれば交換・整備を行なってください。
熱湯もれによるヤケドなどの原因になります。

ラジエータホースなどのゴム製品は，使わなくても劣化する消耗品です。
締付けバンドと共に２年ごとに又は傷んだときには新品と交換する必要があります。



F-10383C

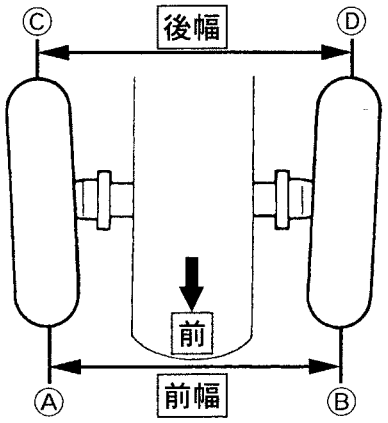
■トーイン調整・タイロッドの点検

注 意

＊ トーインの調整が悪いと，ハンドルを取られたり，異常に振れることがあります。

◆点検

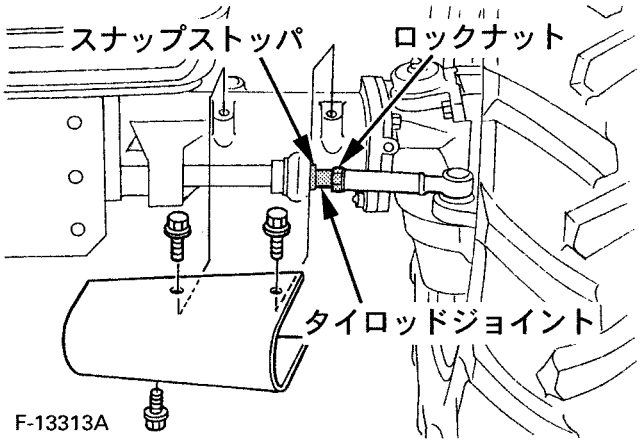
前輪の前幅 (A) (B) と後幅 (C) (D) を測り，(C) (D)-(A) (B) 幅＝２～８㎜になっているかを調べます。



F-3197A

◆調整

1. スナップストッパをゴムブーツより外してロックナットをゆるめます。
2. タイロッドジョイントのネジ部を回して調整します。
3. 調整後はロックナットを確実に締付けておいてください。



F-13313A

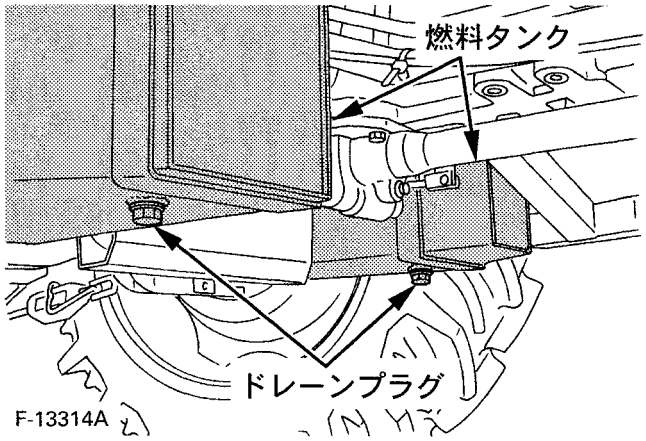
200時間ごとの点検・整備

補　足

＊ トーインの点検・調整時，タイロッドエンド(関接球)やリンクに摩耗や変形がないか調べてください。

■燃料タンクの水抜き

燃料タンク（左右）下部のドレーンプラグをゆるめ，沈澱している不純物や水分を排出し，元通りに締めます。



重　要

＊ 水分が多く含まれている悪い燃料を使用した場合は，水抜きの間隔は更に短くしてください。
＊ トラクタを長時間格納後使用する前に行なってください。

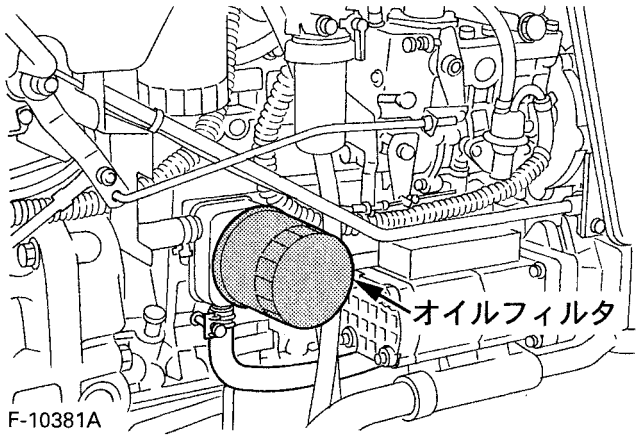
400時間ごとの点検・整備

■エンジンオイルフィルタカートリッジの交換

注　意

＊ 交換をするときは，必ずエンジンを止めて十分冷えてから行なってください。ヤケドのおそれがあります。

1. フィルタレンチでフィルタを取外します。
2. 新しいカートリッジのOリングにオイルを薄く塗布してから，フィルタレンチを使用せず手で確実に締付けます。
3. エンジンオイルを規定量まで補給します。
4. 約5分間運転し，オイルランプの作動に異常がないか又，油漏れがないか確認してからエンジンを止めます。
5. 再びオイルゲージで油量を確認し，不足していれば補給してください。



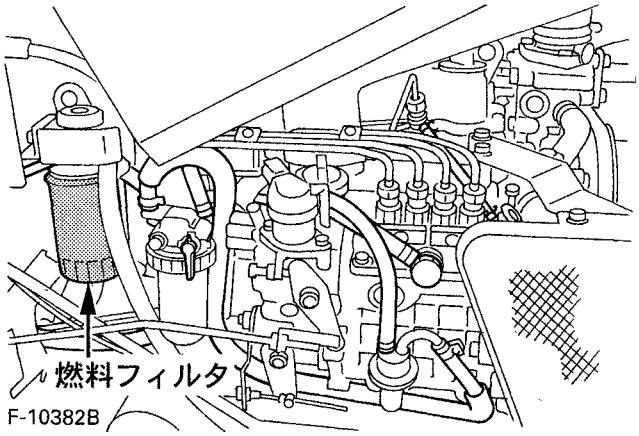
補　足

＊ オイルフィルタは，カートリッジタイプです。このオイルフィルタが詰まると，バイパスバルブが作動して，オイル系統からこのオイルフィルタを通らずに送油されるので，ろ過されないオイルで潤滑が行なわれます。
これを防ぐため，オイルフィルタの詰まりがないように，規定時間で，新しい純正部品のカートリッジと交換してください。

400時間ごとの点検・整備

■燃料フィルタカートリッジの交換

1. フィルタレンチでフィルタを外してください。
2. 組付けはパッキンに燃料を薄く塗布してからフィルタレンチを使用せず手で確実に締付けてください。
3. 空気抜きを行なってください。
（詳細は［**必要に応じた点検・整備**］の［**燃料の空気抜きのしかた**］の項を参照してください。）



重　要

＊ 組付けるときは，チリやホコリが付着しないように注意しましょう。
＊ カートリッジ交換後は，必ず空気抜きをしてください。（詳細は［**必要に応じた点検・整備**］の［**燃料の空気抜きのしかた**］の項を参照してください。）

600時間ごとの点検・整備

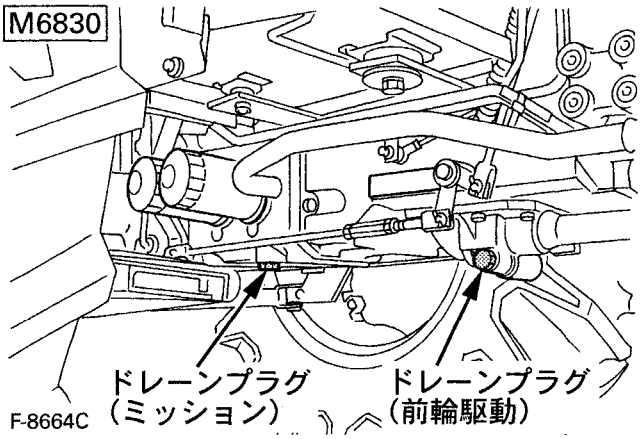
■ミッションオイルの交換

注　意

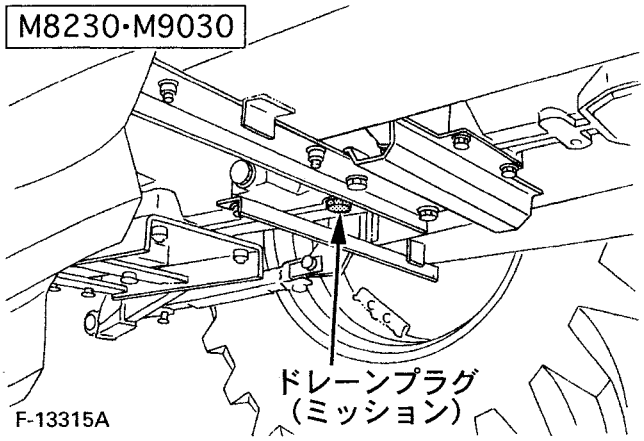
＊ 交換をするときは，必ずエンジンを止めて十分冷えてから行なってください。ヤケドのおそれがあります。

1. ドレーンプラグを外してオイルを抜きます。

M6830

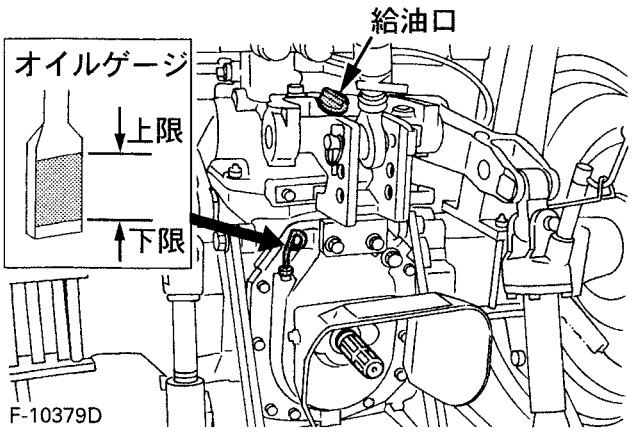


M8230･M9030



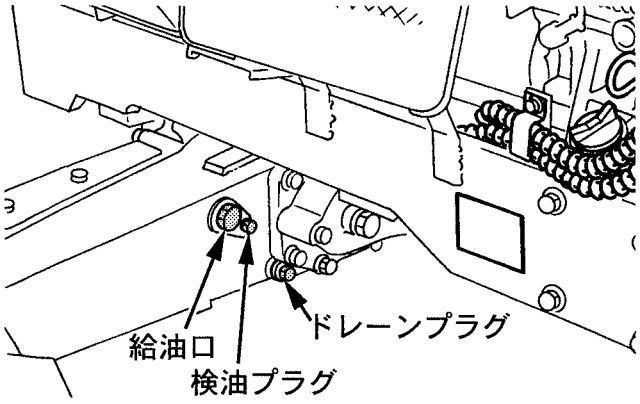
2. ミッションオイルを給油口から規定量まで入れてください。

3. エンジンを始動して２～３分運転してから止め，再度油量を点検して規定量まで補給してください。



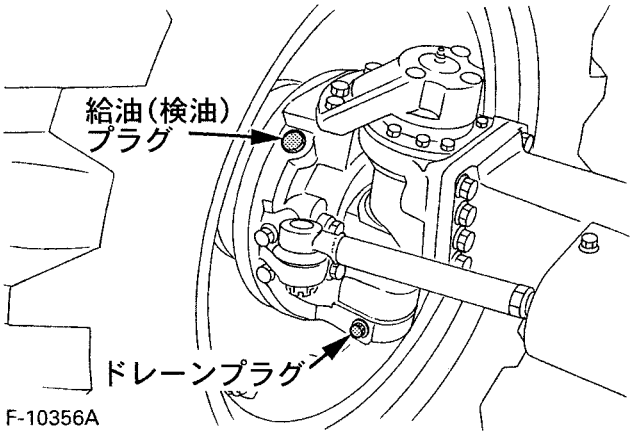
■前部デフケースのオイル交換

1. ドレーンプラグと給油プラグをはずしてオイルを抜きます。
2. 給油口から新しいオイルを規定量（検油プラグ位置まで）入れてください。



■前輪ケース左・右のオイル交換

1. 左右のドレーンプラグと給油プラグ，空気抜きプラグを外してオイルを抜きます。
2. 油口から新しいオイルを規定量（給油口からあふれるまで）入れてください。



600時間ごとの点検・整備

■前部デフケース前後遊びの調整

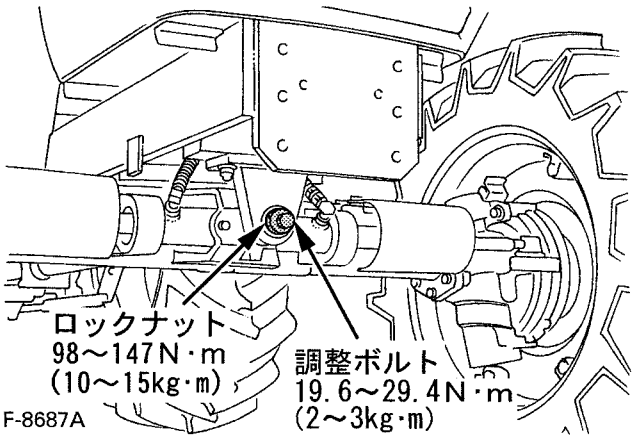
前部デフケース支持部の調整が悪いと，前輪が著しく振れたり，ハンドルに振動が伝わってきます。

◆点検

前後方向のガタを点検し，ガタがあれば調整します。

◆調整

前輪タイヤ（両輪）を持上げて，ロックナットをゆるめ，調整ボルトを締込み，ガタをゼロに調整します。



800時間ごとの点検・整備

■エンジンバルブクリアランスの点検

購入先で交換及び点検をしてもらってください。

1年ごとの点検・整備

■エアクリーナエレメントの交換

エレメントの交換は1年間使用後，又は6回掃除ごとに交換が必要です。
（**[100時間ごとの点検・整備]の[エアクリーナエレメントの清掃]**の項を参照。）

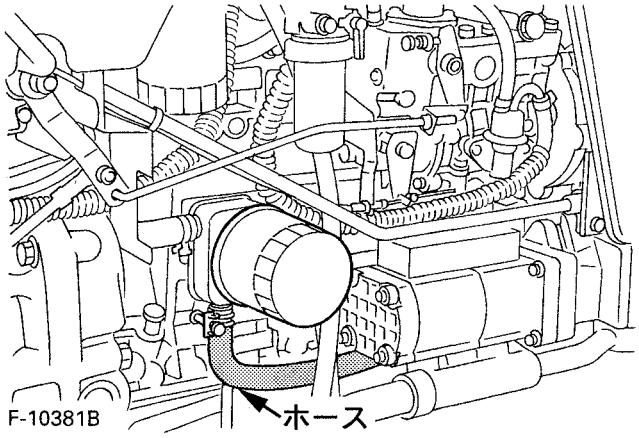
2年ごとの点検・整備

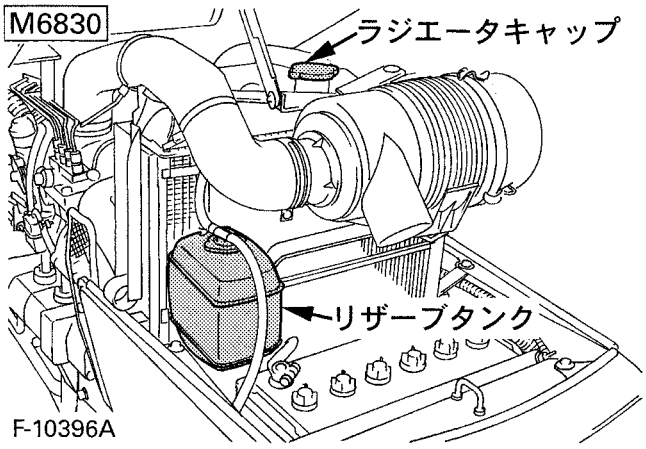
■冷却水の交換

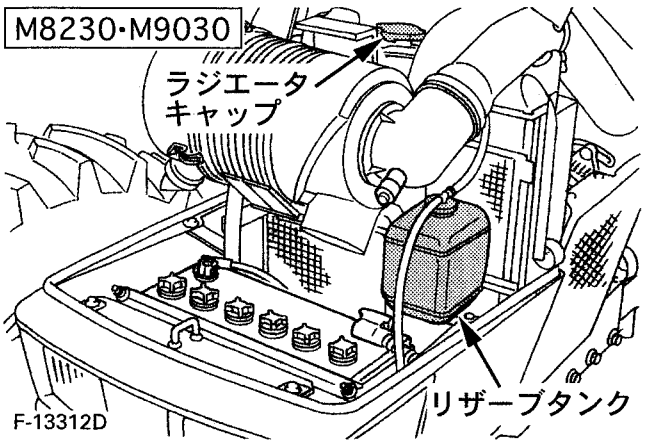
注 意

＊ ラジエータキャップは，エンジン運転中及び停止直後に開けると，熱湯が噴出しヤケドをすることがあります。停止後30分以上たって，冷えてから最初のストップ位置までキャップをゆっくり回し，余圧を抜いてからキャップを外してください。

1. ラジエータホースを外し，ラジエータキャップを開き，冷却水を全部出します。
   リザーブタンクの排水は，ラジエータキャップのオーバフローパイプを外し排水します。







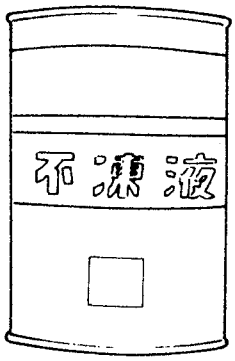
2. 水道の水でラジエータ内を洗浄し，ホースとオーバフローパイプを取付けます。
3. ラジエータ及びリザーブタンクに冷却水を注入したのち，ラジエータキャップを確実に締めてください。

重　要

＊ 冷却水補給後エンジンを運転し，リザーブタンク内の量及びラジエータの給水口のすぐ下まで冷却水があることを確認してください。
　そうでないと，冷却水の量が不足しエンジンの破損につながるおそれがあります。

◆ 不凍液の使い方

不凍液は水の凍結温度を下げる効果をもっており，冷却水凍結によるシリンダやラジエータの損傷を防ぎます。
冬期気温が0℃以下になるようなときは，必ず不凍液（ロングライフクーラント）を清水と混合しラジエータ及びリザーブタンクに補給するか又は，冷却水を完全に排水してください。
〔工場出荷時は，不凍液（ロングライフクーラント）が入っています。〕



Z-1007

2年ごとの点検・整備

重 要

* 冷却水には不凍液(ロングライフクーラント)を 50% 入れ，よく水と混ぜ合せてからお使いください。
* 不凍液の混合比を誤ると，冬期には冷却水の凍結，夏期にはオーバヒートの原因になります。
* 不凍液を使用する場合は，ラジエータ保浄剤を投入しないでください。不凍液には防錆剤が入っていますので，保浄剤を混入すると沈積物が生成することがあり，エンジン部品に悪影響を与えます。
* クボタ不凍液（ロングライフクーラント）の有効使用期間は２年間です。必ず２年で交換してください。

不凍液の保証不凍結温度

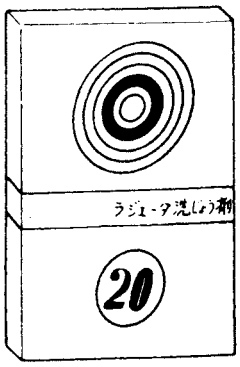
原液混合比(%)	10	15	20	25	30	35	40	45	50	55
保証不凍結温度（℃）	-4	-5	-8	-11.5	-15	-20	-25	-30	-35	-40

■ラジエータの洗浄

洗浄には，ラジエータ洗じょう剤を使用すれば，水アカなどきれいに洗浄できます。

* ２年使用ごと
* 不凍液を混入するとき
* 不凍液混入から水だけに変えるとき

などに使用してください。



Z-1009

■ラジエータホースの交換

■パワーステアリングホースの交換

■燃料パイプの交換

■アシストシリンダホースの交換(オプション)

購入先で点検及び交換をしてもらってください。

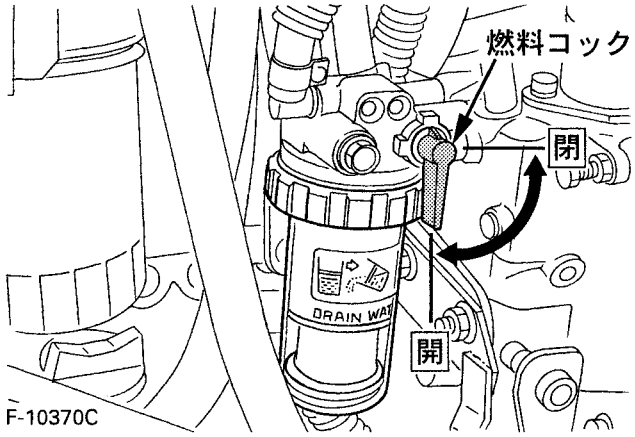
必要に応じた点検・整備

■燃料の空気抜きのしかた

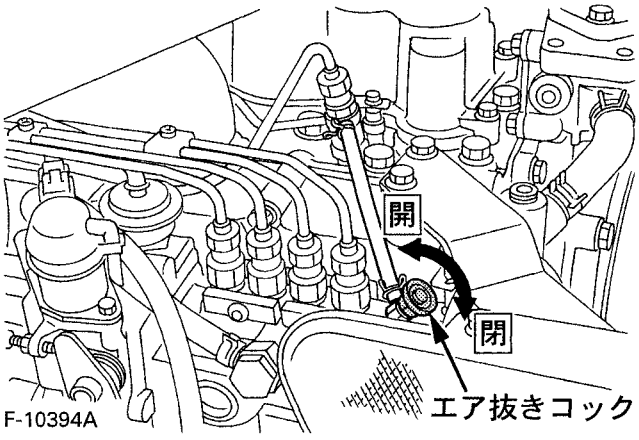
燃料の空気抜きは，次のようなときに行なう必要があります。

・セパレータより排水したとき
・燃料フィルタ及び配管を取外したとき
・燃料切れが起きたとき
・トラクタを長時間使用しなかったとき

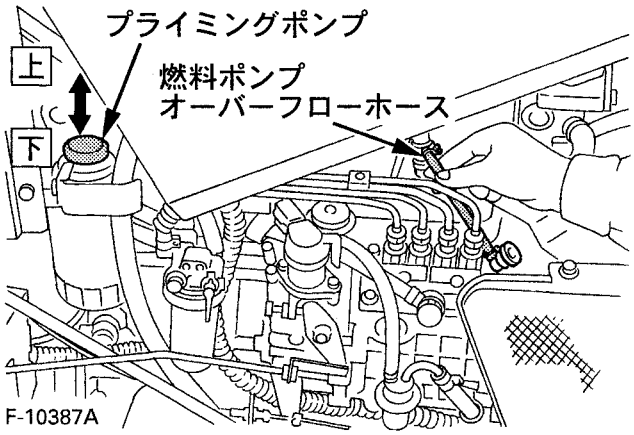
1. タンクに燃料を満たします。
2. 燃料コックが［開］になっているか確認します。



3. 燃料噴射ポンプのコックを開きます。

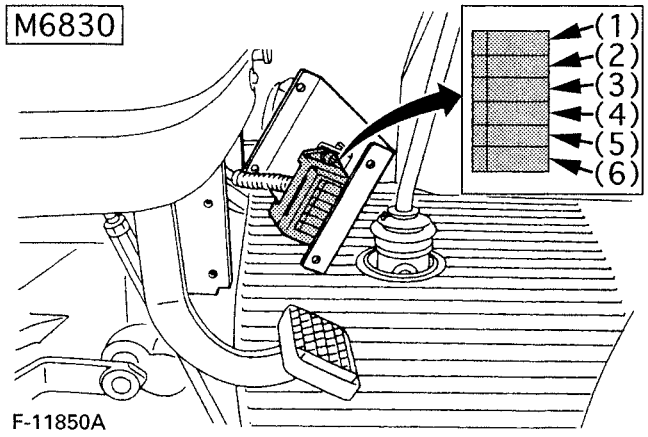


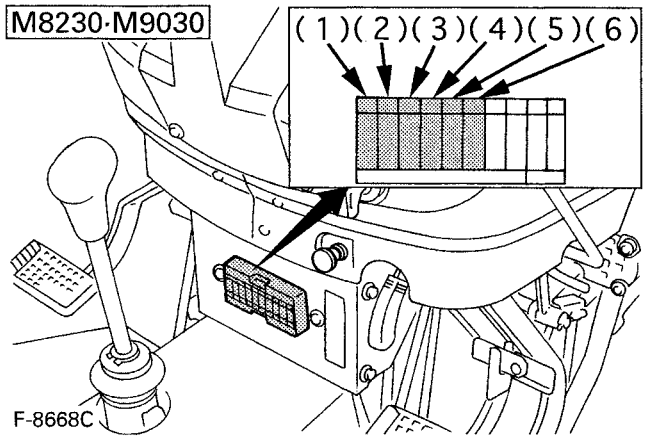
4. 燃料フィルタ上部のプライミングポンプを上下に動かし，燃料タンクより燃料を吸い上げます。
5. 燃料回路内に空気が入っていると，プライミングポンプの操作が軽く，空気が抜けると重くなります。
   また，燃料ポンプオーバフローパイプを指でつまんでいると，燃料が流れ出すと指に脈動を感じます。
   この状態になれば，空気抜きは完了です。



6. アクセルレバーを最高回転位置でエンジンを始動し，アクセルレバーを中速回転（約1500rpm）位置に戻します。
   （スタータを連続10秒間回しても始動しない場合は，30秒間休み，この操作を再度1～2回くり返します。）
7. エンジンをふかす操作をし，燃料系統の中に残っている微量のエアーを追い出します。
8. 以上の操作後，まだエアーが抜けずにエンストする場合は，上記の1～7の手順で再度エアー抜きを行います。

■ヒューズの交換



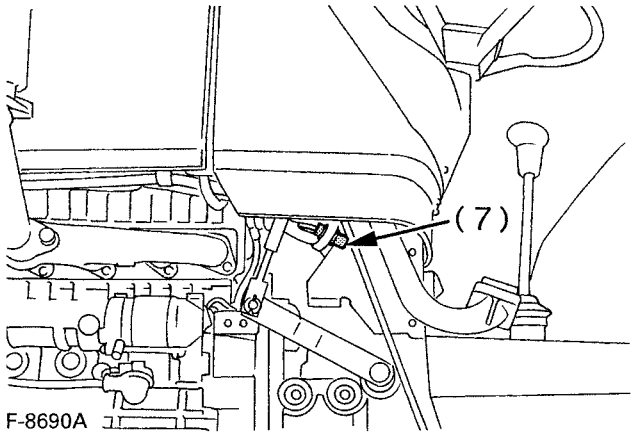


1. ヒューズボックスのふたを外す。
2. ヒューズを外す。
3. 切れたものと同容量のヒューズと交換する。

重　要

＊ ヒューズを交換してもすぐ切れてしまう場合は，針金や銀紙などで代用せず，購入先で点検，修理してください。

■スローブローヒューズの交換



スローブローヒューズは，配線を保護するためのものです。もし切れた場合は，切れた原因を必ず調べ，決して代用品を使用せず，純正部品を使用してください。

番号	容量（A）	保護回路
(1)	20	キースイッチ，AC 電源
(2)	15	ヘッドライト，尾灯，ホーン
(3)	10	作業灯（前）
(4)	10	作業灯（後）
(5)	15	電源取出
(6)	20	電源取出
(7)	50 スローブローヒューズ	充電，始動

■ランプ類の交換

1. ヘッドランプは，ランプのボディ後部からバルブを取出して交換します。
2. その他のランプはレンズを外し，バルブを交換します。

ヘッドランプ	45 ／ 45 W
方向指示灯（前）	21 W
方向指示灯（後）	21 W
車　幅　灯	5 W
作業灯（前）	35 W
作業灯（後）	35 W
尾灯・制動灯	10 ／ 21 W
後退灯	21 W

注　意

＊ シートをかける場合は，マフラやエンジン自体の冷却状態を確認してからにしてください。
火災を起こす原因になります。

長期格納時の手入れ

トラクタを長い間使用しない場合は，次の要領で整備してから格納しましょう。

1. 不具合箇所は整備してください。
2. エンジンオイルを交換し，2000 回転／分以上で 10 ～ 15 分間の防錆運転をし，各部にオイルをゆきわたらせてください。その後も１～２カ月ごとに同様に防錆運転をしてください。
3. 定期点検一覧表の項目を確認するようにしてください。
4. 車体のさびやすい部分には，グリースかオイルを塗っておいてください。
パワーステアリングシリンダのロッド部防錆のため、一ヶ月に一回、フルストロークさせるか、防錆油を塗布してください。
5. 冷却水は抜いておいてください。但し，オールシーズンタイプのクーラントであれば抜かなくても構いません。
6. 燃料コックを［閉］（OFF）にしておいてください。
7. クラッチハウジング底のドレーンプラグを外して，水が侵入していないことを確認してください。
8. タイヤの空気圧は，標準より少し多いめにしてください。
9. バッテリを本機から取外し風通しの良い冷暗所に保管してください。またトラクタに取付けたまま保管するときは必ずアース側（- 側）を外してください。
10. ウエイトは取外し，作業機は，外すか地面に降ろした状態にしてください。
11. 後輪の前後に車止めをしておいてください。
12. 各部の配線・バッテリコード・燃料配管などのキレツ・被覆の破れ・コードクランプの外れは，確実に点検・整備してください。
13. 格納中バッテリは，１カ月に一回充電器で完全充電するようにしましょう。
14. 格納場所は，周囲にワラなど燃えやすいものがない雨のかからない乾燥した場所を選定し，シートをかけるようにしましょう。
15. 燃料は満タンにしてください。空にしておくと水滴ができ，タンク内のサビの原因になります。

長期格納時の手入れ

重　要

＊ 長期格納時，洗車するときはエンジンを止めてから行なってください。
もしエンジンをかけて行なうときはエアクリーナの吸入口から水が入らないよう注意してください。
もし水が入ると故障の原因となります。
＊ 灯火類は消灯した状態で洗車してください。
もし点灯した灯火類に直接水がかかるとランプのバルブが切れるおそれがあります。
＊ 格納時は，必ず［切］の位置でキーを抜いておいてください。

不調と処置

エンジンの不調と処置

もしエンジンの調子が悪い場合があれば，次の表により診断し，適切な処置をしてください。

現　象	原　因	処　置
始動困難な場合	(1) 燃料が流れない。	●燃料タンクを点検し，沈殿している不純物や水分を除く。 ●燃料フィルタを点検し，汚れていれば交換する。
	(2) 燃料送油系統に，空気や水が混入している。	●パイプ・プラグ・袋ナット及び締付けバンドを点検し，ゆるみがあれば締め，損傷があれば新品と交換又は補修する。 ●空気抜きをする。 （[必要に応じた点検・整備] の項を参照してください。）
	(3) 寒冷時にオイル粘度が高く，エンジン自体の回転が重い。	●ラジエータに熱湯をそそぐ。 ●気温によってオイルの使い分けをする。 （冬期は D10W30 を使用）
	(4) バッテリがあがり気味で，回転力が弱くなって圧縮を越す勢いがない。	●バッテリを充電する。
出力不足の場合	(1) 燃料不足	●燃料を補給する。 ●燃料系統を調べる。（特に空気混入に注意）
	(2) 燃料の流れ不足	●燃料フィルタの清掃をする。
	(3) エアクリーナの目詰まり	●エレメントを清掃する。
突然停止した場合	(1) 燃料不足	●燃料を補給する。 ●燃料系統を調べる。（特に空気混入に注意）
	(2) 燃料が流れない。	●燃料フィルタを点検し，汚れていれば交換する。
排気色が異常に黒い場合	(1) 燃料が悪い。	●良質の燃料に交換する。
	(2) エンジンオイルの入り過ぎ。	●正規のオイル量にする。
	(3) エアクリーナの目詰まり	●エレメントを清掃する。
水温計の指針がレッドゾーン付近を示すとき	(1) 冷却水が 125℃付近になったため。	●冷却水の量（不足）及び水漏れの点検 ●ファンベルトの張り（ゆるみ）の点検 ●フロントグリル，ラジエータ、インタクーラの防虫網にゴミの詰まりがないか点検する。
始動時青白煙が消えない	(1) 前の作業が長時間にわたるアイドリング運転で終わっている場合，又は冷機時アイドリング運転の繰り返しであった場合，マフラ内部に湿りが残っている。	●負荷をかけてマフラを十分に加熱する。冷機時アイドリング運転の繰り返し，及び，長時間にわたるアイドリング運転は極力避ける。
	(2) ノズル不良	●ノズルを点検する。
	(3) 燃料不良	●良質の燃料に交換する。

☆わからない場合は，購入先にご相談ください。

付表

主要諸元

■トラクタの主要諸元

（　　）内はB（倍速）仕様

型式名			M6830	M8230	M8230AT	M9030	M9030AT	M9030W
駆動方式			4輪駆動					
機体寸法	全長 mm（注）		3525	3790		3810	3790	3840
	全幅 mm		1740	1750	1850	1755	1850	1940
	全高 mm		2450	2490	2480	2490	2500	2530
	軸距 mm		2050	2250				
	輪距	前輪 mm	1335～1520	1335～1520				1535～1655
		後輪 mm	1320～1720	1300～1900	1270～1920	1300～1900	1270～1920 [ATストローク250]	1505～1985
	最低地上高 mm		490			500	490	530
質量（フロントウエイト無） kg			2150	2490(2510)	2530	2510(2530)	2550	2740(2760)
エンジン	機関型式		クボタV3300-M	クボタV3300-TM		クボタV3300-TIM		
	形式		水冷4サイクル4気筒立形ディーゼル（E-TVCS）					
			ノンターボ	ターボ		インタークーラ付ターボ		
	総排気量 L		3.318					
	出力／回転速度 kW(PS)／rpm		50.0(68.0)/2600	60.3(82.0)/2600		65.5(89.0)/2600		
	使用燃料		ディーゼル軽油					
	燃料タンク容量（L）		65	90				
	始動方式		セルモータ式（グロープラグ付）					
	バッテリ		105E41R-MF（メンテナンスフリー）					
タイヤ	前輪		9.5-24 6PR	9.5-24 6PR	9.5-24RC	11.2-24 6PR	9.5-24RC	12.4-24 6PR
	後輪		12.4-36 6PR	13.9-36 6PR	12.4-36 6PR	13.9-36 6PR	12.4-38 6PR	16.9-34 6PR
車体	クラッチ方式		乾式単板					
	制動装置		一系統左右独立（連結装置付），湿式ディスクブレーキ（機械式）					
	かじ取り方式		全油圧式パワーステアリング					
	差動方式		4ピニオンかさ歯車式					
	変速方式		フルシンクロ／シンクロシャトル					
変速段数			前後進12段					
走行速度 km/h		前進	0.38～31.9	0.40～33.5	0.27～32.8	0.40～33.5	0.28～34.0	0.43～34.6
		後進	0.40～33.3	0.40～33.2	0.27～32.5	0.40～33.5	0.28～33.7	0.43～34.3
最小旋回半径（ブレーキ使用時） m			3.0	3.2		3.3		
PTO	PTO回転速度（回転／分）		612（エンジン2600）	637（エンジン2600）				
	軸寸法 mm		JIS35					
作業機昇降位置	制御方式		ポジションコントロール，ドラフトコントロール，ミックスコントロール					
	装着方式		三点リンク JIS Ⅰ形，Ⅱ形	三点リンク JIS Ⅱ形				

注）全長は前輪タイヤ前端からロアーリンク後端までの寸法です。

主要諸元

■走行速度表

型式			M6830	M8230(B) M9030(B)	M9030 (W,WB)	M8230 AT	M9030 AT
タイヤサイズ			12.4 -36	13.9 -36	16.9 -34	12.4 -36	12.4 -38
	副変速	主変速	走行速度 (km/h)				
前進	超低速	1	0.38	0.40	0.43	0.27	0.28
		2	0.52	0.52	0.55	0.36	0.38
		3	0.79	0.95	1.01	0.66	0.69
		4	1.18	1.29	1.37	0.90	0.93
	低速	1	2.73	2.40	2.55	2.34	2.43
		2	3.66	3.13	3.33	3.06	3.17
		3	5.62	5.69	6.05	5.57	5.77
		4	8.37	7.71	8.20	7.55	7.82
	高速	1	9.8	9.9	10.5	9.64	10.0
		2	13.2	12.9	13.7	12.6	13.0
		3	20.2	23.4	24.9	22.9	23.7
		4	※ 31.9	※ 33.5	※ 34.6	※ 32.8	※ 34.0
後進	超低速	1	0.40	0.40	0.43	0.27	0.28
		2	0.54	0.52	0.55	0.36	0.37
		3	0.83	0.94	1.00	0.66	0.68
		4	1.23	1.28	1.36	0.89	0.92
	低速	1	2.85	2.37	2.53	2.32	2.41
		2	3.82	3.10	3.30	3.03	3.14
		3	5.87	5.64	6.00	5.52	5.72
		4	8.74	7.64	8.12	7.48	7.75
	高速	1	10.3	9.8	10.4	9.55	9.90
		2	13.8	12.8	13.5	12.5	12.9
		3	21.1	23.2	24.7	22.7	23.5
		4	※ 33.3	※ 33.2	※ 34.3	※ 32.5	※ 33.7

エンジン回転数 2600rpm, 但し※印はエンジン最高回転時。

標準付属品

品 名	M6830	M8230・M9030 (W,AT,WB)	備考
スローブローヒューズ (50A)	1	1	
トップリンクウシロピン, アッシ	1	1	トップリンクウシロピン, セットピンアッシ
トップリンクウシロピン	1	-	JIS Ⅰ用
セットピン	1	-	
チョウセイカラー (19.3 × 25.4)	1	-	
ワリピン	2	2	
カラー	2	-	JIS Ⅱ用
カラー	2	-	JIS Ⅰ用
ストッパ	2	注(1)2	
バネザガネ (M14用)	2	注(1)2	
取扱説明書	1	1	
保証書	1	1	
メンテナンスブック	1	1	
取扱説明確認カード	1	1	

注(1): M9030W, AT, WBの標準付属品にはストッパ、バネザガネ (M14用) は含まれていません。

アタッチメント一覧表（純正アタッチメントを使いましょう）

分類	品番	品名	適応型式			備考
			M6830	M8230 (AT, B)	M9030 (W, AT, WB)	
ウエイト関係部品	99651-1200-0	前部ウエイトアッシ（取付け台含まず）	—	—	○	M9030W のみ ウエイト 25kg × 4 枚 ボルト 4 枚用
	3F860-1210-0	前部ウエイトアッシ（取付け台含まず）	—	—	○	M9030W のみ ウエイト 45kg × 4 枚 ボルト 4 枚用
	3A259-1700-0	前部ウエイト取付台アッシ	—	—	○	M9030W のみ 取付台ボルト含む
	99651-1211-0	前部ウエイト単体	○	○	○	25kg
	3F860-1208-0	前部ウエイト単体	○	○	○	45kg
	99651-1213-0	ボルト（前部ウエイト）	○	○	○	ウエイト 4 枚用
	99651-1212-0	ボルト（前部ウエイト）	○	○	○	ウエイト 6 枚用
	35452-2181-0	ボルト（前部ウエイト）	○	○	○	ウエイト 8 枚用
	3A259-2179-0	ボルト（前部ウエイト）	○	○	○	ウエイト 10 枚用
	99881-1500-0	後輪ウエイトアッシ 板金ディスク	○	○	○	ウエイト 50kg × 4 個 取付けボルト
	99871-1500-0	後輪ウエイトアッシ 鋳物ディスク	—	—	○	ウエイト 50kg × 4 個 取付けボルト M9030W のみ
	99881-1511-0	後輪ウエイト単体	○	○	○	50kg
油圧関係	3A259-9791-0	アシストシリンダキット	○	—	—	
	3A159-9791-0	アシストシリンダキット	—	○	○	
	3A159-9018-0	フローコントロールバルブキット	—	○	○	M8230/9030 (W, AT, WB) のみ
PTO 関係	3A259-9771-0	PTO(540/1000) キット	○	—	—	
	3A159-9771-0	PTO(540/1000) キット	—	○	○	
外装部品	3A259-9788-0	トレーラ用ハーネスアッシ（メス用）	○	○	○	トレーラ用 オスカプラ 33740-9751-0
	99677-7900-0	フロントウインド，キット (M68)	○	—	—	
	99677-7901-0	フロントウインド，キット (M90)	—	○	○	

注）1. ウエイト 25Kg と 45Kg は併用して組付けできません。
2. フローコントロールバルブは１連目又は２連目の位置に装着ください。また装着した場合補助コンバルブは最大２連しか装着できません。

インプルメント一覧表

注 意

＊ トラクタ後部用作業機を装着したとき、かじ取り車輪（前輪）にかかる荷重が総重量の２０％以上になるようにバランスウエイトを装着してください。

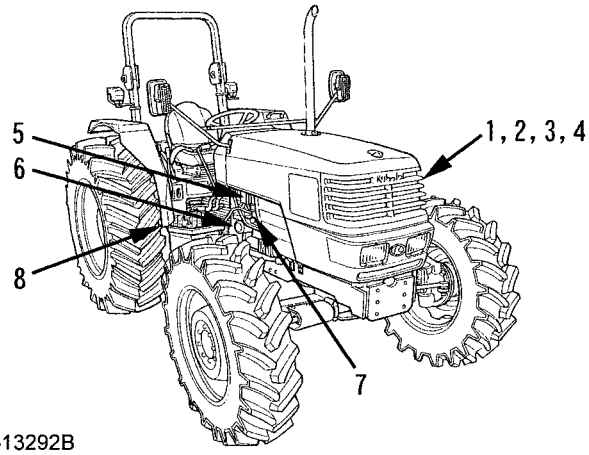
＊ 装着可能な最大ウエイトを装備してもかじ取り車輪（前輪）にかかる荷重が総重量の２０％以上を確保できない作業機は装着しないでください。

＊ フロントローダを使用するときは、安全性を高めるためトラクタ後部に作業機や適切なウエイトを装備してください。（詳細は購入先にご相談ください。）

◆ローダー

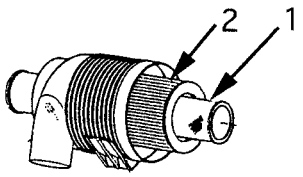
機種名	品番	品名	M6830	M8230(AT,B)	M9030(W,AT,WB)
ローダー	L1143-0000-0	MLH6830	○		
	L1144-0000-0	MLH9030		○	○

主な消耗部品一覧表（純正部品を使いましょう）



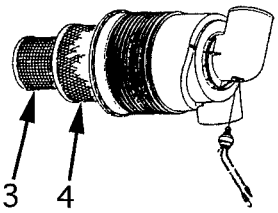
F-13292B

エアクリーナエレメント



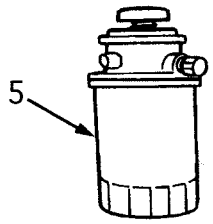
(M6830)

エアクリーナエレメント



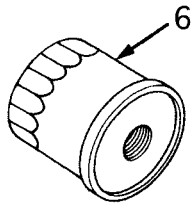
(M8230・9030)

フューエルフィルタ
カートリッジ



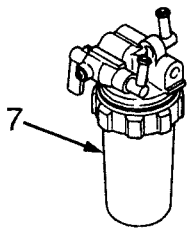
F-10244A

エンジンオイルフィルタ
カートリッジ



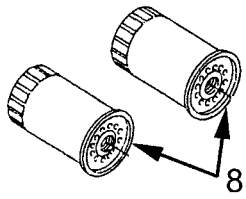
F-6342A

セパレータエレメント



F-9086A

油圧オイルフィルタ
カートリッジ



図番	品名	品番	図番	品名	品番
1	エアクリーナエレメント（インナー）(M6830)	3A111-1913-0	5	フューエルフィルタカートリッジ	16631-4356-2
2	エアクリーナエレメント(M6830)	59800-2611-0	6	エンジンオイルフィルタカートリッジ	1C020-3243-0
3	エアクリーナエレメント（インナー）(M8230・M9030)	55231-2615-0	7	セパレータエレメント	15831-4338-0
4	エアクリーナエレメント(M8230・9030)	59700-2611-2	8	油圧オイルフィルタカートリッジアッシ	33960-8263-0

補助コン一覧表

分類	品番	品名	M6830	M8230/9030(W,AT,WB)	
			2連目	2連目	3連目
補助コンバルブ関係	3A259-9019-0	単複切換バルブ レバーキット	○	−	−
	3A159-9019-0	単複切換バルブ	−	○	○
	3A259-9016-0	複動バルブ，レバーキット	○	−	−
	3A159-9016-0	複動バルブ	−	○	○
	3A259-9017-0	フローティングバルブ， レバーキット	○	−	−
	3A159-9017-0	フローティングバルブ	−	○	○
	3A259-9025-0	セルフキャンセルバルブ， レバーキット	○	−	−
	3A159-9025-0	セルフキャンセルバルブ	−	○	○
	3A159-9714-0	レバーキット（2連目用）	−	○	−
	3A159-9710-0	レバーキット（3連目用）	−	−	○
	35861-8219-0	カプラオス、アッシ	○	○	○

注）1. M6830にフローティングバルブを装着する場合，1連目の位置に必ず組み付けてください。
2. M8230/M9030(W,AT,WB）にフローティングバルブを装着する場合，2又は3連目の位置に必ず組み付けてください。
3. M8230/M9030(W,AT,WB)の2連目，3連目のバルブを装着する場合，レバーキットが必要です。

農用トラクター（乗用型）用安全キャブ及び安全フレーム検査成績表

型式名：クボタ　ＳＦＭ－Ｆ６８

合格番号：２０１０１７

種　　類：安全フレーム（２柱式）

依頼者名：株式会社　クボタ
住　　所：大阪府大阪市浪速区敷津東１丁目２番47号

Ⅰ　装着可能トラクター

1．型　式　名　※

クボタ　M6830

2．主要諸元（最大トラクター）

■型　式　名		：	クボタ　M6830
■種　類		：	４輪駆動
■質　量（フレーム付き）	kg	：	2236
■軸　距	mm	：	2050
■機関出力／回転速度	kW{PS}/rpm	：	50.0{68}/2600

Ⅱ　構造の概要

1．構造及び装着法

供試フレームは，鋼管及び鋼板を主材としたボルト締めによる組立構造の２柱式であり，取付金具を介して後車軸ケース部にボルトで装着。

なお，格納等のためにフレーム上部を折曲げることができる。

2．主な装備

シートベルト（２点式）

3．主要寸法　※

■座席基準点から屋根部材（下面）までの高さ		cm：	114.5
■フートプレートから屋根部材（下面）までの高さ		cm：	161.5
■座席基準点上方76cmの高さにおけるフレームの内幅		cm：	71.0
■ステアリングホイールの中心高さにおける座席基準点上方のフレームの内幅		cm：	－
■戸口の幅	（上部）	cm：	－
	（中部）	cm：	－
	（下部）	cm：	－
■戸口の高さ	（フートプレートから）	cm：	－
■最低位ステップの高さ		cm：	54.0
■フレーム装着時のトラクターの全高	（屋根部材上面まで）	cm：	246.5
■フレームの全幅		cm：	101.0
■座席基準点上方76cmの高さにおける座席基準点からフレーム後部までの水平距離		cm：	38.5

※1．クボタ　M6830（タイヤサイズ：前輪 9.5R24 107 A8　後輪 13.6R36 127 A8）に装着時。
2．トラクターシートの銘柄型式：しげる工業株式会社，3A259-8501

4．主要材料

■主フレーム：ASTM A500 GRADE 8, ASTM A513 TUBING, ASTM A572 GRADE 50, ASTM A569
■装着ブラケット：ASTM A572 GRADE 50, SS 400
■組立・装着ボルト：ANSI B18.2.3.1M GR10.9, SCM 435

Ⅲ　検査成績

1．強度試験

1）水平負荷試験は，フレームの後部左側，側部右側，前部右側に対して実施。

■基準質量：2440 kg
■所要吸収エネルギー：後部負荷　3.42 kJ {349 kgf·m}
　　側部負荷　4.27 kJ {435 kgf·m}
　　前部負荷　0.85 kJ { 87 kgf·m}
■圧壊力：48.80 kN {4976 kgf}

2）試験後のフレームの永久変位

■後部（前方へ）：右側　6.5 cm　左側　10.0 cm
■側部（左側方へ）：9.0 cm
■上部（下方へ）：右側　-1.5 cm　左側　-3.0 cm

3）側部負荷試験時のフレームの最大変位と残留変位との差：8.5 cm

2．騒　音　※

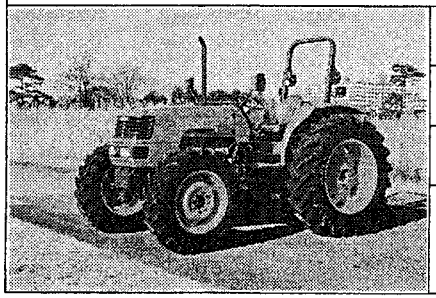
■91.5 dB(A)［クボタ　M6830］

※7.5km/hに近い速度段で，けん引負荷をかけた時のフレーム内騒音（運転者の耳もと）

Ⅳ　付　記

本フレームはＯＥＣＤ承認機（承認番号 4/0 564/2）であり，強度試験，分解調査については，ＯＥＣＤの試験成績を転用した。

農用トラクター（乗用型）用安全キャブ及び安全フレーム検査成績表



型式名：クボタ　ＳＦＭ－Ｆ９０

合格番号：２０１０１８

種　　類：安全フレーム（２柱式）

依頼者名：株式会社　クボタ
住　　所：大阪府大阪市浪速区敷津東１丁目２番47号

Ⅰ　装着可能トラクター

1．型　式　名　※

クボタ　M9030　　クボタ　M8230

2．主要諸元（最大トラクター）

■型式名		：	クボタ　M9030
■種類		：	４輪駆動
■質量（フレーム付き）	kg	：	2839
■軸距	mm	：	2250
■機関出力／回転速度	kW{PS}/rpm	：	65.5{89}/2600

Ⅱ　構造の概要

1．構造及び装着法

供試フレームは，鋼管及び鋼板を主材としたボルト締めによる組立構造の２柱式であり，取付金具を介して後車軸ケース部にボルトで装着。

なお，格納等のためにフレーム上部を折曲げることができる。

2．主な装備

シートベルト（２点式）

3．主要寸法　※

■座席基準点から屋根部材（下面）までの高さ		cm：	116.0
■フートプレートから屋根部材（下面）までの高さ		cm：	160.0
■座席基準点上方76cmの高さにおけるフレームの内幅		cm：	76.5
■ステアリングホイールの中心高さにおける座席基準点上方のフレームの内幅		cm：	－
■戸口の幅	（上部）	cm：	－
	（中部）	cm：	－
	（下部）	cm：	－
■戸口の高さ	（フートプレートから）	cm：	－
■最低位ステップの高さ		cm：	53.0
■フレーム装着時のトラクターの全高	（屋根部材上面まで）	cm：	253.0
■フレームの全幅		cm：	107.5
■座席基準点上方76cmの高さにおける座席基準点からフレーム後部までの水平距離		cm：	39.0

※1．クボタ　M9030（タイヤサイズ：前輪 12.4R24 119 A8　後輪 16.9R34 139 A8）に装着時。
2．トラクターシートの銘柄型式：しげる工業株式会社，3A259-8501

4．主要材料

■主フレーム：ASTM A500 GRADE B, ASTM A513 TUBING, ASTM A572 GRADE 50, ASTM A569
■装着ブラケット：ASTM A572 GRADE 50, SS 400
■組立・装着ボルト：ANSI B18.2.3.1M GR10.9, SCM 435

Ⅲ　検査成績

1．強度試験

1）水平負荷試験は，フレームの後部右側，側部左側，前部左側に対して実施。

■基準質量：2820 kg
■所要吸収エネルギー：後部負荷　3.95 kJ {403 kgf·m}
　　側部負荷　4.94 kJ {504 kgf·m}
　　前部負荷　0.99 kJ {101 kgf·m}
■圧壊力：56.40 kN {5751 kgf}

2）試験後のフレームの永久変位

■後部（前方へ）：右側　5.0 cm　左側　2.0 cm
■側部（右側方へ）：9.0 cm
■上部（下方へ）：右側　-2.5 cm　左側　-1.5 cm

3）側部負荷試験時のフレームの最大変位と残留変位との差：8.0 cm

2．騒音　※

■94.5 dB(A)　[クボタ　M9030]

※7.5km/hに近い速度段で，けん引負荷をかけた時のフレーム内騒音（運転者の耳もと）

Ⅳ　付記

本フレームはＯＥＣＤ承認機（承認番号 4/0 565/1）であり，強度試験，分解調査については，ＯＥＣＤの試験成績を転用した。

修理・取扱い・手入れなどでご不明の点は**まず，購入先へ** ご相談ください。

おぼえのため，記入されると便利です

購入先名	担当	電話（　　）　　ー

ご購入日	型式	車台番号

エンジン型式	機番	その他装着型式	機番

万一ご購入先でご不明の点がございましたら，下記にお問合わせください。

クボタ機械サービス株式会社

北海道営業技術推進部：電(011)662-2121	〒063-0061	札幌市西区西町北16丁目１番１号
秋田営業技術推進部：電(018)845-1644	〒011-0901	秋田市寺内字大小路207-54
仙台営業技術推進部：電(022)384-5162	〒981-1221	名取市田高字原182番地の１
東京営業技術推進部：電(048)862-1588	〒338-0832	さいたま市桜区西堀５丁目２番36号
新潟営業技術推進部：電(025)285-1263	〒950-0992	新潟市上所上１丁目14番15号
金沢営業技術推進部：電(076)275-1121	〒924-0038	白山市下柏野町956-１
名古屋営業技術推進部：電(0586)24-5111	〒491-0031	一宮市観音町１番地の１
大阪営業技術推進部：電(06)6470-5860	〒661-8567	尼崎市浜１丁目１番１号
岡山営業技術推進部：電(086)279-4511	〒703-8216	岡山市宍甘275番地
米子営業技術推進部：電(0859)39-3181	〒689-3547	米子市流通町430-12
株式会社四国クボタ 営業技術課：電(087)874-8500	〒769-0102	香川県高松市国分寺町国分字向647-３
福岡営業技術推進部：電(092)606-3725	〒811-0213	福岡市東区和白丘１丁目７番３号
熊本営業技術推進部：電(096)357-6181	〒861-4147	熊本県下益城郡富合町大字廻江846-１
本社営業技術部：電(072)241-7247	〒590-0823	堺市堺区石津北町64番地

株式会社クボタ

機械札幌事務所：電(011)662-2121	〒063-0061	札幌市西区西町北16丁目１番１号
機械東日本事務所：電(048)862-1121	〒338-0832	さいたま市桜区西堀５丁目２番36号
機械西日本事務所：電(06)6470-5970	〒661-8567	尼崎市浜１丁目１番１号
機械福岡事務所：電(092)606-3161	〒811-0213	福岡市東区和白丘１丁目７番３号

Kubota

安全宣言

安全はクボタの願い

このマークは「お客様」「ディーラ」「クボタ」の三者が
一体となって安全宣言を行うための統一マークです。

株式会社クボタ

〒556-8601
大阪市浪速区敷津東1丁目2番47号

品番　3A259-9971-5